

平成 22 年 度

学 習 要 項

修 士 課 程

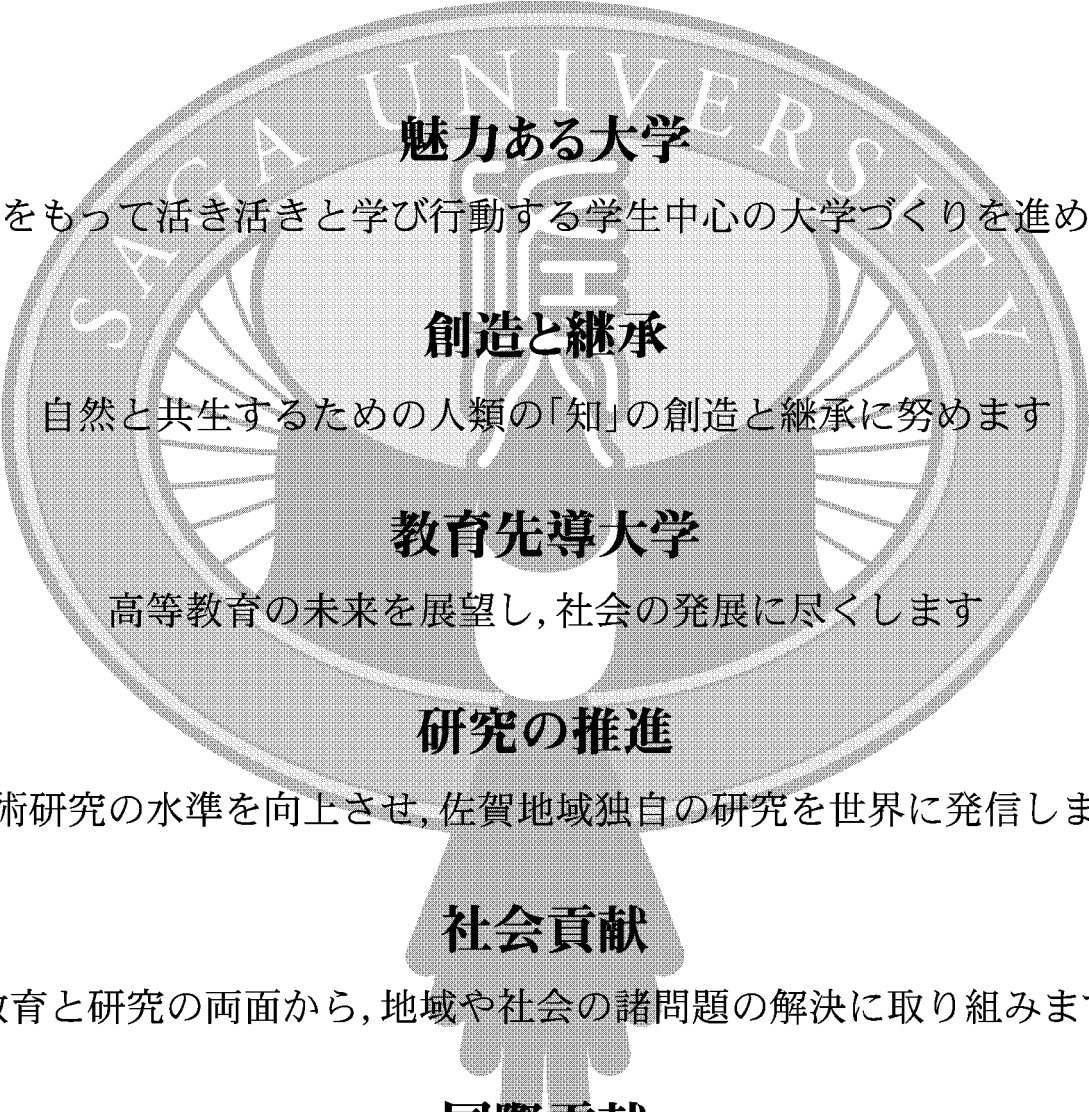
医 科 学 専 攻

看 護 学 専 攻

佐賀大学大学院医学系研究科

佐賀大学憲章

佐賀大学は、これまでに培った文、教、経、理、医、工、農等の諸分野にわたる教育研究を礎にし、豊かな自然溢れる風土や諸国との交流を通して育んできた独自の文化や伝統を背景に、地域と共に未来に向けて発展し続ける大学を目指して、ここに佐賀大学憲章を宣言します



魅力ある大学

目的をもって生き活きと学び行動する学生中心の大学づくりを進めます

創造と継承

自然と共生するための人類の「知」の創造と継承に努めます

教育先導大学

高等教育の未来を展望し、社会の発展に尽くします

研究の推進

学術研究の水準を向上させ、佐賀地域独自の研究を世界に発信します

社会貢献

教育と研究の両面から、地域や社会の諸問題の解決に取り組みます

国際貢献

アジアの知的拠点を目指し、国際社会に貢献します

検証と改善

不断の検証と改善に努め、佐賀の大学としての責務を果たします

修士課程学習要項 目 次

医 科 学 専 攻

〈頁〉

- i 医科学専攻授業科目開設表
- ii 医科学専攻履修モデル

I 医科学専攻の目的と履修案内

- 1 修士課程医科学専攻の理念，目的・目標，教育方針
各コースの目的
- 2 履修について
- 3 講義・演習・実習等について
成績評価について
- 4 研究計画と学位論文の審査について
- 6 オフィスアワーについて
諸規程について
その他，留意事項

II 授業科目の学習指針(シラバス)等

共通必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
11	人体構造機能学概論	2	前 水曜 1・2	増子 貞彦
14	病因病態学概論	2	前 火曜 1・2	木本 雅夫
18	社会・予防医学概論	2	前 木曜 1・2	市場 正良
21	生命科学倫理概論	1	前 火曜 1	小泉 俊三

系必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
23	分子生命科学概論	2	前 集中	出原 賢治
25	臨床医学概論	2	前 金曜 3	藤本 一真
27	総合ケア科学概論	2	前 集中	堀川 悦夫
28	各コース研究法	2	通年	各指導教員
29	各コース研究実習	8	通年	各指導教員

専門選択科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉			〈教科主任〉
31	人体構造実習	1	前	木曜	3・4	増子 貞彦
33	病院実習	1	前	金曜	1・2	長澤 浩平
35	医用統計学特論	1	前	火曜	2	竹生 政資
37	医用情報処理特論	1	前	月曜	2	竹生 政資
39	実験動物学特論	1	前	月曜	1	北嶋 修司
41	実験・検査機器特論	1	前	水曜	1	高崎 洋三
43	バイオテクノロジー特論	1	前	集中		副島 英伸
45	解剖学特論	1	後	月曜	1	増子 貞彦
47	生理学特論	1	前	木曜	1・2	熊本 栄一
49	分子生化学特論	1	後	集中		出原 賢治
51	微生物学・免疫学特論	1	前	火曜	3	木本 雅夫
53	薬物作用学特論	1	後	月曜	2	熊本 栄一
55	病理学特論	1	後	月曜	1	徳永 藏
57	法医学特論	1	前	月曜	4	小山 宏義
59	環境・衛生・疫学特論	1	前	火曜	4	市場 正良
61	精神・心理学特論	1	後	月曜	3	山田 茂人
63	遺伝子医学特論	1	後	月曜	2	吉田 裕樹
65	周産期医学特論	1	後	月曜	4	濱崎 雄平
67	高齢者・障害者の生活環境 (道具と住宅) 特論	1	前	水曜	3	松尾 清美
69	リハビリテーション医学特論	1	前	月曜	4	浅見 豊子
71	健康スポーツ医学特論	1	前	集中		田中恵太郎
73	緩和ケア特論	1	前	集中		佐藤 英俊
74	心理学的社会生活行動支援特論	1	前	火曜	5・6	堀川 悦夫
76	高齢者・障害者生活支援特論	1	前	月曜	3	松尾 清美
78	地域医療科学特論	1	前	月曜	5	小泉 俊三
80	アカデミックリーディング	1	後	木曜	3	池田 豊子

看護学専攻

〈頁〉

i 看護学専攻授業科目開設表

I 看護学専攻の目的と履修案内

- 81 修士課程看護学専攻の理念，目的・目標，教育方針
履修について
- 82 講義・演習・実習等について
成績評価について
- 83 研究計画と学位論文の審査について
- 85 オフィスアワーについて
諸規程について
その他，留意事項

II 授業科目の学習指針(シラバス)等

必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
90	看護学研究法演習	2	通年	各指導教員
91	看護学特別研究	12	通年	各指導教員

選択必修科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
93	看護理論	2	前 月曜 1・2	幸松美智子
95	看護倫理	2	後 火曜 2	藤田 君支
97	看護研究概論	2	前 木曜 4	齋藤ひさ子
99	看護学教育概論	2	後	井上 範江
101	看護管理	2	前 月曜 4・5	井上 範江

専門選択科目

〈頁〉	〈科目名〉	〈単位数〉	〈開講時期・曜日・時限〉	〈教科主任〉
103	看護援助学特論	1	前 木曜 2	井上 範江
105	看護機能形態学特論	1	後 水曜 3・4	河野 史
107	急性期看護学特論	1	前 火曜 2	安田加代子
109	慢性期看護学特論	1	前 火曜 2	大田 明英
111	母性看護学特論	1	前 木曜 3	齋藤ひさ子
113	小児看護学特論	1	前 火曜 3	幸松美智子
114	母子看護展開論	1	通 金曜	齋藤ひさ子
116	老年看護学特論	1	後 火曜 3	藤田 君支
118	地域看護学特論	1	後 月曜 5	新地 浩一
120	在宅看護学特論	1	後 月曜 3・4	木村 裕美
122	国際看護学特論	1	後 月曜 4	新地 浩一
124	精神看護学特論	1	後 水曜 5	山川 裕子
126	看護統計学演習	1	前 集中	齋藤ひさ子
128	看護教育方法論	1		未 定
130	がん看護学特論	1	前 火曜 3	安田加代子
132	実践課題実習	2	通年	各指導教員

III 講座等研究室概要(基礎医学系)

〈頁〉

分子生命科学講座

- 133 分子遺伝学・エピジェネティクス分野
- 134 分子医化学分野
- 135 免疫学分野
- 136 生体高分子学分野
- 137 細胞生物学分野
- 138 生体機能制御学分野

生体構造機能学講座

- 139 組織・神経解剖学分野
- 140 器官・細胞生理学分野
- 141 神経生理学分野

病因病態科学講座

- 142 病態病理学分野
- 143 診断病理学分野
- 144 微生物学・寄生虫学分野

社会医学講座

- 145 環境医学分野
- 146 予防医学分野

地域包括医療学系

- 147 認知神経心理学分野
- 148 リハビリテーション工学分野
- 149 医療教育学
- 150 医療情報学

III 講座等研究室概要(臨床医学系)

〈頁〉

151	内科学講座 膠原病・リウマチ内科学分野
152	内科学講座 皮膚科学分野
153	内科学講座 消化器内科学分野，光学医療診療部
154	内科学講座 循環器内科学分野
155	一般・消化器外科学講座
156	泌尿器科学講座
157	脳神経外科学講座
158	胸部・心臓血管外科学講座
159	形成外科
160	リハビリテーション部
161	放射線医学講座
162	精神医学講座
163	産科婦人科学講座
164	小児科学講座
165	眼科学講座
166	耳鼻咽喉科学講座
167	歯科口腔外科学講座
168	麻酔・蘇生学講座
169	手術部，集中治療部

附属病院・施設等

170	総合分析実験センター 生物資源開発部門
171	薬剤部
172	総合診療部

III 講座等研究室概要(看護学専攻)

〈頁〉

173	看護基礎科学講座
174	成人・老年看護学講座
176	母子看護学講座
177	地域・国際保健看護学講座

IV 佐賀大学医学部建物配置図

179	院生棟，臨床研究棟，基礎研究棟平面図
184	看護学科棟平面図
187	校舎講義棟平面図
189	臨床講堂平面図
190	附属図書館平面図
191	附属病院各診療科等配置図

医 科 学 専 攻

医科学専攻 授業科目開設表

区 分	授 業 科 目	開講時期	必修選択の区分	授 業 を 行 う 年 次	単 位 数			備 考
					講義	演習	実習	
必修科目 共通	人体構造機能学概論	前	必修	1	2			7単位を修得
	病因病態学概論	前	必修	1	2			
	社会・予防医学概論	前	必修	1	2			
	生命科学倫理概論	前	必修	1	1			
系必修科目	分子生命科学概論	前	必修	1	2			どれか1つの系区分12単位を修得
	基礎生命科学研究法※		必修	1～2		2		
	基礎生命科学研究実習※		必修	1～2			8	
	臨床医学概論	前	必修	1	2			※修士論文研究指導を通じて履修
	医療科学研究法※		必修	1～2		2		
	医療科学研究実習※		必修	1～2			8	
	総合ケア科学概論	前	必修	1	2			
	総合ケア科学研究法※		必修	1～2		2		
	総合ケア科学研究実習※		必修	1～2			8	
専門選択科目	人体構造実習	前	選択	1・2			1	11単位以上をコースワークに沿って選択, 修得
	病院実習	前	選択	1・2			1	
	医用統計学特論	前	選択	1・2	1			
	医用情報処理特論	前	選択	1・2	1			
	実験動物学特論	前	選択	1・2	1			
	実験・検査機器特論	前	選択	1・2	1			
	バイオテクノロジー特論	前	選択	1・2	1			
	解剖学特論	後	選択	1・2	1			
	生理学特論	前	選択	1・2	1			
	分子生化学特論	後	選択	1・2	1			
	微生物学・免疫学特論	前	選択	1・2	1			
	薬物作用学特論	後	選択	1・2	1			
	病理学特論	後	選択	1・2	1			
	法医学特論	前	選択	1・2	1			
	環境・衛生・疫学特論	前	選択	1・2	1			
	精神・心理学特論 ²⁾	後	選択	1・2	1			
	遺伝子医学特論 ²⁾	後	選択	1・2	1			
	周産期医学特論	後	選択	1・2	1			
	障害者・高齢者支援にみる差別と偏見	後	選択	1・2	1			
	高齢者・障害者の生活環境（道具と住宅）特論	前	選択	1・2	1			
	リハビリテーション医学特論	前	選択	1・2	1			
	健康スポーツ医学特論 ¹⁾	前	選択	1・2	1			
	緩和ケア特論 ^{1) 2)}	前	選択	1・2	1			
	心理学的社会生活行動支援特論	前	選択	1・2	1			
	高齢者・障害者生活支援特論 ²⁾	前	選択	1・2	1			
	対人支援技術特論Ⅰ	後	選択	1・2	1			
	対人支援技術特論Ⅱ	後	選択	1・2	1			
	地域医療科学特論	前	選択	1・2	1			
	アカデミックリーディング ²⁾	後	選択	1・2	1			

1) 公開授業 2) 看護学専攻との共通科目

《必修科目を含め合計30単位以上を修得すること》

3) 看護学専攻で開講される地域看護学特論も自由選択することができる。

医科学専攻 履修モデル

区分	基礎生命科学系 コース	医療科学系 コース	総合ケア科学系 コース	単位 数	必修・選択 (履修年次)	備 考
共通 必修 科目	人体構造機能学概論	人体構造機能学概論	人体構造機能学概論	2	必修（1）	7単位を修得
	病因病態学概論	病因病態学概論	病因病態学概論	2	必修（1）	
	社会・予防医学概論	社会・予防医学概論	社会・予防医学概論	2	必修（1）	
	生命科学倫理概論	生命科学倫理概論	生命科学倫理概論	1	必修（1）	
系 必修 科目	分子生命科学概論	臨床医学概論	総合ケア科学概論	2	必修（1）	12単位を修得
	基礎生命科学研究法※	医療科学研究法※	総合ケア科学研究法※	2	必修	
	基礎生命科学研究実習※	医療科学研究実習※	総合ケア科学研究実習※	8	必修	
				※修士論文研究指導を通じて履修		
専 門 選 択 科 目	人体構造実習	人体構造実習		1	選択	11単位以上 をコース ワークに 沿って選択, 修得
		病院実習	病院実習	1	選択	
	医用統計学特論	医用統計学特論	医用統計学特論	1	選択	
	医用情報処理特論	医用情報処理特論	医用情報処理特論	1	選択	
	実験動物学特論	実験動物学特論		1	選択	
	実験・検査機器特論	実験・検査機器特論		1	選択	
	バイオテクノロジー特論			1	選択	
	解剖学特論			1	選択	
	生理学特論			1	選択	
	分子生化学特論			1	選択	
	微生物学・免疫学特論	微生物学・免疫学特論		1	選択	
	薬物作用学特論	薬物作用学特論		1	選択	
	病理学特論	病理学特論		1	選択	
	遺伝子医学特論 ²⁾	遺伝子医学特論 ²⁾		1	選択	
		周産期医学特論		1	選択	
		法医学特論		1	選択	
		環境・衛生・疫学特論	環境・衛生・疫学特論	1	選択	
		精神・心理学特論 ²⁾	精神・心理学特論 ²⁾	1	選択	
		リハビリテーション 医学特論	リハビリテーション 医学特論	1	選択	
			健康スポーツ医学特論 ¹⁾	1	選択	
			緩和ケア特論 ^{1) 2)}	1	選択	
			高齢者・障害者生活 支援特論 ²⁾	1	選択	
			障害者・高齢者支援 にみる差別と偏見	1	選択	
			高齢者・障害者の生活 環境(道具と住宅)特論	1	選択	
			心理学的社会生活行動 支援特論	1	選択	
			対人支援技術特論Ⅰ	1	選択	
			対人支援技術特論Ⅱ	1	選択	
		地域医療科学特論	地域医療科学特論	1	選択	
		アカデミックリーディング ²⁾	アカデミックリーディング ²⁾	アカデミックリーディング ²⁾	1	

1) 公開授業 2) 看護学専攻との共通科目

看 護 学 専 攻

I 医科学専攻の目的と履修案内

修士課程医科学専攻の理念，目的・目標，教育方針

【医学系研究科の基本理念】

医学系研究科の基本理念「医学・医療の専門分野において，社会の要請に応えうる研究者および高度専門職者を育成し，学術研究を遂行することにより，医学・医療の発展と地域包括医療の向上に寄与することを旨とする」に基づき，次のような目的・目標と方針によって教育研究を行います。

【修士課程医科学専攻の教育目的】

医学部医学科以外の理系・文系 4 年制大学学部出身の多様なバックグラウンドを持つ学生を受け入れ，医学の基礎およびその応用法を体系的・集中的に修得させることにより，医学，生命科学，ヒューマンケアなど包括医療の諸分野において活躍する多彩な専門家を育成します。

【修士課程医科学専攻の教育目標】

教育成果として，次のことを達成目標とします。

1. 高い倫理観と豊かな人間性を育み，包括医療の諸分野でリーダーシップを発揮できる。
2. 医学の基礎とともに志す分野の専門的知識・技術を修得し，それを自らが発展させていく能力を身につける。
3. 科学的・論理的に思考し，問題解決方法のデザインと研究を遂行する能力を身につける。
4. 国内外に対し幅広い視野を持ち，研究・活動等の成果を発信する能力を身につける。

【修士課程医科学専攻の教育方針】

目的・目標の達成に向けて，次の方針のもとにカリキュラムを編成しています。

1. 共通必修科目で医学の基礎とともに生命科学倫理を学び，医学・医療の分野に必要な基本的な素養と人間性を育てます。
2. 基礎生命科学系，医療科学系，総合ケア科学系の履修コースにより，それぞれの専門的知識・技術と研究・実践能力の教育を行います。
3. 多彩な専門選択科目により，履修コースに応じた幅広い専門知識を修得させます。
4. 国内外の学会・研究会等に積極的に参加させ，幅広い視野と成果を発信する能力を育てます。

各コースの目的

医学，生命科学，ヒューマンケアなど包括医療の諸分野において活躍する多彩な専門職者を育成するために，次の 3 つのコースが設定されています。その 1 つを選択し，それぞれの目的と専門性に応じた履修カリキュラム（コースワーク）を学生ごとに設計し，履修していくことになっています。

〔基礎生命科学系コース〕

生命科学・基礎医学等の領域で研究者・指導者として活躍する人材を育成することを目的とし，そのための幅広い専門的知識と研究に必要な技術や研究遂行能力を修得します。

〔医療科学系コース〕

医療関連の諸分野で活躍する専門職者や研究者を育成することを目的とし，そのための幅広い専門的

知識と医療科学研究に必要な技術や研究遂行能力を修得します。

〔総合ケア科学系コース〕

ヒューマンケアなど包括医療のなかで活躍する専門職者や研究者を育成することを目的とし、そのための幅広い専門的知識と技術ならびに研究・実践遂行能力を修得します。

履修について

(1) 履修計画

入学後1週間以内に、修士課程2年間の履修計画を立てる必要があります。計画にあたっては、研究指導教員の助言の下に、各自の希望する進路および修学目的に適合した履修コースを決め、それに基づいて各自の学習目標や研究テーマ等に即した履修計画を立ててください。

修士課程2年間の履修計画は「履修届」として、学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

(2) 授業科目

授業科目は、「共通必修科目」、「系必修科目」および「専門選択科目」から成り、次の区分で構成されています。

〔共通必修科目〕：医科学の基本的教育を行い、基礎的素養を涵養することを目的とした科目群で、全てのコースで必修。

〔系必修科目〕：希望するコースを学び研究を行う上で必要な科目で、これに含まれている系別「研究法」および「研究実習」では、研究を行うために必要な研究デザイン（課題の抽出・設定、仮説・立証計略の立案、方策・方法の考案、手順・計画設計など）の理論と研究実践の技術等を学ぶ。

〔専門選択科目〕：コースおよび各自の目的に沿って専門分野の理解を深め、あるいは幅広い知識を修得するための科目群で、11科目以上を選択履修する。

(3) 修了要件

修士課程を修了するためには、2年以上在学し、下記の所要科目30単位以上を修得し、修士論文又は特定の課題についての研究の成果（以下「学位論文」という。）の審査に合格することが必要です。

共通必修科目：	4科目，7単位
系必修科目：「研究法」および「研究実習」を含む3科目，	12単位
専門選択科目：コースワークに沿って29科目から11科目，	11単位以上
合 計：	30単位以上

(4) 履修届，履修科目変更届，再履修届

授業科目の履修にあたっては、原則として「医科学専攻授業科目開設表」の年次および学期別区分にしたがって履修します。

- ・当該年次の共通必修科目の履修にあたっては履修届を提出する必要はありません。
- ・系必修科目および専門選択科目の履修にあたっては、入学後1週間以内に、「履修届」を学生サービ

ス課大学院教育担当に提出してください。

- ・履修届の提出期限後に、履修科目の変更（追加又は取消）をする場合には、「履修科目変更届」を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。
- ・当該年次以後に再履修を必要とする場合には、次年次開始から1週間以内に、「再履修届」を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

講義・演習・実習等について

(1) 授業時間

講義・演習・実習等の時間は1コマ90分で行います。

- ・1コマ目 8:50～10:20
- ・2コマ目 10:30～12:00
- ・3コマ目 13:00～14:30
- ・4コマ目 14:40～16:10
- ・5コマ目 16:20～17:50
- ・6コマ目 18:00～19:30

講義・演習・実習の日程は、授業日程表により実施しますが、変更することがあります。メールあるいは教員の指示に注意してください。

なお、社会人学生で、授業日程表による授業を受けられない場合は、各教科主任と相談の上、別途に履修時間・方法を定めてください。

(2) 講義・実習室

- ・講義は主に基礎・臨床研究棟中間部4階の大学院講義室1で行いますが、講義内容によっては教員の研究室で行うこともあります。
- ・実習は、内容により実習場所が異なります。毎回の実習室あるいは集合場所については、メールでの連絡あるいは教員の指示に注意してください。
- ・講義室・実習室等の場所については、建物配置図を参照してください。
- ・諸事情により、授業を欠席する場合は、欠席届を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

成績評価について

授業科目の成績評価は、記述試験、口答試験、レポート、その他担当教員が必要と認めた方法により、秀、優、良、可と不可の判定により行い、秀、優、良、可を合格とし、その授業科目の単位が与えられます。

試験の成績評価は、次の基準により行います。

秀	100点～90点
優	89点～80点
良	79点～70点
可	69点～60点
不可	59点以下

(1) 本 試 験

試験は、授業科目の担当教員が必要と認めたときに適宜実施します。方法は、記述あるいは口答試験により行いますが、授業科目によっては、レポートあるいはその他の方法を試験に代えることがありますので、各授業担当教員の指示に従ってください。

(2) 追 試 験

追試験は、傷病その他やむを得ない理由により本試験を欠席した者で、あらかじめ試験欠席届（医師の診断書又は理由書を添付）を提出し、当該授業科目の担当教員が認めた者に限り受験することができます。

(3) 再 試 験

- ・再試験は、本試験又は追試験の不合格者のうち、あらかじめ再試験受験願を提出し、当該授業科目の担当教員が認めた場合に限り行います。
- ・再試験における合格の評価は「可」とします。ただし、次年度以降に当該授業科目を再履修した場合には、「可」より上位の評価を与えることができます。

研究計画と学位論文の審査について

(1) 研究計画

入学後2週間以内に、修士課程で行う研究の方向性、計画、方針等について指導教員とよく相談のうえ、研究の方向性を示すテーマ（研究課題）と研究計画を自ら設定し、「研究課題届」と「研究指導計画書」を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

(2) 日 程

学位論文の審査までの日程は次のようになっておりますので、これに留意のうえ研究計画を立ててください。

1 年次の4月上旬：研究課題届と研究指導計画書の提出

2 年次の11月中旬：学位論文題目の提出締切(指導教員を経て学生サービス課大学院教育担当に提出)
学位論文の予備審査会（進捗状況の確認と助言指導等）*

1 月初旬：学位論文の提出締切（学生サービス課大学院教育担当に提出）
論文提出資格の認定（履修単位の認定）

1 月中旬：研究科委員会にて学位論文審査員を決定

2 月上旬：公開審査会（論文発表会）、最終試験（口答試問）

2 月中旬：論文概要の提出締切（学生サービス課大学院教育担当に提出）

3 月上旬：研究科委員会にて学位授与の判定

3 月下旬：学位記授与式

*学位論文の予備審査会は、コースごとに関連教員とコース学生（全学年）が一同に会し、2 年次学生による論文研究の予備審査発表とそれに対する様々な観点による討論・助言を行うもので、各コース「研究法」の授業ならびに成績評価の一環として行われます。

(3) 学位論文審査の方法および審査基準

方 法

- 1) 学位論文の審査は、研究科委員会が選出した3人の審査員による学位論文の審査ならびに最終試験によって行います。
- 2) 学位論文審査に当たっては公開の論文発表審査会を開催します。
- 3) 最終試験は、学位論文を中心として、これに関連のある科目について口述により行います。

審査基準

- 1) 学位論文は、本専攻の目的に照らして学術的あるいは社会的に価値を有するものとします。
- 2) 最終試験の結果は、可または不可で評価し、審査員3人による評定が全て可であることをもって合格とする。

(4) 学位論文審査手続き

1) 学位申請の書類

修士の学位を申請する場合は、次の書類を提出期限までに学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

- | | |
|---------------|--------------------------|
| 1. 学位論文審査願 | 1 部 |
| 2. 学位論文 | 5 部（併せて電子媒体での提出もお願いします。） |
| 3. 論文要旨 | 5 部（併せて電子媒体での提出もお願いします。） |
| 4. 参考論文（有る場合） | 5 部 |

(5) 修士学位論文作成要領

- 1) 「学位論文」は次の様式により作成してください。

規 格：A 4 縦置き，横書き，上下左右余白 各25mm。

文 字 数：1 行40文字，40行程度

フ ォ ン ト：和文 明朝体，11ポイント

英 文 Times，12ポイント

図 表：A 4 に納まる範囲内で，大きさは指定しません

論 文 の 枚 数：20ページ程度を目安とします

体 裁：表紙をつけて製本する（図書館で出来る簡易製本で可）。

基本的スタイル：以下の項目，順序で作成してください

○論文題名，著者名，所属，指導教員名→表紙に記入する。

- ・目 次（省略可）
- ・要 約
- ・論文が和文の場合には英文要約

○序 論

○方 法

○結 果

○考 察

○結 語

- ・文 献

(6) 論文概要について

上記○印の内容を4ページ以内（図表を含む）にまとめたものを電子媒体にて作成してください。

雑誌に掲載された論文別冊を学位論文として提出することも可能です。ただし、その場合にも「論文概要」を添えて提出してください。

オフィスアワーについて

「オフィスアワー」とは、各教員が学生からの個別相談に応じるために設定している時間のことです。授業や学習に関する質問や学生生活・進路相談などについての相談があれば、教員は随時相談に応じますが、他の授業や会議、診療などで部屋を離れるため、常に教員室や研究室に居るとは限りません。

そこで、学生の来訪に備えて教員室や研究室で待機し、相談に応じるのに都合が良い時間帯を「オフィスアワー」として、教員ごとに設定しており、その詳細は、ホームページから参照できます。

諸規程について

規程については、医学系研究科 HP に掲載していますので、そちらを参照してください。

その他、留意事項

(1) メールについて

学生サービス課からの連絡事項は、学生用のメールアドレスへメールを送信しますので、1日1回はメールを確認してください。

(2) 授業料免除と奨学金について

授業料免除・奨学金を希望する場合は、学生サービス課総務担当にて申請の手続きを行ってください。

また、授業料免除・奨学金に関する情報は、学生サービス課前の掲示板に掲示しますので、必ず確認してください。

(3) 住所届について

「住所届」は、大学院オリエンテーション終了後に、大学院教育担当へ提出してください。なお、住所届提出後に、住所が変更した場合も、「住所変更届」を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

(4) 駐車許可証の交付について

自家用車により通学する場合は、学生サービス課総務担当で「駐車許可証」の交付手続きを行ってください（原則として大学までの距離が2 km以上の場合に限る。）。

(5) 学籍異動について

在学中、様々な事情により学籍の異動（休学・退学・改姓等）が生じる場合は、一ヶ月前までに学生サービス課大学院教育担当に届け出てください。

研究指導計画書（研究実施経過報告書）

平成 年 月 日

医学系研究科・修士課程 専攻

学籍番号

氏 名 印 主指導教員名 印

		研 究 指 導 計 画		実 施 経 過 ・ 実 績 報 告	
年次		履修予定授業科目(時間)	研 究 指 導* 計 画	研究実施経過報告 (研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、 成果等を記載)	指導教員のコメント (学生の取組み状況、指導内容、 指導計画の変更等を記載)
1 年 次	前 期				
	後 期				
2 年 次	前 期				
	後 期				

* 研究指導は主指導教員の指揮と研究グループ等教員の役割分担により、組織的に行う。

研究指導計画書(研究実施経過報告書)【記載例】

医学系研究科・修士課程 医科学

学籍番号

氏 名

印

主指導教員名

印

研究指導計画(履修予定授業科目,研究指導計画)は指導教員と相談の上,入学後1週間以内に修了までの計画を入力してください

実施経過・実績報告は,各年次終了時(2月中旬～3月上旬)に担当係にて回収・確認を行いますので,指導教員と相談の上,随時作成してください。

		研 究 指 導 計 画		実 施 経 過 ・ 実 績 報 告	
年次		履修予定授業科目(時間) 学生主作成	研究指導*計画 教員主作成	研究実施経過報告 (研究指導計画に沿って,進捗状況,実績,成果等を記載) 学生主作成	指導教員のコメント (学生の取り組み状況,指導内容,指導計画の変更等を記載) 教員主作成
1 年 次	前期	人体構造機能学概論(32) 病因病態学概論(32) 社会・予防医学概論(32) 生命科学倫理概論(16) 分子生命科学概論(16) 基礎生命科学研究法 基礎生命科学研究実習 実験動物学特論(16) 生理学特論(16) 法医学特論(16) 微生物学・免疫学特論(16) 環境・衛生・疫学特論(16)	1) コースワークと研究テーマの設定に関する助言指導。 2) 研究内容および実験計画の立案に関する助言指導。 3) 輪読会に参加させ,欧文論文の読解指導。 4) 研究設備・機器等使用法の実地指導。	1) 指導教員と相談の上,研究テーマを「●●●●●●●●」と設定した。 2) 研究内容を具体化するために,関連分野の研究上に関する情報検索法を学習し,「●●●●●●●●」に関する論文を収集した。 3) 「●●●●●●●●」研究に必要な研究法として,「●●●●●●●●」の手法を学習し,概ね1人で実行できるようになった。 4) 本格的な研究計画を策定する前段階として,上記の手法による予備実験「●●●●●●●●」を開始した。	1) 将来研究者の希望に沿う形に,研究テーマの助言を行った。 2) 「●●●●●●●●」の手法が高度なため,指導に少し手間取った。
	後期	基礎生命科学研究法 基礎生命科学研究実習 病理学特論(16) 薬物作用学特論(16) 遺伝子医学特論(16) 分子生化学特論(16) 精神・心理学特論(16) 周産期医学特論(16)	5) 輪読会等における討論を通して,研究戦略の設計,論述,論旨の展開等に関する訓練指導。 6) 研究テーマの焦点化とそれに沿った研究戦略の設計・実施に関する指導。 7) 実験等の実地指導。 8) 関連学会・研究会等に参加させ,当該分野の視野を広げさせる。	5) 予備実験「●●●●●●●●」の結果が芳しくなかったので「●●●●●●●●」の手法を取り入れることにした。 6) また,「●●●●●●●●」についても調べることにし,実験を行った。 7) これまでの予備実験の結果から,研究テーマを「●●●●●●●●」に焦点化し,そのための研究計画を策定した。 8) 研究計画に沿って,先ず「●●●●●●●●」のデータを得るための実験を行った。 9) ●●学会に参加して,研究意欲が触発された。	3) 「●●●●●●●●」実験だけでは明確な結果が得られそうもないので,追加の実験を助言した。 4) ある程度データがでてきたので,研究テーマの絞込みを指導した。 5) ●●学会に参加させ,先端的研究のレベルを認識してもらうように指示した。

2 年 次	前期	基礎生命科学研究法 基礎生命科学研究実習	9) 上記5, 6, 7)を継続。 10) 実験等データの解析と解釈に関する指導。 11) 研究結果のまとめ方と考察, プレゼンテーションに関する指導。 12) 関連学会・研究会等で成果を発表させ、他研究者との討論を通して、見識と技量を磨かせる。 13) TAとして教育・研究に参画させ、当該分野の理解と技量を深めさせる。	10) 研究計画に沿って、「●●●●」の実験に着手した。 ・) これまでの結果を整理し、●●研究会で発表した。) TAとして教育・研究に参画し、●●●分野の理解が深まった。	・) これまでの結果を●●研究会で発表するように指示し、結果のまとめ方を指導した
	後期	基礎生命科学研究法 基礎生命科学研究実習	14) 上記5～13)を継続実施。 15) 論文研究中間発表審査会での他者からの意見も参考にして、論文作成の準備と作成に関する具体的指導。 16) 論文の素稿作成。 17) 上記12, 15)を継続実施。 18) 論文最終稿作成。 19) 論文投稿に係る具体的指導。 20) 学位論文審査に係る具体的指導。	・) ・) ・) 論文研究中間発表審査会で発表し、「●●●●」について助言を受けた。 ・) 上記助言を参考に、「●●●●」の検討を行った。 ・) データの整備を進めるとともに、論文の素稿作成に着手した。 ・) 論文最終稿を作成した。	・)

* 研究指導は主指導教員の指揮と研究グループ等教員の役割分担により、組織的に行う。

学位論文を申請する時,最終版を併せて提出してください。

II 授業科目の学習指針等 (シラバス)

シラバスとは

シラバス [syllabus] は、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定など授業の概要を書き示したもので、この学習要項では「授業科目の学習指針等」として掲載してあります。

各授業科目は、医学系研究科の教育目的・目標に沿って年次ごとに開講、配置されていますが、その教育課程における個々の授業科目の位置付け（開講目的）や学習内容・到達目標等をシラバスで明示することにより、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達すべきかを知る学習指針として、重要な役割を果たすものです。

シラバスに記載されている項目の説明

【教 科 主 任】 各授業科目の担当責任者で、教科主任の下に講義・実習等の編成、担当者の配置ならびに試験の実施と成績判定が行われます。

【G. I. O. (General Instructional Objective)：一般学習目標】 各学科の教育課程における当該授業科目の位置付け（開講目的）を示すとともに、この授業により何ができるようになるか、（すなわち、この授業の学習がなぜ重要なのか、それによって学習者のニーズがどのように満たされるか）の総括的な目標が掲げられています。

【講義・実習項目】 授業科目を構成する講義・実習等の項目と、それぞれを担当する教員名が示されています。

【S. B. O. (Specific Behavioral Objective)：個別学習目標】 当該授業科目の一般学習目標（G. I. O.）を達成するためには、どのようなことができればよいのか、具体的な行動の表現で個別の学習目標が示されています。

【評価の方法と基準】 当該授業科目の成績評価の方法と、成績判定の基準が示されています。

【履 修 上 の 注 意】 各授業科目を履修する上での心構え、注意等が示されています。

【テ キ ス ト 等】 当該授業に必要な参考書を、次の区分に分けて紹介してあります。

- 1) テキスト：教科書として用いるもので、必ず手に入れておく必要があるもの。
- 2) 指定図書：重要な参考書として利用頻度が高く、手に入れておくことが望ましいもの。これについては、原則的に附属図書館医学分館に配架されています。
- 3) 参考書：上記以外の参考書として挙げられています。

【日 程 表】 当該授業科目の講義・実習等および試験の日程、担当者ととともに、講義項目のキーワードが示されています。講義を受ける際の準備や自己学習などに活用してください。

注：医学系研究科のシラバスは、ホームページにも掲載してあるので、利用してください。

人体構造機能学概論（必修2単位）

教科主任：増子貞彦

開講期間：1年次，前学期 4月14日～6月9日 水曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

人体を構成する細胞，組織，器官の構造と生理機能ならびに制御機構について，系統的な学習をおこない，人体で営まれている生命現象の仕組みを総合的に理解する。

2. 講義項目

（担当者）

(1) 人体の構成と細胞，組織	生体構造機能学	増子 貞彦
(2) 骨・筋および運動器系	〃	川久保善智
(3) 神経系	〃	熊本 栄一
(4) 血液ならびに心臓，循環系	〃	柳 圭子
(5) 感覚器系および内分泌系	〃	村田 祐造
(6) 吸器系および泌尿器系	〃	塩谷 孝夫
(7) 消化器系	〃	藤田 亜美
(8) 生殖器系および人体の発生	看護基礎科学	河野 史

3. 個別学習目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 人体の構成と細胞，組織
 - 1) 細胞を構成する各要素の構造と働きを，細胞の生命現象と結び付けて説明できる。
 - 2) 上皮・腺組織，支持組織，筋組織，神経組織の特性と，これらの組み合わせにより人体の構成を説明できる。
- (2) 骨・筋および運動器系
 - 1) 骨の構造と代謝，関節の構造と運動，骨格筋の構造と収縮機構を説明できる。
 - 2) 身体の部位に応じた骨格と骨格筋の構成を説明できる。
- (3) 神経系
 - 1) 神経細胞，支持細胞の構造と伝導，伝達機構を説明できる。
 - 2) 中枢および末梢神経系の構成と神経回路網による情報処理機構を説明できる。
- (4) 血液ならびに心臓，循環系
 - 1) 血液の組成，性状，働き，凝固機序，ならびに造血およびリンパ性組織の構造と機能について説明できる。
 - 2) 心臓と脈管系の構成，構造，ならびに心臓のポンプ作用，血圧，血流の調節機構，物質交換の仕組みを説明できる。
- (5) 感覚器系および内分泌系
 - 1) 皮膚および特殊感覚器の構造と感覚刺激の受容，伝達機構を説明できる。
 - 2) 内分泌細胞とホルモン，ホルモン受容細胞の反応，および内分泌調節機構を説明できる。
- (6) 呼吸器系および泌尿器系
 - 1) 気道および肺の構造と，外呼吸，内呼吸の仕組み，血液ガス運搬，および呼吸の調節機構を説明できる。

2) 腎および尿路の構造と、尿の産生、水と電解質の調節、酸塩基平衡について説明できる。

(7) 消化器系

1) 消化管、消化腺の構成と構造ならびに各構成要素の働き、調節系を説明できる。

2) 栄養素の消化、吸収機構を説明できる。

(8) 生殖器官および人体の発生

1) 内・外生殖器の構造と生殖細胞の産生ならびに性ホルモンによる調節機構を説明できる。

2) 受精の仕組みと、ヒト発生過程の概略を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業（講義）終了後の適当な時期に筆記試験を実施し、その結果を基に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的注意

本授業では系統的な学習を促すために、教科書を指定している。各講義内容に沿った自主的学習により学習目標を達成すること。

(2) 社会人学生に対する注意

各講義は下記の日程表の日時どおりに実施されます。止むを得ない事情で出席できない場合には、各講義担当者に事前連絡・相談を行い、代替の学習手段（講義ビデオの視聴、学習課題レポートの指示、自己学習法、学習内容に関する質問等の方法など）について指示と指導を受けること。

(3) 準備学習等

講義項目・キーワード（日程表参照）について、下記教科書で予習しておくこと。

6. 参考書等

(1) 教科書

「からだの構造と機能」A. シェフラー, S. シュミット著, 三木明德, 井上貴央監訳, 西村書店, 1998, ¥4,800

(2) 参考書

1) 「分担解剖学 1, 2, 3 巻」森於菟他著, 金原出版, 第11版 1998

2) 「標準組織学総論, 各論」藤田恒夫・藤田尚男著, 医学書院, 総論・第4版 2002, 各論・第3版 1992

3) 「生理学テキスト」大地陸男著, 文光堂, 第5版 2007

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1, 2	4 月14日(水) 3, 4	人体の構成と細胞, 組織	増 子	細胞膜, 核, 細胞内小器官, 細胞骨格, 細胞増殖, 細胞間物質, 細胞接着, 上皮・腺組織, 支持組織, 筋組織, 神経組織
3, 4	4 月21日(水) 1, 2	骨・筋および運動器系	川久保	身体の区分, 骨の構造と代謝, 関節の構造と運動, 骨格筋の構造と収縮, 体幹部, 上下肢, 頭部の骨と筋
5, 6	4 月28日(水) 3, 4	神経系	熊 本	神経細胞, 支持細胞, 伝導, 伝達, 中枢神経系, 末梢神経系, 神経回路網と情報処理
7, 8	5 月12日(水) 1, 2	血液 心臓, 循環系	柳	赤血球, 白血球, 血小板, 血漿, 血液凝固, 造血およびリンパ組織 心臓, 動脈, 毛細血管, 静脈, リンパ系, 物質交換, 血圧・血流の調節
9, 10	5 月19日(水) 1, 2	感覚器系 内分泌系	村 田	感覚刺激と受容器, 感覚刺激の伝達, 皮膚および特殊感覚器 内分泌細胞, ホルモン, 受容細胞, 内分泌調節系
11, 12	5 月26日(水) 1, 2	呼吸器系 泌尿器系	塩 谷	気道, 肺, 換気, ガス交換, 血液ガス, 呼吸の調節 腎臓, ネフロン, 糸球体濾過, 尿細管再吸収・分泌, 尿濃縮希釈, 尿酸性化, 排尿, 酸塩基平衡
13, 14	6 月 2 日(水) 1, 2	消化器系	藤 田	口腔, 唾液腺, 咽頭, 食道, 胃, 小腸, 大腸, 直腸, 肝, 膵, 腹膜腔, 栄養素の消化と吸収
15, 16	6 月 9 日(水) 1, 2	生殖器系 人体の発生	河 野	精巣, 卵巣, 生殖細胞, 内生殖器, 外生殖器, 性ホルモン, 性成熟, 性周期 受精, 着床, 胚子期, 胎児期, 胎盤, 出生と周産期

注意：4月14日と28日の開講時限が，3・4時限になっているので，間違えないようにしてください。

病因病態学概論 (必修2単位)

教科主任：木 本 雅 夫

開講期間：前学期 6月15日～8月3日 火曜 1・2時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

病気とは、生体の営みが正常範囲を逸脱して生体にとって不利益な状態となることである。炎症、変性、腫瘍は奇形とともに病気を構成する4つの要素である。この概論ではさまざまな病的因子（病因）とそれに対する生体の反応（病態）の基礎を学習する。

2. 講義・実習項目

(担当者)

(1) 自然免疫	分子生命科学	木本 雅夫
(2) 獲得免疫	〃	〃
(3) 免疫関連分子	〃	福留 健司
(4) 感染症と生物的・社会的環境	病因病態科学	宮本比呂志
(5) 病原因子ならびに内因性殺菌物質	〃	〃
(6) 内毒素と外毒素	〃	〃
(7) 造血とサイトカイン	〃	久木田明子
(8) 食細胞	〃	〃
(9) 細胞病理学	〃	戸田 修二
(10) 腫瘍病理学	〃	〃
(11) 循環障害	〃	徳永 藏
(12) 婦人科病理学	病院病理部	山崎 文朗

3. 個別学習目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 自然免疫
 - 1) 自然免疫機構について述べることができる。
 - 2) 自然免疫に関与する細胞について説明できる。
 - 3) 自然免疫に関与する生体分子について説明できる。
- (2) 獲得免疫
 - 1) 獲得免疫機構について述べることができる。
 - 2) 獲得免疫に関与する細胞について説明できる。
 - 3) 獲得免疫に関与する生体分子について説明できる。
- (3) 免疫関連分子
 - 1) 代表的な免疫関連分子の構造と機能について説明できる。
- (4) 感染症と生物的・社会的環境
 - 1) 感染症と生物的環境のかかわりを説明できる。
 - 2) 感染症と社会的環境のかかわりを説明できる。
 - 3) 病原寄生生物の進化についての考え方を説明できる。
- (5) 病原因子ならびに内因性殺菌物質
 - 1) 病原微生物の病原因子の種類、構造、機能について述べることができる。

- 2) 宿主側の内因性殺菌物質の種類、構造、機能について述べることができる。
- 3) 病原因子と自然免疫とのかかわりについての基本的事項を述べることができる。
- (6) 内毒素と外毒素
 - 1) 内毒素の構造・機能について述べることができる。
 - 2) 外毒素の構造・機能について述べることができる。
- (7) 造血とサイトカイン
 - 1) 造血系細胞の由来について述べることができる。
 - 2) 造血系サイトカインの役割について述べることができる。
- (8) 食細胞
 - 1) 食細胞の種類と働きについて述べることができる。
 - 2) 食細胞の貪食機構について述べることができる。
 - 3) 食細胞の殺菌機構について述べることができる。
- (9) 細胞病理学：細胞の局所環境と細胞障害および細胞死
 - 1) 生体内の細胞環境を説明できる。
 - 2) 細胞障害の原因とそのメカニズムを説明できる。
 - 3) 細胞死の種類とそのメカニズムを説明できる。
 - 4) 細胞の増殖・分化を伴う細胞の環境適応様式を説明できる。
 - 5) 細胞変性の定義とその種類を説明できる。
 - 6) 細胞老化の仮説とそのメカニズムを説明できる。
- (10) 腫瘍病理学：癌細胞はどのような細胞か
 - 1) 正常細胞と癌細胞の違いを説明できる。
 - 2) 癌細胞が際限なく増殖する機序を説明できる。
 - 3) 癌細胞が浸潤・転移する機序を説明できる。
 - 4) 悪性腫瘍と良性腫瘍の違いを説明できる。
 - 5) 胃粘膜上皮からの癌腫の発生過程を説明できる
 - 6) 癌の診断法を説明できる。
 - 7) 癌の告知について自分の考えを述べる事ができる。
- (11) 循環障害
 - 1) 循環障害の原因、病態について理解し、障害に続発する諸臓器の変化について説明できる。
 - 2) 動脈硬化の発生機序と合併病変、その経過を説明できる。
- (12) 婦人科病理学

婦人科に特徴的な病理像と病態生理を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

講義関連の小テスト（適宜実施）と講義終了後に提出するレポートにより成績評価する。授業の出席回数、授業中の質問回数と内容も評価の対象とする。
- (2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀	100点～90点	優	89点～80点	良	79点～70点	可	69点～60点	不可	59点以下
---	----------	---	---------	---	---------	---	---------	----	-------
- (3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の出席を毎回確認する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業のビデオ（あるいはそれに相当する電子ファイル）を出席できなかった学生に視聴させ、授業内容に沿った課題レポートの提出を求め、その内容について評価を行う。

6. 参考書等

(1) 教科書

指定無し

(2) 参考書

1) 「免疫学コア講義」(改訂2版) 木本雅夫・阪口薫雄・山下優毅編著, 南山堂: ¥5,000

2) 「Immunobiology: The Immune System in Health and Disease」Charles A. Janeway 著, ペーパーバック Garland Pub ¥8,604

3) 「細胞の分子生物学」, アルバート著, 中村訳, 教育社, 第三版, ¥20,600

4) 「Robbins Pathologic Basis of Disease」Cotran RS, Kumar V, Collins T (eds), WB Saunders Company, 7th Edition, ¥12,600

5) 「Anderson's Pathology」Damjanov and Linder 著, Mosby, 2002

6) 「Gastrointestinal pathology」Fenoglio-Preiser 著, Lippincott-Raven, 2nd Edition, Lippincott-Raven, 1999

7) 「戸田新細菌学」吉田眞一・柳 雄介共編, 南山堂, 2002, 32版, ¥15,000

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6月15日(火) 1	自然免疫	木 本	病原体認識, 貪食, マクロファージ, オプソニン
2	// 2	獲得免疫	木 本	抗体, Bリンパ球, Tリンパ球
3	6月22日(火) 1	獲得免疫	木 本	MHC, 免疫寛容, アレルギー, 自己免疫
4	// 2	免疫関連分子	福 留	サイトカイン, 補体
5	6月29日(火) 1	感染症と生物的・社会的環境	宮 本	寄生生物, 宿主, 媒介動物, 生物的環境, 社会的環境, 進化, 共生
6	// 2	病原因子ならびに内因性殺菌物質	宮 本	きょう膜, マクロファージ, 細胞内寄生, ディフェンシン
7	7月6日(火) 1	内毒と外毒素	宮 本	グラム陰性菌, LPS, リピドA, スーパー抗原
8	// 2	造血とサイトカイン	久木田	骨芽細胞, 破骨細胞, 骨髄細胞, CFS 分化, サイトカイン
9	7月13日(火) 1	食細胞	久木田	マクロファージ, 好中球, 破骨細胞, 貪食, 骨吸収
10	// 2	細胞病理学	戸 田	微小環境, サイトカイン, 細胞外基質, 情報伝達, 壊死, アポトーシス, 虚血, 低酸素, フリーラディカル, ミトコンドリア, 細胞骨格
11	7月20日(火) 1	細胞病理学	戸 田	増殖, 分化, 過形成, 肥大, 萎縮, 仮生 (分化転換), 脂肪変性, 蛋白質変性, 糖質変性, 色素変性, 石灰変性, 老化, 時計遺伝子, デロメ
12	// 2	腫瘍病理学	戸 田	癌細胞, 増殖, 浸潤, 転移, 分化, アポトーシス, 発癌因子
13	7月27日(火) 1	腫瘍病理学	戸 田	腫瘍, 肉腫, 肺癌, 胃癌, 乳癌, 良性腫瘍, 癌の組織診断, 癌の告知
14	// 2	循環障害	徳 永	出血, 血栓, 塞栓, 動脈硬化とその複合病変
15	8月3日(火) 1	婦人科病理学	山 崎	子宮頸部・体部病理, 卵巣病理

社会・予防医学概論（必修2単位）

教科主任：市場 正 良

開講期間：前学期 4月15日～6月10日 木曜 1・2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

社会と密接に関連する医学である環境医学，予防医学および法医学に関する基礎知識を習得し，人間総合医学としての社会医学の重要性を認識すると共に，国民の衛生水準の向上を図るための問題解決能力を身につける。

2. 講義項目

（担当者）

I 環境医学概論

(1) 労働環境と健康

社会医学

市場 正良

(2) 生活環境と健康

〃

〃

II 予防医学概論

(3) 予防医学総論

〃

田中恵太郎

(4) 感染症予防

〃

〃

(5) 集団の健康指標

〃

原 めぐみ

(6) 生活習慣病予防

〃

西田裕一郎

III 法医学概論

(7) 人体の外的・内的侵襲

〃

小山 宏義

(8) 異状死と臨床法医学

〃

〃

3. 個別学習目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

(1) 労働環境と健康

- 1) 産業保健活動の現状と問題点を説明できる。
- 2) 職業性健康障害の発生機序と予防を説明できる。
- 3) 生物学的モニタリングの手法と意義を説明できる。

(2) 生活環境と健康

- 1) 環境マネジメントシステムを説明できる。

(3) 予防医学総論

- 1) 予防医学の意義・役割について説明できる。
- 2) 健康の定義と公衆衛生の意義・役割について説明できる。

(4) 感染症予防

- 1) 感染症成立の要因を理解し，その予防の原理と発生時の社会的対応について説明できる。
- 2) わが国における主な感染症・食中毒の発生状況と予防対策を説明できる。

(5) 集団の健康指標

- 1) 国勢調査から得られる人口動態統計の推移と問題点について説明できる。
- 2) 人口動態統計，有病統計の諸比率を理解し，それらの推移と現状について述べることができる。
- 3) 生命表の作成法と平均余命・平均寿命について説明できる。
- 4) 健康日本21における健康指標について意義を理解し説明できる。

(6) 生活習慣病予防

- 1) 生活習慣病の種類と特徴を理解し、危険因子を説明できる。
- 2) 生活習慣病による死亡や罹患状況について説明できる。
- 3) 日本人の健康状態や生活習慣の現状を説明できる。
- 4) メタボリックシンドローム対策について説明できる。
- 5) 生活習慣病、運動と遺伝子の関連について説明できる。

(7) 人体の内的・外的侵襲

- 1) 損傷の種類・成因と人体に及ぼす影響を説明できる。
- 2) 異常環境下の障害、窒息、中毒の人体に及ぼす影響と予防対策を説明できる。
- 3) 交通事故損傷の数量化理論と交通安全教育の手法を説明できる。
- 4) 家庭内事故、労災事故、過労死、自殺の成因と予防対策を説明できる。
- 5) 成人と乳幼児において突然死の原因となる疾患とその予防対策を説明できる。

(8) 異状死と臨床法医学

- 1) 人の死と異状死の概念を理解し説明できる。
- 2) 生体の法医学的見方の必要性を理解し、患者の権利と医療の義務を説明できる。
- 3) 患者と医療従事者の関係を理解し、患者の権利と医療の義務を説明できる。
- 4) 医療に関する法律を理解し、その意義を説明できる。

4. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

- 1) 「シンプル衛生公衆衛生学」鈴木庄亮・久道 茂編，南江堂，2010，¥2,400
- 2) 「公衆衛生マニュアル」柳川 洋・中村好一編，南山堂，2002，¥5,500
- 3) 「国民衛生の動向（厚生指標，臨時増刊）」厚生統計協会，2009，¥2,400
- 4) 「学生のための法医学」田中宜幸ほか著，南山堂，改定6版 2006，¥5,565

5. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

各担当教員毎にレポートの課題を呈示し、それぞれのレポートの評価結果に基づいて行う。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、成績発表後2週間以内までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

6. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義では毎回出席をとり、無断で1/3を超える回数の講義を欠席した場合は不合格とする。社会人学生で日程表による講義を受けられない場合は、ビデオなどを視聴することによって出席できなかった講義の内容の要約（400字以内）を作成し、教科主任に提出することをもって出席とみなす。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

講義については日程表の時間通りに行うが、出席できない場合はそれを撮影したビデオを貸し出すので、それを視聴して学習すること。なお、各講義において使用する配布資料については、適宜担当教員から受け取ること。

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	4 月15日(木) 1	労働環境と健康	市 場	産業保健活動，労働衛生の3管理，労働災害，衛生管理者，労働安全衛生法，健康診断
2	〃 2	〃	〃	職業性健康障害と予防（化学的因子，物理的因子，作業態様），生物学的モニタリング，メンタルヘルス
3	4 月16日(金) 4	生活環境と健康	〃	循環型社会，環境報告書，環境マネジメントシステム
4	4 月22日(木) 2	予防医学総論	田 中	予防医学の意義，健康の概念，公衆衛生の概念
5	5 月 6 日(木) 1	感染症予防	〃	感染源，感染経路，感受性，消毒，感染症法，予防接種法，発生動向調査（サーベイランス）
6	〃 2	〃	〃	主な感染症・食中毒の発生状況，毒素型食中毒，感染型食中毒
7	5 月13日(木) 1	集団の健康指標	原	人口静態統計，人口動態統計，再生産率，年齢調整死亡率，SMR
8	〃 2	〃	〃	主要死因の動向，母子保健関連指標，罹患率，有病率，有病統計，生命表，平均余命，平均寿命
9	5 月20日(木) 1	〃	〃	健康日本21，平均自立期間，区間死亡確率，標準早死損失年，障害調整生存率，QOL 指標
10	〃 2	生活習慣病予防	西 田	生活習慣病の種類と特徴，死亡および罹患状況，生活習慣病と体力の関連
11	5 月27日(木) 1	〃	〃	一次予防，運動習慣，食習慣，メタボリックシンドローム対策
12	〃 2	〃	〃	生活習慣病と遺伝子，運動と遺伝子
13	6 月 3 日(木) 1	人体の外的・内的侵襲	小 山	損傷，受傷機転解析，異常温度，窒息，中毒，薬物乱用，児童虐待，交通事故損傷の数量化
14	〃 2	異常死と臨床法医学	〃	家庭内事故，労災事故，過労死，自殺，賠償医学，心臓突然死，乳幼児突然死症候群
15	6 月10日(木) 1	〃	〃	心臓死と脳死，異状死，生体検査，被害者対策，患者と医療従事者の関係，医事法
16	〃 2	予備		レポート作成など

レポートに関しては、授業時に連絡する。

生命科学倫理概論（必修1単位）

教科主任：小 泉 俊 三

開講期間：前学期 4月13日～6月8日 火曜 1時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

生命科学と医療に関する倫理的課題について、基礎知識や考え方を習得し、研究者と医療従事者が遵守すべき倫理規範と対応法を理解する。また、将来の生命科学・医療の進歩と社会の変遷によって新たに生じ得る倫理的課題に対して適切に判断し、行動する能力を養う。

2. 講義項目

（担当者）

(1) 生命科学倫理総論	総合診療部	小泉 俊三
(2) 基礎医学・社会医学と倫理	総合診療部	小泉 俊三
(3) 医療と倫理	総合診療部	小泉 俊三

3. 個別学習目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

(1) 生命科学倫理総論

- 1) 西洋と非西洋間の文化、宗教、哲学の異同を理解し、生命倫理を理解する上で基本となる人間の尊厳や死の受容に対する日本人の道徳観と価値観を説明できる。
- 2) 医療従事者の職業倫理綱領を習得し、生命科学と医療における倫理教育の必要性を説明できる。
- 3) 生命倫理に関する国の審議会や施設の倫理委員会の役割とその活動、生命・医療倫理の諸問題の現状を説明できる。

(2) 基礎医学・社会医学と倫理

- 1) 医学研究に関し、ヒトゲノム・遺伝子解析、疫学研究、臨床研究、臓器・体液等の研究への利用、臓器バンク、クローン技術に伴う倫理について習得し、生命科学の進歩に伴う研究上の倫理的課題への対応法を説明できる。
- 2) 人の死に関し、死の概念、死の判定、死者の人権、脳死と臓器移植、死と法律について習得し、倫理的原則や医療従事者の法的義務を説明できる。

(3) 医療と倫理

- 1) 診療場面における患者の自己決定権やインフォームド・コンセントなど、臨床医の直面する倫理的課題、患者やその家族と医療従事者の関係を説明できる。
- 2) がん末期の緩和医療や病名告知、延命治療、リビング・ウィル、尊厳死、安楽死の是非等について討論できる。
- 3) 研究的・先端的治療、新薬や新医療技術の臨床治験、体外受精、遺伝子治療、出生前診断にまつわる倫理的諸問題への具体的対応法を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業では出席を確認する。また、授業（講義）終了後の適当な時期に筆記試験を実施し、その結果を基に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

佐賀大学医学部ホームページ→学部内関連情報→医学部規則・関連法規を開き、各種倫理指針等を予め閲覧しておいてください。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業を撮影したビデオを視聴し、個別に筆記試験を受けることも可能である。

6. 参考書等

参考書

- 1) 「医療の倫理」星野一正著、岩波新書、1991、¥700
- 2) 「先端医療のルールー人体利用はどこまで許されるのか」^{ぬで}勝島次郎著、講談社現代新書、2001、¥600
- 3) 「医学哲学 医学倫理」日本医学哲学倫理学会編、1－24号（1983－2006）
- 4) 「臨床倫理学－臨床医学における倫理的決定のための実践的なアプローチ」赤林朗・大井玄監訳、新興医学出版社、1997、¥3,000
- 5) 「地政学のすすめ－科学技術文明の読みとき」米本昌平著、中公叢書、1998、¥1,900

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	4月13日(火) 1	生命科学倫理総論(1)	小 泉	日本人の道德観と価値観、西洋の伝統思想と近代科学としての医学、東洋の伝統思想、精神と身体
2	4月20日(火) 1	生命科学倫理総論(2)	小 泉	医療従事者の職業倫理綱要、ヒポクラテスの誓い、ニュルンベルク倫理綱要、医の倫理のジュネーブ会議綱要、ヘルシンキ宣言
3	4月27日(火) 1	生命科学倫理総論(3)	小 泉	倫理委員会、厚生科学審議会、文部科学省生命倫理・安全部会
4	5月11日(火) 1	基礎医学・社会医学と倫理(1)	小 泉	ヒトゲノム・遺伝子解析、疫学研究、臨床研究、ヒト由来試料の研究利用
5	5月18日(火) 1	基礎医学・社会医学と倫理(2)	小 泉	死の概念、脳死と臓器移植、医療従事者の法的義務
6	5月25日(火) 1	医療と倫理(1)	小 泉	自己決定権、インフォームド・コンセント、患者と医療従事者の関係
7	6月1日(火) 1	医療と倫理(2)	小 泉	緩和医療、告知、延命治療、リビング・ウィル、尊厳死、安楽死
8	6月8日(火) 1	医療と倫理(3)	小 泉	研究的・先端的治療、臨床治験、体外受精、遺伝子治療、出生前診断

試験：筆記試験に関しては、授業時に連絡する。

分子生命科学概論 (必修2単位)

教科主任：出 原 賢 治

開講期間：前学期

1. 一般学習目標

生命現象を分子の観点でみると、その基礎には遺伝子がある。その遺伝子の機能に基づき、たんぱく質を代表とする生体高分子が合成され、酵素機能により進行する代謝過程が実際の生命活動を進行させている。そしてこれらが機能的に統合されたシステムである細胞が生まれる。本講義は、このような分子機能から見た生命現象を理解するために必要な知識および考え方を習得してもらうことを目的とする。

2. 講義項目

		(担当者)
(1) 遺伝子とその機能	分子生命科学	城 圭一郎
	〃	〃
(2) 生体高分子	〃	高崎 洋三
	〃	〃
(3) 生体の代謝調節	〃	出原 賢治
	〃	有馬 和彦
	〃	白石 裕士
	〃	鈴木 章一
(4) 細胞の構造と機能	〃	池田 義孝

3. 個別学習目標

- (1) 遺伝子とその機能
 - 1) DNA, RNA の構造, 発現, 翻訳, 複製, 組み換えと修復などの概要を説明できる。
 - 2) ミクロソームと染色体の構造を理解し説明できる。
 - 3) 高等真核生物のゲノムに特徴的な構造について理解し説明できる。
- (2) 生体高分子
 - 1) 生体高分子の基本構造を正しく述べることができる。
 - 2) 生体高分子の機能発現の上で基本構造の多様性が重要なことを例を挙げて示すことができる。
 - 3) 生体触媒としての酵素反応の特徴を示すことができる。
 - 4) タンパク質と核酸の構造・性質・機能を説明できる。
 - 5) 糖と脂質の構造・性質・機能を説明できる。
- (3) 生体の代謝調節
 - 1) 細胞が環境からエネルギーを獲得する機構を説明できる。
 - 2) 生体が高分子構成材料を合成する方法を説明できる。
- (4) 細胞の構造と機能
 - 1) 細胞の基本構造や細胞内小器官の機能について理解し説明できる。
 - 2) タンパク質の選択輸送について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
出席状況などを考慮して総合的に判断する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の成績等に関して、希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

履修を希望する学生は予め教科主任に連絡すること。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし

(2) 参考書

- 1) 「Molecular Biology of the Cell」Alberts B. 他著, 第4版, Garland Science
- 2) 「遺伝子」Lewin B. 著, 菊池韻彦他訳, 第7版, 東京科学同人
- 3) 「ゲノム」Brown T.A. 著, 村松正實監訳, メディカル・サイエンス・インターナショナル
- 4) 「Essential 細胞生物学」Alberts B. 他著, 中村桂子他訳, 南光堂
- 5) 「ハーパー・生化学」上代善叔人訳, 第25版, 丸善

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1		核酸と遺伝子	城	ゲノム, 遺伝子, DNA, RNA
2		転写	〃	mRNA, オペロン, RNA プロセッシング
3		タンパク質	城	タンパク質合成(翻訳), リボソーム, tRNA 化学修飾, タンパク質の局在
4		遺伝情報の維持と伝達	〃	DNA 複製, 組換え, 修復
5		高等真核生物のゲノム	城	ヒストン, ヌクレオソーム, 染色体, 繰り返し配列, 遺伝子ファミリー
6		真核生物の遺伝子発現調節	〃	トランスポゾン, DNA のメチル化, 転写因子, 転写調節領域, エンハンサー
7		生体高分子(1) タンパク質と核酸	高 崎	DNA の2重らせん, 塩基対, クローバーリーフモデル, 核タンパク質, 反応機構
8		生体高分子(2) 酵素	〃	酵素単位, ミカエリス, メンテンの式, 阻害, アロステリック効果
9		代謝総論	出 原	代謝, 自由エネルギー, 電子伝達
10		糖代謝	〃	解糖, 糖新生, グリコーゲン, クエン酸回路
11		脂質代謝	白 石	脂肪酸, ケトン体, エイコサノイド, コレステロール, ステロイド
12		アミノ酸代謝, 核酸代謝	鈴 木	アミノ酸, 尿素, 必須アミノ酸, プリン, ピリミジン
13		細胞(1)	池 田	細胞の構造, オルガネラ
14		細胞(2)	〃	選別輸送, 局在化シグナル
15		生体高分子(3) 糖と脂質	高 崎	糖と脂質の構造・性質・機能, 立体化学

※日程については後日連絡する。

臨床医学概論 (必修2単位)

教科主任：藤 本 一 眞

開講期間：前学期 金曜 3 時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

- (1) 臨床医学全般について疾患との関連を中心に系統的に学ぶ。
- (2) 大学において学習してきた項目と臨床医学の接点を理解する。
- (3) 今後の修士課程における研究項目に応用可能な知識を習得する。

2. 講義項目

(担当者)

(1) 臨床医学とは？	内科学	藤本 一眞
(2) 内科学概説	〃	長澤 浩平
(3) 臨床医学と基礎医学の接点	〃	藤本 一眞
(4) 皮膚科学概説	内科学 (皮膚科)	成澤 寛
(5) 麻酔蘇生科学・救急医学概説	麻酔・蘇生学	平川奈緒美
(6) 消化器学概説	消化器学	藤本 一眞
(7) 脳外科学概説	脳神経外科学	松島 俊夫
(8) 泌尿器科学概説	泌尿器科学	魚住 二郎
(9) 整形外科・形成外科学概説	整形外科	馬渡 正明
(10) 産科婦人科学概説	産科婦人科学	岩坂 剛
(11) 小児科学概説	小児科学	濱崎 雄平
(12) 眼科学概説	眼科学	沖波 聡
(13) 耳鼻咽喉科学概説	耳鼻咽喉科学	井之口 昭
(14) 精神医学概説	精神医学	山田 茂人
(15) 歯科口腔外科学概説	歯科口腔外科学	後藤 昌昭

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

レポート提出により評価する (7月30日までに提出)。

教科主任と数人の教員でレポート内容と授業内容に関し面接試験を実施する場合がある。社会人学生にはビデオ内容に関するレポート提出や面接を実施する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年9月30日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

- ・ 初回講義は必ず出席すること。出席できない場合は教科主任（藤本一真：34－2351）まで必ず連絡すること。連絡がなく欠席の場合は不合格とする。
- ・ 2回目以後の講義も原則として定められた時間に受講すること。受講人数が少ないため、受講場所・受講方法はそれぞれの教員に連絡して場所を確認すること（学生サービス課には問い合わせない）
- ・ 実験や実習等の事情で講義が受講できない場合は各講義を以下のビデオ等で対応可能である。

(1) 必ず出席のこと

(2) 変わっていく医療と新しい医師像（日野原重明先生）：医学部ホームページ

(3) ガンプロフェッショナル特別講演会：医学部ホームページ

(4) 皮膚科概説ビデオ：学生サービス課

(5) 緩和ケア特論①②：医学部ホームページ

(6) 外科学概説ビデオ：学生サービス課

(7) 脳外科概説ビデオ：学生サービス課

(8) 感染対策研修会：医学部ホームページ

(9) 地域医療連携における大学病院の責任：医学部ホームページ

(10) 感染症対策講演会（エイズの動向と診療）：医学部ホームページ

(11) 小児科概説ビデオ：学生サービス課

(12) 日本の海外医療活動：医学部ホームページ

(13) 耳鼻科概説ビデオ：学生サービス課

(14) 精神医学概説ビデオ：学生サービス課

(15) 歯科口腔外科概説ビデオ：学生サービス課

* 医学部ホームページのビデオの原版は情報メディア活用支援室にあります。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

上記のビデオを中心とする受講で対応可能である。初回講義に出席できない場合は教科主任（藤本一真：34－2351）まで必ず連絡すること。連絡なく欠席の場合は不合格とする。

5. 参考書等

特になし

総合ケア科学概論（必修2単位）

教科主任：堀川悦夫

開講期間：前学期

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

人間が健康で暮らす、あるいは何らかの疾病や障害を持つ中においても生活の質の高い生活をしていくには、医学以外にも関連する諸分野の知見を総合したアプローチが必要である。

高齢者や障害を有する人々のための最新のアプローチを紹介する中で、問題点を整理して総合ケアのあり方を示し、さらには今後の展開および地域との共同研究のあり方について理解を深める。

2. 講義項目

（担当者）

- (1) 総合ケア科学の概要
- (2) 学際的アプローチ
- (3) 総合ケア科学における研究の概要
- (4) 研究方法のあらまし
- (5) 先行研究のレビュー
- (6) まとめ

認知神経心理学分野 堀川 悦夫

3. 個別学習目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

健常者・患者を問わず、人間がよりよく暮らすためのチームアプローチの手法を学ぶ。

関係諸領域の主な手法や問題点を理解する。

基礎医学・臨床医学との関連からケア科学を学ぶ。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

出席とレポートなどにより総合的に評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

講義を基にして自主的に先行研究やその測定法などについて調べることが求められる。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

厳しいスケジュールの中でどのようにして学ぶ時間を得るかを工夫することも、今後の生活に生かせる貴重な体験ではある。とはいえ、履修への配慮をできるだけするので、遠慮なく相談して欲しい。

6. 参考書等

講義中に紹介する。

7. 授業日程

後日、教科主任から連絡する。週末などで集中講義形式で行う。

(基礎生命科学系コース) (医療科学系コース) (総合ケア科学系コース)
基礎生命科学研究法，医療科学的研究法，総合ケア科学的研究法 (必修2単位)

教科主任：各指導教員

開講期間：1，2年次の前～後学期

1. 一般学習目標

各コースの目的に沿って、自立して研究を行うのに必要な研究デザインや研究戦略（課題の抽出・設定、仮説・立証計略の立案，方策・方法の考案，手順・計画設計など）の理論を学び，自らが立案する素養を身につける。

2. 授業項目

(担当者)

- (1) 論文読解演習 (40時間) (主指導教員および当該研究グループ教員)
主指導教員の研究グループごとに論文読解演習を行い，読解を担当し発表する。
- (2) 研究設計演習 (20時間) (主指導教員および当該研究グループ教員)
主指導教員の研究グループごとに研究の設計，遂行等に関する検討会（セミナー）を行い，各自の研究について討論する。

3. 個別学習目標

- (1) 論文読解演習
 - 1) 欧文論文を読解し，論文内容の要旨を説明できる。
 - 2) 論文著者の立場になって，論旨の展開を説明できる。
- (2) 研究設計演習
 - 1) 各自の研究テーマに沿って，研究デザインや研究戦略を立案できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
論文読解演習や検討会（セミナー）の学習状況等で評価する。
- (2) 評価基準
上記の授業あるいは相当する学習内容を修めていること。
- (3) 評価結果の開示
上記評価結果を開示する。
希望者は各指導教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

特になし

6. 参考書等

特になし

7. 授業日程

論文読解演習日程および研究設計演習日程

主指導教員の研究グループごとに開催されます。主指導教員と日程を打合せてください。

(基礎生命科学系コース) (医療科学系コース) (総合ケア科学系コース)
基礎生命科学研究実習，医療科学研究実習，総合ケア科学研究実習（必修8単位）

教科主任：主 指 導 教 員

開講期間：1，2年次の前～後学期

1. 一般学習目標

各自の研究テーマに沿って，研究を遂行するために必要な能力，方法等を研究の実践を通して学び，自立して研究を行う素養を身につける。

2. 授業項目

(担当者)

- (1) 研究実習 (360時間) (主指導教員および当該研究グループ教員)

各自が研究を実践する過程で直面する様々な問題に対して，解決方法を見出すための助言・指導等を毎週4時間程度行う。

- (2) 学会等実習 (適宜) (主指導教員および当該研究グループ教員)

関連学会や研究会等に参加させ，研究に対する広い視野と深い見識を養うとともに，プレゼンテーション等の技量を訓練する。

3. 個別学習目標

- (1) 研究実習

- 1) 各自がデザインした研究を開始するための実験，調査等の準備ができる。
- 2) 計画した実験，調査等を遂行し，必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。
- 3) 実験，調査等データの解析と解釈が適切にできる。
- 4) 学会発表あるいは論文としてデータをまとめることができる。
- 5) 論文の原稿作成，投稿，発表までの過程を遂行できる。

- (2) 学会等実習

- 1) 関連分野の様々な研究動向を理解し，各自の研究に活用できる。
- 2) 他者の研究発表を理解し，適切に質疑討論できる。
- 3) 自己の研究を明快に発表し，質問等に対して適切に応答できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

研究実習等の学習状況にて評価する。

- (2) 評価基準

上記の授業あるいは相当する学習内容を修めていること。(研究実施経過報告)を主指導教員に提出。

- (3) 評価結果の開示

上記研究実施経過報告を開示する。希望者は主指導教員へ問合せをすること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

研究実習（360時間）は、各自の論文研究を具体的に実行するための時間ではなく、研究遂行に必要な能力を養うためのもので、各自の積極的な取り組みが必要です。

6. 参考書等：特になし

7. 授業日程：主指導教員と相談の上、研究実習時間を設定してください。

人 体 構 造 実 習 (選択1単位)

教科主任：増 子 貞 彦

開講期間：前学期 6月10日～7月29日 木曜 3・4時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

人体の構成について、細胞から、組織、器官の各レベルで系統的に理解し、それらの知識を個体へと還元できる能力を身につける。

2. 実習項目

(担当者)

(1) 骨学, (2) 肉眼解剖学

生体構造機能学

〃

菊池 泰弘

〃

川久保善智

(3) 顕微鏡解剖学

生体構造機能学

増子 貞彦

〃

村田 祐造

〃

李 明子

看護基礎科学

河野 史

3. 個別学習目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

(1, 2) 骨学・肉眼解剖学

- 1) 人体がどのような骨で構成されているかを理解し、骨格の構造を述べることができる。
- 2) 人体の正常な構造、各器官の位置関係を説明することができる。
- 3) 各器官の相互関係とその形態的・機能的意義を学習し、個体レベルで統一的に理解する。

(3) 顕微鏡解剖学

- 1) 細胞内小器官の構造を理解し、その機能を述べることができる。
- 2) 組織を構成する細胞とその形態学的、機能学的特異性を理解し、説明できる。
- 3) 各器官がどのような組織で構成されているかを理解し、その機能的意義を認識する。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

口頭試験またはレポート

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

口頭試験又はレポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

実習に出席し、レポートを提出すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

止むを得ない事情で出席できない場合には、各授業担当者に事前連絡・相談を行い、代替の学習手段について指示・指導を受けること。

6. 参考書等

(1) 教科書

「からだの構造と機能」 A.シェフラー, S.シュミット著, 三木明德・井上貴央監訳, 西村書店, 1998, ¥4,800

(2) 参考書

骨学・肉眼解剖学

- 1) 「骨学実習の手引き」 寺田春水・藤田常男共著, 南山堂
- 2) 「解剖実習の手引き」 寺田春水・藤田常男共著, 南山堂
- 3) 「分担解剖学1・2・3」, 金原出版
- 4) 「日本人体解剖学 上・下」 金子丑之助著, 南山堂
- 5) 「末梢神経解剖学」 佐藤達夫監修, SCI

顕微鏡解剖学

- 1) 「標準組織学総論・各論」 藤田恒夫・藤田常男共著, 医学書院
- 2) 「組織学 I・II」 ブルーム・フォーセット共著, 山田英智他監訳, 広川書店

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1, 2	6月10日(木) 3, 4	骨学 (体幹と上・下肢の骨)		椎骨と脊柱, 胸郭, 上肢帯, 上肢, 下肢帯, 下肢
3, 4	6月17日(木) 3, 4	骨学 (頭の骨)		頭蓋骨, 顔面頭蓋
5, 6	6月24日(木) 3, 4	肉眼解剖学		呼吸器・循環器
7, 8	7月1日(木) 3, 4	肉眼解剖学		消化器・泌尿生殖器
9, 10	7月8日(木) 3, 4	肉眼解剖学		頭部, 体幹, 四肢
11, 12	7月15日(木) 3, 4	組織学 (細胞の形態)	増子他	上皮・腺細胞・筋細胞・神経細胞
13, 14	7月22日(木) 1, 2	組織学 (組織の構成)	増子他	上皮・腺組織・支持組織, 筋組織, 神経細胞
15, 16	7月29日(木) 3, 4	組織学 (器官・臓器の構造)	増子他	各種器官・臓器

試験：口答試験およびレポートに関しては、実習時に連絡する。

病 院 実 習 (必修1単位)

教科主任：長 澤 浩 平

開講期間：前学期 5月28日～7月23日 金曜 1・2時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

臨床医学概論で得た知識を病院現場で認識し、個々の問題意識を明確にしてその問題解明への理論的思考法と研究態度を学ぶ。

2. 実習項目

(担当者)

(1) 手術部・集中治療部の業務と特殊性	麻酔・蘇生学	平川奈緒美
(2) 総合診療部における診断と治療の実際	総合診療部	小泉 俊三
(3) 救急部の業務と特殊性	救急医学	未 定
(4) 放射線部の業務と特殊性	放射線医学	工藤 祥
(5) 内科学における診断と治療の実際	内科学	長澤 浩平
(6) 外科学における診断と治療の実際	一般・消化器外科学	能城 博和
(7) 眼科学における診断と治療の実際	眼科学	沖波 聡
(8) 耳鼻咽喉科学における診断と治療の実際	耳鼻咽喉科学	井之口 昭
(9) 歯科口腔外科における診断と治療の実際	歯科口腔外科学	後藤 昌昭

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

実習態度およびレポート

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

- ・患者さんと接する場合は、言動に十分注意する。
- ・医師やコメディカルの人たちの通常業務の妨げにならないように注意する。
- ・清潔な服装、身なりを心がけ、原則として白衣を着用する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

- ・時間割が日程上無理な場合は、その担当教員と相談の上、新たな授業時間を決定する。

5. 参考書等：特になし

6. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1, 2	5月28日(金) 1, 2	手術部・集中治療部の業務と 特殊性	平 川	手術部, 集中治療部の業務と特殊性
3, 4	6月4日(金) 1, 2	総合診療部における診断と治 療の実際	小 泉	総合診療, 専門医との連携
5, 6	6月11日(金) 1, 2	救急部の業務と特殊性	未 定	重症患者管理
7, 8	6月18日(金) 1, 2	放射線部の業務と特殊性	工 藤	放射線部における検査と治療, 放射線障害
9, 10	6月25日(金) 1, 2	内科学における診断と治療の 実際	長 澤	診察, 診療, 薬物療法
11, 12	7月2日(金) 1, 2	外科学における診断と治療の 実際	能 城	診察, 診療, 外科的療法
13, 14	7月9日(金) 1, 2	眼科学, 耳鼻咽喉科学におけ る診断と治療の実際	沖 波 井之口	診察, 診療, 眼科的療法, 耳鼻科的療法
15, 16	7月23日(金) 1, 2	歯科口腔外科における診断と 治療の実際	後 藤	診断, 治療

医 用 統 計 学 特 論 (選択1単位)

教科主任：竹 生 政 資

開講期間：前学期 4月13日～6月8日 火曜 2時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

医学および疫学分野におけるさまざまな統計学的手法の理論的基礎と応用技術について理解し、具体的なサンプルデータと統計解析ソフトウェアを用いたコンピュータ実習により医科学領域における研究に必要な統計解析の基礎技術を修得することを目標とする。

2. 講義・演習項目

(担当者)

- | | | |
|---------------|-------|-------|
| (1) 医用統計解析の基礎 | 医療情報学 | 富永 広貴 |
| (2) 医用統計解析の応用 | 医療情報学 | 竹生 政資 |

3. 個別学習目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 医用統計学の基礎
 - 1) 医用統計学の基礎である、医学データの整理、確率分布、仮説検定と推定、回帰と相関について理解し、説明することができる。
- (2) 医用統計学の応用
 - 1) 医科学領域において広く応用されている、多変量解析、ノンパラメトリック仮説検定、生存時間分析などの統計解析手法について理解し、応用することができる。
 - 2) 統計解析ソフトウェア (Excel と SPSS) を用いて実際のデータを解析することができる。
 - 3) 統計解析結果の効果的なプレゼンテーションを行うことができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

出席状況、レポート提出、演習課題提出等によって総合的に評価する。
- (2) 評価基準

提出されたレポート内容および演習課題が学習目標に達しているものを合格と判定する。
- (3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

なし
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業は日程表どおりに行い、授業を撮影したビデオを出席できなかった学生に視聴させる。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし

(2) 参考書

- 1) 「医学統計概論」 R.F. モールド著，日野・田中訳，大竹出版
- 2) 「新版医学への統計学」 丹後俊郎著，朝倉書店，¥5,200
- 3) 「多変量データ解析講義」 水野欽司著，朝倉書店
- 4) 「バイオサイエンスの統計学ー正しく活用するための実践理論」 市原清志著，南江堂，¥4,800

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	4 月13日(火) 2	医学データの整理と確率分布	富 永	医学データ，確率分布
2	4 月20日(火) 2	仮説検定と推定	〃	検定，推定
3	4 月27日(火) 2	回帰分析と相関分析	〃	回帰，相関
4	5 月11日(火) 2	Excel と SPSS を用いたデータ解析演習	〃	(演習)
5	5 月18日(火) 2	ノンパラメトリック検定	竹 生	ノンパラメトリック検定
6	5 月25日(火) 2	多変量解析	〃	多変量解析
7	6 月 1 日(火) 2	生存時間分析 論文発表とプレゼンテーション技法	〃	生存時間分析，論文発表，プレゼンテーション
8	6 月 8 日(火) 2	Excel と SPSS を用いたデータ解析演習	〃	(演習)

医用情報処理特論（選択1単位）

教科主任：竹 生 政 資

開講期間：前学期 6月14日～8月2日 月曜 2時限（7月30日のみ木曜2時限）

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

まず、医用情報処理の基礎理論と応用について学習し、医療における情報処理技術の体系について理解を深める。次に、診療録情報を中心とした中央診療科が収集する各部門情報や医事・会計情報など病院内で発生する全ての医療情報を診療・看護・経営の意思決定に即座に利用できるようにするために、病院の医療情報ネットワークにおける電子カルテを中心としたデータウェアハウス構造とデータマイニング手法などについて最先端のビジネス・インテリジェンスの立場から学習する。

2. 講義項目

		（担当者）
(1) 医用情報処理の基礎	医療情報学	富永 広貴
(2) 医用情報処理の応用(1)	〃	竹生 政資
(3) 医用情報処理の応用(2)	医療情報部	高崎 光浩

3. 個別学習目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 医用情報処理の基礎
 - 1) カオスによる非線型データ解析手法などの基礎を理解し、説明することができる。
 - 2) これらの基礎理論を応用して実際の生体情報データを解析することができる。
- (2) 医用情報処理の応用(1)
 - 1) 医用情報処理の基礎であるフーリエ変換によるスペクトル解析、自己回帰モデル・ウェーブレット変換などによる時間一周波数解析などの基礎を理解し、説明することができる。
 - 2) これらの基礎理論を応用して実際の生体情報データを解析することができる。
- (3) 医用情報処理の応用(2)
 - 1) 保健医療福祉システムにおける標準化の目的と必要性について理解し、国内外における標準化の動向について説明することができる。
 - 2) 部門間ならびに施設間での医療情報交換における情報交換の標準化の目的と必要性について理解し、国内外の動向について説明することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

出席状況、レポート提出、演習課題提出等によって総合的に評価する。
- (2) 評価基準

提出されたレポート内容および演習課題が学習目標に達しているものを合格と判定する。
- (3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

なし

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業は日程表どおりに行い，授業を撮影したビデオを出席できなかった学生に視聴させる。あるいは，TV 会議システムにより自宅等からも受講可能な環境を提供したり，e ラーニングシステムにより別の時間帯に自己学習できる環境を提供する。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし

(2) 参考書

1) 「カオス時系列解析の基礎と応用」合原一幸編，産業図書

2) 「スペクトル解析」日野幹雄著，朝倉書店

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6 月14日(月) 2	フーリエ変換によるスペクトル解析	竹 生	フーリエ変換，スペクトル解析
2	6 月21日(月) 2	自己回帰モデルによるスペクトル解析	〃	自己回帰モデル
3	6 月28日(月) 2	ウェーブレット解析	〃	ウェーブレット変換
4	7 月 5 日(月) 2	カオスによる非線型データ解析の理論	富 永	カオス，非線型データ解析
5	7 月12日(月) 2	カオスデータ解析の生体情報データ解析への応用	〃	生体情報データ解析
6	7 月16日(金) 2	保健医療福祉システムと標準化	高 崎	MEDIS, ICD-10, SNOMED
7	7 月26日(月) 2	保健医療福祉システムの連携(1)	〃	DICOM, HL7, IHE, SSMIX
8	8 月 2 日(月) 2	保健医療福祉システムの連携(2)	〃	DICOM, HL7, IHE, SSMIX

実験動物学特論 (選択1単位)

教科主任：北 嶋 修 司

開講期間：前学期 6月14日～8月2日 月曜 1時限, 7月30日 木曜 1時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

なぜ動物実験を行うのか、再現性の高い動物実験を実施するためには何が必要なのかを理解するとともに、実験動物の福祉および動物実験の法的規制を理解する。また、発生工学手法を用いた実験動物技術を理解する。

2. 講義項目

		(担当者)
(1) 実験動物学とは一総論—	総合分析実験センター	北嶋 修司
(2) 実験動物の種類	〃	〃
(3) 実験動物の飼養環境	〃	〃
(4) 実験動物に関する人獣共通感染症と微生物	〃	西島 和俊
(5) 実験動物の麻酔	熊本保健科学大学	森本 正敏
(6) 実験動物の安楽死	〃	〃
(7) 動物実験に係る法律—国内・国外—	〃	〃
(8) 発生工学的手法を用いた新たな実験動物学	総合分析実験センター	西島 和俊

3. 個別学習目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) 実験動物学とは一総論—
 - 1) 適正な動物実験を説明できる。
 - 2) 実験動物の育種および遺伝的モニタリングについて説明できる。
- (2) 実験動物の種類
 - 1) 哺乳類に分類される実験動物について説明できる。
 - 2) 哺乳類以外の実験動物について説明できる。
- (3) 実験動物の飼養環境
 - 1) 実験動物に影響を与える環境要因を説明できる。
 - 2) 実験動物を使用するのに最適な飼育環境を説明できる。
- (4) 実験動物に関する人獣共通感染症と微生物
 - 1) 実験動物からヒトに感染する人獣共通感染症と微生物とその原因となる微生物について説明できる。
 - 2) 実験動物を飼育するにあたり、注意すべき感染症を挙げ、原因となる微生物とそのモニタリングについて説明できる。
- (5) 実験動物の麻酔
 - 1) 実験動物の適正な麻酔について説明できる。
 - 2) 実験動物の術後鎮痛について説明できる。
- (6) 実験動物の安楽死
 - 1) 動物福祉に基づいた適正な安楽死方法について説明できる。
- (7) 動物実験に係る法律—国内・国外—
 - 1) 国内における動物実験に関する法律および基準・指針について説明できる。
 - 2) 国外における動物実験に関する法律および基準・指針について、国内法と比較して説明できる。
- (8) 発生工学的手法を用いた新たな実験動物学
 - 1) 遺伝子組換え動物の作製法について説明できる。
 - 2) 精子および胚の凍結保存について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

レポート提出。課題等については授業時に連絡する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果，配点，成績等の解説と個別指導を行う。希望者は，試験結果発表後1月程度の期間内に，オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

特になし

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

日程表等とは別に集中授業もしくは課題資料等に対するレポートの提出を実施する。実施方法等は担当者と事前に打合せを行うこと。

6. 参考書等

(1) 教科書

特に選定しない

(2) 参考書

- 1) 「実験動物学」田嶋嘉雄監修，朝倉書店
- 2) 「実験動物技術体系」日本実験動物技術者協会編，アドスリー
- 3) 「ラボラトリーアニマルの麻酔」倉林 譲監修，学窓社
- 4) 「Laboratory animal medicine」Fox et al, 2nd ed, Academic Press

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6月14日(月) 1	実験動物学とは一総論一	北 嶋	適正な動物実験，育種，遺伝的モニタリング
2	6月21日(月) 1	実験動物の種類	〃	哺乳類，非哺乳類
3	6月28日(月) 1	実験動物の飼養環境	〃	温度，湿度，照度，騒音
4	7月5日(月) 1	実験動物に関する人獣共通感染症と微生物	西 島	人獣共通感染症，微生物モニタリング
5	7月12日(月) 1	実験動物の麻酔	森 本	吸入麻酔，注射麻酔，術後鎮痛
6	7月16日(金) 1	実験動物の安楽死	〃	動物実験の倫理，適正な安楽死法
7	7月26日(月) 1	動物実験に関する法律一国内・国外一	〃	動物の愛護と管理に関する法律，国内の基準，国外の法律
8	8月2日(月) 1	発生工学的手法を用いた新たな実験動物学	西 島	マイクロインジェクション，精子および胚の凍結保存

試験：レポートに関しては，授業時に連絡する。

実験・検査機器特論（選択1単位）

教科主任：高 崎 洋 三

開講期間：前学期 6月16日～8月4日 水曜 2時限

1. 一般学習目標（G.I.O. General Instructional Objective）

医科学実験を行う際に使用する機器の取り扱いの概要を学ぶ。試料の分離や物理量の測定，病態の診断などの目的に様々な機器を使用するが，その使用原理と使用法を正しく把握しておく必要がある。組織，細胞，生体構成分子といった研究対象について，どの機器を利用して何が取得できるか，そしてその使用限界や有効性まで知っておく必要がある。

2. 講義項目

（担当者）

(1) 生体成分解析	分子生命科学	高崎 洋三
(2) 電気・光学的測定	生体構造機能学	柳 圭子
〃	総合分析実験センター	寺東 宏明
(3) 組織・細胞観察	病因病態科学	徳永 藏
(4) 生体物質分析機器		寺東 宏明
(5) 医療機器・放射線	放射線医学	工藤 祥

3. 個別学習目標（S.B.O. Specific Behavioral Objective）

- (1) 生体成分解析
 - 1) タンパク質や核酸，脂質などの化学構造を把握し，それらの単離法を述べることができる。
 - 2) 生体反応の分析法の概要を説明できる。
- (2) 電気・光学的測定
 - 1) 細胞の電氣的生理学的研究に用いられる機器の原理と操作法について説明できる。
- (3) 組織・細胞観察
 - 1) 顕微鏡や電子顕微鏡の資料作製，観察を通して生体の基本構造と異常構造を説明できる。
- (4) 生体物質分析機器
 - 1) 生体物質の分離・定量に用いる主な分析機器について，その原理の概要を説明できる。
 - 2) 生体試料を分析する場合のクリーンアップの手法について説明できる。
- (5) 医療機器・放射線
 - 1) 放射線の発生，測定法，治療への効果を述べることができる。
 - 2) その他の検査機器や治療機器の使用原理を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席点と試験ないしレポート提出をもって評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は，次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業には遅刻せず出席すること。レポートを課された場合は期限を守ること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

個別的に相談する。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし

(2) 参考書

1) 生体成分解析:「生命の化学」安藤他著, 化学同人, 2001, ¥2,400

2) 組織・細胞観察:「Anderson's Pathology」(Eleventh Edition), Damjanov and Linder, 2002

3) 医療機器:「放射線基礎医学」青山 喬編, 金芳堂, 第9版 2000, ¥5,400

「標準放射線医学」中田 肇他編, 医学書院, 2001年, ¥12,000

「診療放射線技術 上, 下」立入 弘他監, 南江堂, 第10版, 2001, 上, 下各¥6,800

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6月16日(水) 1	生体成分解析	高 崎	タンパク質の立体構造の分析, DNA の構造, 核酸塩基配列分析
2	6月23日(水) 1	〃	高 崎	タンパク質の分離・精製, 構造決定
3	6月30日(水) 1	光学的測定	寺 東	吸収・蛍光・化学発光
4	6月30日(水) 2	〃	寺 東	
5	7月14日(水) 1	電気・光学的測定	柳	細胞単離法, パッチクランプ法, データ取得解析用コンピューター, オンラインシステム
6	7月21日(水) 1	組織・細胞観察	徳 永	HE 染色, In situ hybridization, 多重免疫染色, 電顕観察
7	7月28日(水) 1	生体物質分析機器	寺 東	プロテオミクス, 分子間相互作用
8	8月4日(水) 1	医療機器	工 藤	放射線, 放射性同位元素, 画像診断機器, 画像処理, 放射線治療機器, 放射線障害防止法

試験: レポートもしくは口答試験に関しては, 授業時に連絡する。

バイオテクノロジー特論 (選択1単位)

教科主任：副 島 英 伸

開講期間：1 年次前期

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

遺伝子操作技術は、生命現象における遺伝子機能の研究手段として発達した。しかし、今日ではこの技術が生化学、発生学、細胞学の技術と組み合わさったバイオテクノロジー技術が急速に進歩している。この技術は、基礎生物学、基礎医学、臨床医学の研究手段として有用だけでなく、臨床医学での治療や農業、畜産などの産業での応用面でも非常に重要になっている。本科目では、医学・生物学に携わる人間に必要なバイオテクノロジーの基礎から応用までを習得することを目的とする。

2. 講義項目

		(担当者)
(1) タンパク質工学	分子生命科学	福留 健司
(2) 遺伝子工学	〃	東元 健
(3) モノクローナル抗体	〃	木本 雅夫
(4) ゲノム情報	〃	出原 賢治
(5) 発生工学	〃	城 圭一郎
(6) 遺伝子治療	〃	西岡 憲一
(7) 再生医療	〃	副島 英伸

3. 個別学習目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- (1) タンパク質工学
 - 1) タンパク質の機能に関与する翻訳後修飾について説明できる。
 - 2) ペプチド・タンパク質の各種合成系と発現系の利点と欠点を説明できる。
 - 3) タンパク質の構造解析方法について説明できる。
- (2) 遺伝子工学
 - 1) 組換え DNA の作製原理を説明できる。
 - 2) PCR(遺伝子増幅)の原理を説明できる。
- (3) モノクローナル抗体
 - 1) モノクローナル抗体の作製法と利用法について説明できる。
- (4) ゲノム情報
 - 1) 疾患の遺伝様式を理解できるようにする。
- (5) 発生工学
 - 1) トランスジェニックマウス、ノックアウトマウス、クローンマウスについて、その作製法、利用について説明できる。
- (6) 遺伝子治療
 - 1) 遺伝子治療のベクター、その治療戦略について説明できる。
- (7) 再生医療
 - 1) 幹細胞の特徴ならびにそれによる治療法について概要を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

講義項目に関するレポートにより成績評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年5月29日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

履修希望者はあらかじめ教科主任に連絡すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

同上。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし

(2) 参考書

- 1) 「Molecular Biology of the Cell」Alberts B.他著 5th Ed Garland Science
- 2) 「遺伝子」Lewin B 著 菊池韻彦他訳 第7版 東京科学同人
- 3) 「ゲノム」Brown TA 著 村松正實監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル
- 4) 「Essential 細胞生物学」Alberts B 他著 中村桂子他監訳 南江堂
- 5) 「ヒトゲノムの分子遺伝学」Gelehrter TD 他著 清水信義監訳 医学書院
- 6) 「免疫学コア講義」木本雅夫, 阪口薫雄, 山下優毅編著 南山堂
- 7) 「Immunobiology; The Immune System in Health and Disease」Janeway CA 著, Garland Pub.
- 8) 「ヒトの分子遺伝学」Strachan T, Read A 著 村松正實, 木南凌監修監訳 メディカル・サイエンス・インターナショナル 第3版
- 9) 「ヒトの分子生物学」Richard J Epstein 著 村松正實監訳 丸善
- 10) 「絵とき再生医学入門」朝比奈欣治, 立野知世, 吉里勝利著 羊土社

7. 日 程 表

日時、内容については、各担当教員の指示に注意してください。

解剖学特論 (選択1単位)

教科主任：増 子 貞 彦

開講期間：後学期 10月4日～11月29日 月曜 1時限

1. 学習目標 (G.I.O., General Instructional Objective)

人体の変移と恒常性を主題として、個体の成長、人類の進化と変異を形態学的、遺伝学的に学習し、その自然的背景、適応戦略について考察する。また、生体の恒常性 (homeostasis) を司る自律神経系に関して、特定の調節系について深く学習し、生体の恒常性を支える構造・仕組みを総合的に理解する。

2. 授業項目

(担当者)

I 人類変遷の軌跡—人類学的にみた人体—	生体構造機能学	川久保善智
II 生体恒常性の仕組み—自律神経系—	〃	増子 貞彦
	〃	村田 祐造

3. 個別学習目標 (S.B.O., Specific Behavioral Objective)

- (1) 人類の進化過程において、人体、特に骨格がどのように変化し、それがどのような適応戦略によるものなのかを説明できる。
- (2) 人類の進化、変異、多様性を集団遺伝学 (分子人類学) の立場から説明できる。
- (3) 人類学的に見た個体の成長について説明できる。
- (4) 中枢および末梢自律神経系の概要について説明できる。
- (5) 自律神経系のうち、特定の調節機構について文献等により自己学習し、学習成果をスライド等によりプレゼンテーションできる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業の出席状況、自己学習への取組状況、学習目標の到達状況等について、毎回の授業およびディスカッション等 (必要に応じてレポートを課すこともある) を通して判定し、総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行う。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

評価結果、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、評価結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

人体の仕組みに関する深い理解とともに形態学的な手法を用いた研究を志す積極的な学生の参加を求めます。自己学習成果の発表と討論による授業を行うので、高度の自主学習意欲が要求されます。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は上記の日程で実施されます。止むを得ない事情で出席できない場合には、各講義担当者に

事前連絡・相談を行い、代替の学習手段（講義ビデオの視聴，学習課題レポートの指示，自己学習法，学習内容に関する質問等の方法など）について指示と指導を受けること。

(3) 準備学習等

前学期に開講の「人体構造機能学概論」を履修しておくこと。

6. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

講義テーマに関連した論文等を，その都度提示する。

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時 限	項 目	担当者	内 容 等
1	10月 4 日(月) 1	人類学的にみた人体(1)	川久保	進化過程における骨格の変化
2	10月18日(月) 1	人類学的にみた人体(2)	川久保	同上
3	10月25日(月) 1	人類学的にみた人体(3)	川久保	人類の進化，変異，多様性
4	11月 1 日(月) 1	人類学的にみた人体(4)	川久保	人類学的に見た個体の成長
5	11月 8 日(月) 1	自律神経系(1)	増子他	中枢・末梢自律神経系概説
6	11月15日(月) 1	自律神経系(2)	増子他	各自のテーマに沿った自己学習
7	11月22日(月) 1	自律神経系(3)	増子他	プレゼンテーション 1
8	11月29日(月) 1	自律神経系(4)	増子他	プレゼンテーション 2

生 理 学 特 論 (選択1単位)

教科主任：熊 本 栄 一

開講期間：前学期 6月14日～7月26日 月曜 3, 4時限, 7月16日 金曜 3時限

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

人体の生理機能の中で、血液循環に働く心臓と情報伝達に働く感覚・神経系の2つを取り上げ、それぞれの働きとその制御の仕組みを細胞膜および受容体やイオンチャネルレベルで学習する。また、チャネルタンパク異常による機能異常も学ぶ。これらにより心臓および感覚・神経系の働きをチャネルレベルで理解できることを目指す。

2. 授業項目と概要

(担当者)

(1) 神経と受容体・イオンチャネル (6月14, 21日)

生体構造機能学 熊本 栄一

人体の生理機能の中で感覚・神経系の働きを取り上げる。まず最初に、体外および体内の環境情報を受容する感覚器の働きを細胞膜やイオンチャネルレベルで講義する。次に、感覚情報を中枢(脳や脊髄)へ伝える神経系の働き、さらに中枢神経回路の働きによる感覚情報処理の仕組みをシナプス伝達制御の観点から講義する。以上により、感覚情報処理においてイオンチャネルおよび受容体がいかに重要な役割を果たすかを理解する。

(2) 痛覚と受容体・イオンチャネル (6月28日, 7月5日)

生体構造機能学 藤田 亜美

人体の生理機能の中で痛覚情報伝達機構を取り上げる。まず最初に、痛覚を含めた多彩な体性感覚受容体の働きについて、受容体やイオンチャネルレベルで講義する。次に、痛覚を中枢へ伝達する神経の仕組み、さらに中枢神経(脊髄や脳)における痛覚情報伝達回路ならびに痛覚情報処理の仕組みを講義する。以上により、神経系の受容体やイオンチャネルが痛覚情報伝達機構において重要な役割を果たしていることを理解する。

(3) 心臓と受容体・イオンチャネル (7月12, 16日)

生体構造機能学 塩谷 孝夫

血液のポンプである心臓の生理機能について、細胞レベルで講義する。講義では、受容体とイオンチャネルの働きを中心として、1) 心臓の自動能とそのメカニズム, 2) 心筋活動電位の発生と伝導のしくみ, 3) 心筋におけるカルシウムシグナリングと収縮の機構について解説する。心臓に存在する受容体やイオンチャネルが、心臓の機能とその制御にどのような役割を果たしているかを学習し、その重要性について理解する。

(4) 病気と受容体・イオンチャネル (7月26日)

生体構造機能学 柳 圭子

イオンチャネルおよび受容体タンパク質の働きとその制御機構をそれらの構成要素であるアミノ酸レベルで講義する。次に、アミノ酸配列異常がこれらのタンパク質機能にどのように影響するかを講義する。以上より、遺伝的なアミノ酸配列異常(イオンチャネル病)に伴って心臓や神経が正常に機能しなくなる仕組みが理解できるようにする。

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業終了後に授業内容に関するレポートの提出を求め、その内容を基に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業に出席することにより講義内容を理解し、その内容に関するレポートを書くことで自己学習を行い、学習目標を達成すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は授業日程表の日時で実施されるが、止むを得ない事情で出席できない場合には各講義担当者に相談し、代替の学習手段（課題レポートの提出など）について指示を受けること。

5. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

1) 「生理学テキスト」大地陸男著，文光堂，第5版 2007，¥5,040

2) 「標準生理学」小澤瀨司・福田康一郎総編集，医学書院，第7版 2009，¥12,600

分子生化学特論 (選択1単位)

教科主任：出 原 賢 治

開講期間：後学期 10月5日～12月7日

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

DNA, RNA, タンパク質の発現, 機能, 維持機構について解説を行い, 細胞あるいは生体が生命を維持している仕組みについて理解する。

2. 授業項目と概要

(担当者)

(1) 遺伝子発現機構

分子生命科学 城 圭一郎

生物はそれが持つ多くの遺伝子を, 必要なとき, 必要な場所, に応じてその発現のオンとオフを行い調和のとれた生命活動を営んでいる。この正常な生命活動に必須な遺伝子発現の調節を理解することは重要である。この発現調節は, 遺伝子発現の各過程; 転写, 転写産物のプロセッシング, 翻訳, で行われている。この現象について, 具体例を紹介しながら, そのメカニズムを理解してもらう。

(2) エピジェネティクス

分子生命科学 城 圭一郎

近年, 高等真核生物のゲノムのエピジェネティックな修飾の遺伝子発現調節における重要性が理解されつつある。具体的には, DNA のシトシン塩基のメチル化, クロマチンタンパク質のヒストンのアセチル化, メチル化, リン酸化, 等である。これらは, 多くの遺伝子の発現調節だけでなく, ゲノムインプリンティングや細胞のがん化においても重要である。この現象に関する最新の知見について講義する。

(3) 制限酵素学

分子生命科学 高崎 洋三

制限酵素は最もよく販売されている酵素標品である。DNA のいわゆるパリンドローム配列を厳密に認識する酵素群であるが, その作用機作について詳しく分かっていない。現在までに立体構造が判明している酵素は EcoRI, BamHI など数種類しかない。だが, 蛋白工学的手法を用いて作用機作の統一的な説明をする努力がなされている。またこの手法で新規な制限酵素を作ろうという方向も芽生えている。さらに, 高崎, 渡邊らによって解明された HindIII の立体構造について説明する。

(4) ペプチド・タンパク質の構造—機能相関

分子生命科学 高崎 洋三

ペプチド・タンパク質は生体の形態形成や恒常性維持などに実質的に働く生体分子である。これらがどのようにして特異的機能を発現するのか, その機構の解明はポストゲノム時代の重要課題の一つである。ここではペプチド・タンパク質の構造—機能相関について, 以下の例をあげて説明する。1) ペプチドホルモン, 2) タンパク質リン酸化酵素, 3) 細胞骨格タンパク質。

(5) 糖鎖生物学

分子生命科学 池田 義孝

糖鎖はタンパク質, 核酸と並ぶ生体高分子であり, 多種多様な構造をもち様々な生命現象に関与していることが近年明らかにされてきている。本講義では糖鎖の種類や分類, 構造について述べるとともに, 他の生体高分子とは異なる生合成の特徴やいくつかの生物学的機能について解説する。

(6) 細胞内情報伝達機構

分子生命科学 出原 賢治

細胞は細胞外からの種々の刺激に反応して発現型を変化させることにより, 多細胞より成る生体を維持するとともに, 生体防御を行っている。種々の刺激を細胞内に伝達させる仕組みを情報伝達機構と呼んでおり, 本講義ではこれについて説明を行う。さらに, 情報伝達機構の異常によって引き起こされる疾患発症機序についても解説する。

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席状況などを考慮して総合的に判断する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の成績等に関して、希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

履修希望者は予め教科主任に連絡すること。

5. 参考書等

特になし

6. 履修選択に関するアドバイス

授業の日時、内容については担当教員の指示に注意してください。

微生物学・免疫学特論（選択1単位）

教科主任：木 本 雅 夫

開講期間：前学期 6月15日～8月3日 火曜 3時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

G.I.O.

病原体とそれに対する生体反応について、より詳しく理解を深める。

S.B.O.

- (1) モノクローナル抗体作成について具体的に述べることができる。
- (2) 特異免疫の多様性形成機構について述べることができる。
- (3) 自然免疫の分子機構について述べることができる。
- (4) ウイルス感染による発ガン機構について述べることができる。
- (5) 炎症性サイトカインの作用とシグナル伝達機構について述べることができる。
- (6) 薬剤耐性菌の耐性発現機序について具体的に述べることができる。
- (7) 細胞内寄生菌の細胞内増殖様式について述べることができる。
- (8) 生物剤に使用される可能性の高い微生物による感染症の診断、治療、予防法について説明できる。

2. 授業項目と概要

（担当者）

- | | | |
|--|----------------|-------|
| (1) 抗体遺伝子再構成：抗体遺伝子の再構成とそれによる抗体分子多様性形成機構 | (6月15日) 分子生命科学 | 木本 雅夫 |
| (2) モノクローナル抗体作成方法とその応用：細胞工学的技術の具体例とモノクローナル抗体を用いた診断治療方法 | (6月22日) 分子生命科学 | 福留 健司 |
| (3) 自然免疫の認識分子と細胞内シグナル伝達：自然免疫の重要性と適応免疫との関連性 | (6月29日) 分子生命科学 | 木本 雅夫 |
| (4) ウイルス感染による腫瘍発生機構 | (7月6日) 病態病因科学 | 菖蒲池健夫 |
| (5) 炎症性サイトカインの作用機構 | (7月13日) 病態病因科学 | 久木田明子 |
| (6) 抗菌薬耐性菌の薬剤耐性機構 | (7月20日) | 宮本比呂志 |
| (7) 細胞内寄生菌の細胞内増殖の分子機構 | (7月27日) | 〃 |
| (8) 生物テロに使用される可能性が高い生物剤 | (8月3日) | 〃 |

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

講義関連の小テスト（適宜実施）と講義終了後に提出するレポートにより成績評価する。授業の出席回数、授業中の質問回数と内容も評価の対象とする。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の出席を毎回確認する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業のビデオ（あるいはそれに相当する電子ファイルまたは資料）を出席できなかった学生に視聴させ、授業内容に沿った課題レポートの提出を求め、その内容について評価を行う。

5. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

1) 「ヒトの分子遺伝学 第2版」村松正實他監修・監訳，メディカル・サイエンス・インターナショナル

2) 「免疫学コア講義」（改訂2版）木本雅夫・阪口薫雄・山下優毅編著，南山堂，¥5,000

3) 「Immunobiology: The Immune System in Health and Disease」Charles A. Janeway 著，ペーパーバック Garland Pub, ¥8,604

4) 「微生物感染学」光山正雄編，南山堂，¥4,800

6. 履修選択に関するアドバイス

この特論を学習することにより，実験に直接関連する知識・技術の基礎が習得できる。

薬物作用学特論（選択1単位）

教科主任：熊 本 栄 一

開講期間：後学期 10月4日～11月29日 月曜 2時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

人体に投与された薬物がどのように吸収・代謝・排泄されるかを知り、薬物動態の基礎知識を得る。次に、神経系に働く薬物を取り上げて効果を発揮する仕組みを知り、神経薬物作用を細胞膜レベルで理解できるようにする。最後に、中枢神経系、特に精神機能に働く薬物、また心血管作動薬の作用機序と治療への応用を取り上げて臨床的に薬物がどのように使用されるかを知り、薬物臨床応用の一端が理解できるようにする。

2. 授業項目と概要

（担当者）

- (1) 薬物動態（10月4日・18日）薬剤部 藤戸 博，中野 行孝
病気治療のために投与された薬物は、体内に吸収された後、血流を介して作用器官に分布して薬効を表し、肝臓などで代謝されて腎臓などから排泄される。この薬物動態の一連の仕組みと、これに影響する因子について講義する。これを通して、臨床における疾病時の薬物療法の実際について理解する。
- (2) 精神機能と薬物（10月25日・11月1日）精神医学 山田 茂人
うつ・不安障害・統合失調症など精神機能に異常を示す患者に投与された薬物が血液脳関門を通過して脳内にどのように取り込まれ、脳のどの領域に作用し、どのような仕組みでその作用を発揮するかを講義する。これを通して向精神薬の臨床応用の一端を理解する。
- (3) シナプス伝達と薬物（11月8日・10日）生体構造機能学 熊本 栄一
神経情報伝達制御において重要な役割を果たすシナプスは様々な薬物のターゲットである。神経伝達物質放出が起こる神経終末と神経伝達物質を受容するシナプス後細胞のそれぞれに作用する薬物とその作用機構、そしてこの作用によりシナプス伝達効率がどのように変化するかを講義する。これらを通して神経系に働く薬物が生理機能に影響を及ぼす仕組みを理解する。
- (4) 心血管作動薬の作用機序と治療への応用（11月22日・29日）内科学 河野 宏明
利尿薬、強心薬、血管拡張薬、ベータ遮断薬などの心血管作動薬の薬物動態、作用機序、併用効果、有害作用と各種疾患治療への応用法を学習することによって、合理的根拠を持った薬物治療の重要性を理解させる。

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
授業終了後に授業内容に関するレポートの提出を求め、その内容を基に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業に出席することにより講義内容を理解し、その内容に関するレポートを書くことで自己学習を行い、学習目標を達成すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は授業日程表の日時で実施されるが、止むを得ない事情で出席できない場合には各講義担当者に相談し、代替の学習手段（課題レポートの提出など）について指示を受けること。

5. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

1) 「医系薬理学」改訂2版 遠藤仁・橋本敬太郎・後藤勝年・金井好克編著, 中外医学社, 2005, ¥10,500

2) 「NEW 薬理学」改訂4版 田中千賀子・加藤隆一編集, 南江堂, 2002, ¥9,240

病 理 学 特 論 (選択1単位)

教科主任：徳 永 藏

開講期間：後学期 月曜 1 時限

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

近年の分子生物学の発達は目覚ましく、医学の分野においても遺伝子レベルで疾患の解明が進みつつある。しかし疾病の原因、発生機序、病的変化、その経過および転帰を理解するためには先ず幅広い病態生理を理解することが大切である。病理学特論では、特に生体にとって重要な細胞や組織が障害された場合の生体の変化や再生・修復機構について理解する。

2. 授業項目と概要

(担当者)

(1) 脂肪細胞

脂肪細胞の新しい生物学的特性について学ぶ。

病因病態科学 戸田 修二

(2) 再生医学 I, II

再生医学の基礎と基本概念、応用を学び未来医学を展望する。

病因病態科学 戸田 修二

(3) 血管 I, II, III

血管内皮細胞の形態と機能を中心に、内皮細胞が炎症、免疫、癌の血行性転移に関与する機構を学ぶ。また近年の血管新生の概念と治療への可能性についても学ぶ。

病因病態科学 徳永 藏

(4) 細胞診断学 I, II

細胞診断学の基礎と実際の診断方法を学ぶ。特に子宮癌における細胞診断を例にして、がん検診における問題点も含め社会的展望をする。

病院病理部 山崎 文朗

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業中の質疑応答、レポート、出席状況等による総合評価

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業は授業日程表に従って行うので出席しないと理解が難しい。講義内容によっては実習を途中で組み入れることがある。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

日程表とは別に、講義の振り替えとして研究室の研究発表会や臨床病理カンファレンスに参加することで履修と認める。

5. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

- 1) 「循環器疾患の成因 3 (肥満と循環器疾患)」今井・細田監修，ライフサイエンス社，2001，¥5,000
- 2) 「肥満・肥満症の指導マニュアル」日本肥満学会編，医歯薬出版，第2版 2001，¥3,200
- 3) 「再生医学と再生医療」室田誠逸編，現代化学増刊41，東京化学同人，2002
- 4) 「Cardiovascular Pathology」T. Silver et al., Churchill Livingstone, Third Edition
- 5) 「～基礎から学ぶ～細胞診のすすめ方」西国広，近代出版，第二版 2007，¥8,000

6. 履修選択に関するアドバイス

脂肪細胞を通じた生活習慣病から，再生医学，血管内皮細胞，脳神経，大腸など幅広い分野の病態生理を学ぶことができる。

日本語の参考書からは日本語の正しい表現や発表の方法を，英語の参考書からは医学や生物学用語に慣れ，外国語の医学論文を自由に読みこなせる力をつけて欲しい。

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1		脂肪細胞	戸 田	アジポサイトカイン，増殖，三次元培養
2		再生医学Ⅰ	〃	増殖，分化，サイトカイン，細胞外基質，情報伝達，組織再生，胚性幹細胞，組織幹細胞，微小環境
3		再生医学Ⅱ	〃	細胞移植，臓器再生，バイオマテリアル，ハイブリッド，人工臓器
4		血管Ⅰ（血管内皮細胞）	徳 永	培養内皮，形態異常，機能異常
5		血管Ⅱ（血管障害）	〃	血栓症，心筋梗塞，血管炎，動脈瘤
6		血管Ⅲ（血管新生と癌）	〃	内皮増殖能，骨髄幹細胞，ES細胞，血管新生抑制
7		細胞診断学Ⅰ（総論）	山 崎	細胞の基本構造と機能，細胞異型
8		細胞診断学Ⅱ（婦人科分野）	〃	子宮頸癌，子宮内膜癌，子宮がん検診

法 医 学 特 論 (選択1単位)

教科主任：小 山 宏 義

開講期間：前学期 6月14日～8月2日 月曜 4時限

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

法医学の研究と実務の対象を学習し、医学に関する社会的・法律的諸問題への対応と解決の方法を修得する。臨床医学や法律と法医学の関係を理解し、医療従事者や法律関係者が必要な法医学の基礎知識を身につける。

2. 授業項目と概要

(1) 法医学総論

法医学の対象として死体、生体、物体、現場、書類を概説し、法医学の意義を説明する。

(2) 人の死

死の判定、心臓死、脳死、臓器移植など、人の死に関する諸問題を学ぶ。

(3) 内因死と外因死

人の死の内的・外的要因について、疾患や損傷の解析方法を学ぶ。

(4) 臨床法医学

生体損傷の法医学的見方について、性犯罪被害者や虐待児童への対応方法を学ぶ。

(5) 医事法制学

賠償医学、労働災害、過労死、医療事故、親子鑑定、書類鑑定について、裁判における医学専門家や鑑定人の役割、法律と医学の関係を学ぶ。

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業では出席を確認する。また、課題についてレポートを課す。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

研究室や法医解剖室で実習、見学、演習形式の学習を可能な範囲内で行う。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

別途の授業および課題についてのレポート作成を個別に調整して行う。

5. 参考書等

必要に応じて紹介する。

6. 履修選択に関するアドバイス

可能な範囲内で、研究室や法医解剖室で実習，見学，演習形式の学習を行う。

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6 月14日(月) 4	法医学総論	小 山	法医学の対象と意義
2	6 月21日(月) 4	人の死	小 山	死の判定，心臓死，脳死，臓器移植
3	6 月28日(月) 4	内因死と外因死(1)	小 山	内因性急死，心臓突然死
4	7 月 5 日(月) 4	内因死と外因死(2)	小 山	損傷，異常環境，窒息，中毒，交通事故，家庭内事故，自殺
5	7 月12日(月) 4	臨床法医学(1)	小 山	生体検査，受傷機転解析，法医看護
6	7 月16日(金) 4	臨床法医学(2)	小 山	性犯罪被害者，虐待児童，乳幼児急死
7	8 月 2 日(月) 3	医事法制学(1)	小 山	賠償医学，労働災害，過労死，医療事故
8	8 月 2 日(月) 4	医事法制学(2)	小 山	親子鑑定，書類鑑定，裁判，鑑定人

環境・衛生・疫学特論（選択1単位）

教科主任：市場 正 良

開講期間：前学期 6月15日～8月3日 火曜 4時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

- (1) 21世紀における地球環境問題を理解し、環境保全に向けた具体的方策を考えるための基礎的知識を身につける。
- (2) 我々にとって身近な環境である住環境や食べ物をめぐる食環境の実態とその問題点を明らかにするための基礎知識を学ぶと共に、それらの知識を健康問題と関連させて理解する。
- (3) 疫学研究手法の理論と実際、さらには倫理的問題などについて学ぶと共に、人間集団の特性を解析する手段としての疫学が如何に重要であるかを理解する。

2. 授業項目と概要

（担当者）

- | | |
|------------------|------------|
| (1) 環境科学特論 | 社会医学 市場 正良 |
| 1) 地球環境問題 | |
| (2) 衛生学特論 | 社会医学 市場 正良 |
| 1) 食と健康 | |
| 2) 住環境と健康 | |
| (3) 疫学特論 | 社会医学 田中恵太郎 |
| 1) 疫学研究手法の理論 | |
| 2) 疫学研究の実際と倫理的問題 | |

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
各担当教員毎にレポートの課題を呈示し、それぞれのレポートの評価結果に基づいて行う。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行う。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義では毎回出席をとり、無断で1/3を超える回数の講義を欠席した場合は不合格とする。社会人学生で日程表による講義を受けられない場合は、ビデオ（後述）などを視聴することによって出席できなかった講義の要約（400字以内）を作成し、教科主任に提出することをもって出席とみなす。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
講義については日程表の時間通りに行うが、出席できない場合はそれを撮影したビデオを貸し出すので、それを視聴して学習すること。なお、各講義において使用する配付資料については、適宜担当

教員から受け取ること。

5. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

- 1) 「これからの環境論」渡辺 正著，日本評論社，2005，¥1,680
- 2) 「シンプル衛生公衆衛生学」鈴木庄亮・久道 茂編，南江堂，2006，¥2,400
- 3) 「疫学－基礎から学ぶために」日本疫学会編，南江堂，1996，¥2,800

6. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	6月15日(火) 4	地球環境問題	市 場	地球温暖化，気候変動枠組条約，IPCC，京都議定書，酸性雨，オゾン層破壊
2	6月22日(火) 4	食と健康 1	〃	食の安全性評価，食品添加物
3	6月29日(火) 4	食と健康 2	〃	遺伝子組み換え食品，狂牛病，リスクコミュニケーション
4	7月6日(火) 4	住環境と健康	〃	シックハウス，化学物質過敏症，電磁波
5	7月13日(火) 4	疫学研究手法 1	田 中	疫学の定義と概念，記述疫学，分析疫学，コホート研究，相対危険，寄与危険
6	7月20日(火) 4	疫学研究手法 2	〃	症例対照研究，オッズ化，介入研究
7	7月27日(火) 4	疫学研究の実際	〃	疫学研究の実例（がんの疫学など）
8	8月3日(火) 4	疫学研究の倫理的問題	〃	インフォームドコンセント，個人情報保護，倫理審査委員会，疫学研究に関する倫理指針

レポートに関しては，授業時に連絡する。

精神・心理学特論（選択1単位）

教科主任：山 田 茂 人

開講期間：後学期 月曜 3 時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

G.I.O.

- (1) 精神障害の分類と病態，精神科医療の概略を理解する。
- (2) 子供の心の発達と小児の心身症を理解する。
- (3) 今後増加が予想されるストレス関連疾患や生活習慣病に関する基本的知識や考え方を習得し，どのような生物心理社会的要因があるのかを理解し，その予防医学的見地からの知識や技術を身につけることを目的とする。
- (4) 心理療法ないし精神療法（含むカウンセリング）の領域における課題の一つである成功的な援助の条件について検討する。
- (5) 心理臨床の実践的基礎を理解し，心理臨床研究の理解を促進し，医療チームの一員として心理臨床について理解することを目指す。

S.B.O.

- (1) 精神疾患を生物学的な立場から理解し，向精神薬の作用機序を述べるができる。
- (2) 小児の心身症に対する家族療法を理解する。
- (3) 人間の情報処理や認知的処理の諸特性の概要について理解し，その応用としての認知機能検査について特に高齢者や患者を対象とした場合の問題点について学び，臨床実践に役立てる。
- (4) 生活習慣病の診断と治療
 - 1) 生活習慣病の成因について理解する。
 - 2) 生活習慣病の病態や診断基準などについて理解する。
 - 3) 生活習慣病の治療について，どのような方法があるか理解する。
- (5) ストレスに対する心理療法
 - 1) 心理療法とはどのような目的でどのような方法を用いた治療法であるかを理解する。
 - 2) 心理療法を行う上での基本的な治療関係，特に転移と逆転移について理解する。
 - 3) 心理療法の中で，最近特に注目を集めている短期療法にはどのようなものがあり，どのような治療的操作であるかを説明できる。
- (6) 心理臨床の実践的目的および基本的態度を理解する。
- (7) 心理臨床の主たる理論を理解し，基本的技法が使用でき，効果について説明できる。

2. 授業項目

（担当者）

(1) 精神医学の成り立ち	精神医学	山田 茂人
(2) 小児の心身症	小児科	藤田 一郎
(3) 認知神経心理学の基礎	地域医療科学教育研究センター	堀川 悦夫
(4) 認知機能測定の方法と問題点	〃	〃
(5) 生活習慣病の診断と治療	保健管理センター	佐藤 武
(6) ストレスに対する心理療法	〃	〃
(7) 心理臨床の原理	地域・国際保健看護学	村久保雅孝
(8) 心理臨床の理論・技法・効果	〃	〃

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

8 コマの出席状況と各担当教員が提示した課題についてのレポート提出を参考に総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年11月30日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業に出席することにより講義内容を理解し、その内容に関するレポートを書くことで自己学習を行い、学習目標を達成すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は授業日程表の日時で実施されるが、止むを得ない事情で出席できない場合には各講義担当者に相談し、代替の学習手段（課題レポートの提出など）について指示を受けること。

5. 参考書等

(1) 教科書

「精神薬理学エッセンシャルズ」Stephen M Stahl 著，仙波純一訳，メデイカル・サイエンス・インターナショナル

(2) 参考書

1) 神田橋條治『発想の航跡（正・続）』岩崎学術出版社

2) 「迷う心の〔整理学〕」増井武士著，講談社

3) 「治療関係における〔間〕の活用」増井武士著，星和書店

6. 履修選択に関するアドバイス（村久保）

心理療法ないし精神療法（含むカウンセリング）に関する概論を習得していることが望ましい。そうでなければ、事前に学習しておくことが望ましい。また、できるだけ自身の関心を明確にしておくことが望まれる。

遺 伝 子 医 学 特 論 (選択1単位)

教科主任：吉 田 裕 樹

開講期間：後学期 10月4日～11月29日 月曜 3時限

1. 学習目標

ポストゲノムシーケンスを受けてのゲノム医科学の進展について取り上げる。さらに小児疾患発症と遺伝要因の問題、集団遺伝学的観点からの諸問題などを取り上げる。

2. 授業項目と概要

(担当者)

- | | |
|--|----------------|
| (1) エピジェネティクス医科学 | 分子生命科学 副島 英伸 |
| エピジェネティクスとは、DNA 配列の変化を伴わずに遺伝子発現を制御する機構である。エピジェネティクスの基礎と関連する疾患（癌、先天異常など）について解説する。 | |
| (2) ゲノム医科学 | 分子生命科学 吉田 裕樹 |
| 近年ヒトゲノムの解読を初めゲノム科学の進展が著しい。ゲノム医科学を中心課題として染色体とゲノム情報、ゲノムからプロテオーム情報、21世紀のゲノム医療、ゲノム倫理等の諸問題などを取り上げる。 | |
| (3) 集団遺伝学 | 成人・老年看護学 大田 明英 |
| ヒトの形質や疾患が遺伝と環境の関わりにより発現することを、集団遺伝学的な観点から理解する。さらにヒトの疾患の大部分を占める多因子病の遺伝要因についても最近の動向を取り上げる。 | |

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
レポートの提出とその内容で評価する。
- (2) 評価基準
講義内容に関連する項目を更に自己学習によりその理解を深め、レポートにまとめたものを最終の講義終了後一週間以内に教科主任に提出(形式、分量は問わない)。その内容や理解程度により評価する。
- (3) 評価結果の開示
試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
この科目は、分子生物学、特に遺伝子や遺伝学に関する基礎知識が必要とされるので、講義前に教科書などでこれらの内容の再確認をしておくことが望まれる。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
原則的に、日程表の時間通りに授業を行う。出席できなかった場合などは、この講義を撮影したビデオを視聴する必要がある。担当教員によっては、日程表とは別に集中授業などを行うことがある。履修形式、ビデオ講義、集中授業の時間・方法の調整などについての質問は、個別に教科主任宛に行うこと。

5. 参 考 書

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

- 1) 「遺伝子」 菊池韻彦他訳，東京科学同人，第7版
- 2) 「人類遺伝学 基礎と応用」 柳瀬敏幸編，金原出版，第2版 1995，¥6,700
- 3) 「遺伝医学への招待」 新川詔夫・阿部京子著，南江堂，第2版 1997，¥1,800
- 4) 「医科遺伝学」 荻田善一監修，南江堂，1991，¥8,500
- 5) 「SNP 遺伝子多型の戦略」 中村祐輔編，中山書店，2000，¥2,800
- 6) 「医科分子遺伝学」 清水信義監訳，南江堂
- 7) 「ゲノム」 Brown T.A.著，村松正實監訳，メディカルサイエンスインターナショナル

6. 履修選択に関するアドバイス

この科目は分子生物学の基礎知識があることが望ましい。従って必修科目の分子生命科学概論の中の「遺伝子とその機能」は理解しておいてください。

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	10月4日(月) 3	エピジェネティクス医科学	副 島	エピジェネティクスの基礎，DNA メチル化，ヒストン修飾
2	10月18日(月) 3	エピジェネティクス医科学	〃	癌のエピジェネティクス
3	10月25日(月) 3	エピジェネティクス医科学	〃	ゲノム刷り込みと関連疾患
4	11月1日(月) 3	ゲノム医科学	吉 田	染色体とゲノム情報，ゲノムとプロテオーム
5	11月8日(月) 3	ゲノム医科学	〃	ゲノム医療，ゲノム倫理
6	11月15日(月) 3	ゲノム医科学	〃	疾患と遺伝子異常，SNP
7	11月22日(月) 3	集団遺伝学	大 田	突然変異と淘汰，進化，遺伝的多型，遺伝と環境，近親婚
8	11月29日(月) 3	多因子遺伝	〃	ポリジーン，易罹病性，common disease の遺伝

周産期医学特論 (選択1単位)

教科主任：濱 崎 雄 平

開講期間：後学期 10月4日～11月29日 月曜 4時限

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

G.I.O.

子宮内環境から子宮外環境への適応の機構を母体および児について生理学的、生化学的観点から理解し学ぶ。

S.B.O

- (1) 胎児の発育と成熟の過程における生理的な子宮内環境を述べることができる。
- (2) 胎児の発育と成熟を計測する指標、その評価法について述べることができる。
- (3) 周産期の母体のホルモン環境とその調節の機構について述べることができる。
- (4) 出生直後におきる児の生理的な適応機構について述べることができる。
- (5) 新生児期の栄養と代謝について述べることができる。
- (6) 新生児期の免疫の特徴について述べることができる。
- (7) 新生児期の神経学的な特徴とその後の発達について評価法と指標について述べることができる。

2. 授業項目

(担当者)

(1) 新生児期の神経学的評価と精神発達	(10月4日)	小児科学	藤田 一郎
(2) 新生児期の適応の機構 (呼吸・循環)	(10月18日)	小児科学	濱崎 雄平
(3) 新生児期の栄養と代謝	(10月25日)	小児科学	藤田 一郎
(4) 胎児環境の評価	(11月1日)	産科婦人科学	岩坂 剛
(5) 新生児の免疫と感染	(11月8日)	小児科学	濱崎 雄平
(6) 分娩の生理と病理	(11月15日)	産科婦人科学	岩坂 剛
(7) 新生児期の疾患	(11月22日)	小児科学	濱崎 雄平
(8) 周産期のホルモン環境	(11月29日)	産科婦人科学	岩坂 剛

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

1) 出席

2) 講義に関連した内容のレポートの提出

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験問題、解答および配点を開示する。閲覧を希望する者は結果発表後1週間以内の9:00～17:00の時間帯に担当教員の所属する科の事務室に申し出ること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

無断欠席をしないこと、必ず授業担当教員に直接連絡をする。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

時間の制約等で講義に出席できない場合は、授業担当教員と相談の上、代替の講義、セミナー等を受講し、評価を受ける。

5. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書

- 1) 「小児科学」白木和夫・前川喜平監修，医学書院，（2版）
- 2) 「new 小児科学」桃井真里子編，南江堂
- 3) 「新生児学入門」仁志田博司著，医学書院
- 4) 「最新産科学 正常編」真柄正直著，荒木勤改訂，文光堂

6. 履修選択に関するアドバイス

周産期の胎児と母体の環境を維持するためのダイナミックな調節機構について学ぶことができる。

高齢者・障害者の生活環境（道具と住宅）特論（選択1単位）

教科主任：松 尾 清 美

開講期間：前学期 6月16日～8月4日 水曜 3時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

高齢者・障害者の生活環境（道具と住宅）特論では、高齢となって身体機能が低下することや何らかの事故や病気で身体に障害を持つことが他人事ではないこと、人間としての生き方やライフステージ毎の考え方、人生などと生活環境について探究する。その方法は、高齢者や障害者のバリアフリーデザインや社会環境のユニバーサルデザインの設計経験や事例を基に構築した研究テーマで、高齢者や障害者などの自立（律）動作や行為を増やし自信を持って生活する方法や支援方法および介助を必要とする方の介助負担を軽減する支援方法などに関して、生活道具と住宅などの物理的環境の改善方法や支援システムの現状を伝達し、改善方法に関する様々な研究例を学習する方法で行う。

2. 授業項目と概要

- ① 歩行できなくなっても生活する方法の研究（住環境と補助器具や道具との関係から）（6月16日）
- ② 誰もがいつの日か身体に障害を持つ可能性の高さと、自律生活のための準備方法の研究
(6月23日)
- ③ 移乗・移動方法および機器の開発研究 (6月30日)
- ④ 身体機能の違いによる自立（律）生活方法の研究 (7月7日)
- ⑤ 車いすの開発のための設計研究 (7月14日)
- ⑥ ベッドの開発のための設計研究 (7月21日)
- ⑦ 社会生活行動支援システムの研究 (7月28日)
- ⑧ 身体障害者や高齢者の補助器具の開発のための設計研究 (8月4日)

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
実験室内での機器使用評価に関する理解度についてのレポート評価を行う。
出席状況も評価する。
- (2) 評価基準
障害とその考え方について講義内容を聞きとれているか、実際に説明させ判断する。移乗動作などの動きを評価することもある。
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
筆記用具と動きやすい服装を準備すること。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
受講する場合は、事務へ届けると共に教員へも連絡し、連絡先などを知らせること。
授業日程表とは別に集中授業あるいは課題を出し、それに対するレポートの提出などの方法をとることもある。

5. 参考書等

教科書：社会参加のための福祉用具：市川冽監修，財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団，2004，
¥3,000（本体価格）。

参考書：「最新版テクニカルエイドー選び方・使い方」三輪書店（編著）長尾哲男，松尾清美，窪田
静，2003年出版，¥3,500（本体価格）

「福祉用具アセスメントマニュアル」中央法規出版，市川 冽，他著，1998，¥4,000（本体価
格）

「バリアフリーのための福祉技術入門」オーム社，足立芳寛（監修），後藤芳一（編著），平成10
年出版，¥3,800（本体価格）。

6. 履修選択に関するアドバイス

実験室にて，福祉用具と住環境の関係を体験を重視して進めていくので，動きやすい服装で運動靴に
て履修すること。

リハビリテーション医学特論（選択1単位）

教科主任：浅見 豊子

開講期間：1・2年次前学期 4月12日～6月7日 月曜 4時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

G.I.O.

身心機能の低下に対するリハビリテーション医療を行う上で必要な診断あるいは障害評価の方法，治療などの確立・開発に必要な知識や技術，あるいは動作の分析や解析，機械工学技術などの手法などを理解する。

S.B.O.

(1) リハビリテーション医学総論

- 1) リハビリテーション医学の理念（定義，障害のレベル，チームアプローチ，評価会議）を述べることができる。
- 2) リハビリテーションに必用な評価法（関節可動域テスト，徒手筋力テスト，日常生活動作テスト，言語聴覚テスト，意識障害の評価法など）の基本的考え方を述べることができる。
- 3) リハビリテーション医学の各治療法（理学療法，作業療法，言語聴覚療法，義肢装具療法など）について概略を述べそれぞれの適応について説明できる。
- 4) リハビリテーション医学の診断法（画像診断，筋電図，呼吸機能検査）などについて説明することができる。
- 5) リハビリテーションに関わる技術（義肢装具・歩行補助具・自助具などの作製および操作技術，コンピューター画像処理，解析法など）を習得する。
- 6) リハビリテーションに関わる諸制度（身体障害者福祉法，児童福祉法，介護保険法など）について述べることができる。

(2) リハビリテーション医学各論

各疾患の特徴および診断法，評価法，治療法（とくにリハビリテーションの適応）などについて説明することができる。

2. 授業項目と概要

（担当者）

- | | | |
|-----------------------------------|-------------------|-------|
| (1) リハビリテーション医学Ⅰ：リハビリテーション医学の理念 | | |
| | （4月12日）リハビリテーション部 | 浅見 豊子 |
| (2) リハビリテーション医学Ⅱ：リハビリテーションに必用な評価法 | | |
| | （4月19日）福祉健康科学部門 | 堀川 悦夫 |
| (3) リハビリテーション医学Ⅲ：リハビリテーション医学の診断法 | | |
| | （4月26日）リハビリテーション部 | 浅見 豊子 |
| (4) リハビリテーション医学Ⅳ：リハビリテーション医学の各治療法 | | |
| | （5月10日） | 〃 〃 |
| (5) リハビリテーション医学Ⅳ：リハビリテーションに関わる技術 | | |
| | （5月17日） | 〃 〃 |
| (6) リハビリテーション医学Ⅳ：リハビリテーションに関わる諸制度 | | |
| | （5月24日） | 〃 〃 |

- (7) リハビリテーション医学Ⅴ：各疾患の特徴およびリハビリテーションの適応①

(5月31日) リハビリテーション部 浅見 豊子

- (8) リハビリテーション医学Ⅴ：各疾患の特徴およびリハビリテーションの適応②

(6月7日) 〃 〃

3. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

筆記試験，口答試験，レポートなどで評価する。

- (2) 評価基準

成績の評価は，次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は，平成22年6月30日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

欠席する際は，前もって欠席届を学生サービス課に提出すること。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

同上

5. 参考書等

- (1) 教科書

1) 「入門リハビリテーション医学」中村隆一監修，医歯薬出版，第3版

2) 「標準リハビリテーション医学」津山直一監修，医学書院

- (2) 参考書

1) 「診断と治療増刊号90巻」阿部好文・高橋信一・山崎 力編，診断と治療社

2) 「リハビリテーション技術全書」服部一郎・細川忠義・和才嘉昭，医学書院

3) 「理学診療マニュアル」日本整形外科学会・日本理学診療医学会監修，全日本病院出版

4) 「義肢装具学第4版」川村次郎編集，医学書院

5) 「筋力テスト」寺沢幸一・明石 謙共訳，日本肢体不自由児協会

6. 履修選択に関するアドバイス

1) 将来的にリハビリテーション医学の臨床研究を遂行・発展させるための基盤を身につけよう。

2) リハビリテーション医療で重要なチームアプローチの一環として，医師以外のリハビリテーション関係職種との係わり合いのなかで種々の技術を習得しよう。

健康スポーツ医学特論（選択1単位）

教科主任：田 中 恵太郎

開講期間：前学期 6月15日～7月6日 火曜 18:00～21:00

1. 学習目標 (G.I.O., S.B.O.)

健康スポーツ医学は医学と体育学の接点と言うべき分野であり、その対象は、有疾患者、健常者、競技者までさまざまである。従って、それぞれの目的に応じた運動療法、身体活動や運動トレーニングが必要となる。運動に対する反応や適応には法則性と同時に個別性が存在することも理解する。ここでは、運動という刺激が身体に及ぼす影響について多様な視点から学ぶ。

- (1) スポーツ医学の知識を活用して、如何に健康管理・競技力向上を図るかを中心的課題として、実践に即した立場から学ぶ。
- (2) 高齢者の認知機能低下の諸要因とその予防法、そして最近の認知機能回復訓練の成果について学ぶ。
- (3) 健康づくりを目的とした運動を自主的・継続的に行うための行動科学的な裏付けと方法の実際を学ぶ。
- (4) 運動による疫病予防・治療、競技成績に関連する遺伝素因、病気に対する運動療法の効果を左右する遺伝素因についても学ぶ。

2. 授業項目

(担当者)

- | | | |
|--------------------------|--------|-------|
| (1) 健常者やスポーツ選手の健康スポーツ医学 | 医学部 | 西田裕一郎 |
| (2) 介護・認知症予防—認知機能改善と運動— | 医学部 | 堀川 悦夫 |
| (3) 身体活動促進のための行動科学的アプローチ | 文化教育学部 | 山津 幸司 |
| (4) 生活習慣病、遺伝子と運動 | 医学部 | 西田裕一郎 |

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

レポート

(2) 評価基準

各担当者が提示した課題について、下記の項目を参考に5段階の評価を行う。

- 1) キーワードを整理し、的確に説明しているか。
- 2) 事実に基づき、論理的に展開しているか。
- 3) 先行研究と比較することにより自らの意見を端的に述べているか。

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

- 1) 授業毎にテーマに関する資料を配付する。
- 2) 公開授業であるため、学外からの聴講が可能である。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

午後6時から開講することで、昼間開講の授業に比べると履修しやすいものと思われるが、仕事の関係上、開講時間の履修が難しい場合は担当教員と相談の上、別途の授業時間・方法などを定める。

5. 参考書等

(1) 教科書：指定なし

(2) 参考書

1) 「身体活動と生活習慣病」日本臨床，2000

2) 「運動療法と運動処方〔第2版〕」身体活動・運動支援を効果的に進めるための知識と技術
文光堂，2008

3) 「最新スポーツ科学辞典」平凡社，2006

6. 履修選択に関するアドバイス

公開授業であり、各大学の学生、中学や高校の教員、専門職（健康運動指導士、ヘルスケアトレーナー、糖尿病療養指導士、保健師、栄養士など）、それ以外にも健康スポーツ医学に興味のある人であれば制限はない。

7. 日程表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担 当 者	キ ー ワ ー ド
1	6月15日(火) 18:00～21:00	健常者やスポーツ選手の 健康スポーツ医学	西田裕一郎	運動・トレーニングの原則・効果 運動・スポーツと栄養・休養 運動負荷試験と運動処方 健康づくりのための運動指針
2	6月22日(火) 18:00～21:00	介護・認知症予防 ー認知機能改善と運動ー	堀川 悦夫	認知症, 認知機能, 認知リハビリテーション, 脳機能計測
3	6月29日(火) 18:00～21:00	身体活動促進のための行動 科学的アプローチ	山津 幸司	行動変容 動機づけ, 運動継続 通信介入, 運動疫学
4	7月6日(火) 18:00～21:00	生活習慣病, 運動と遺伝子	西田裕一郎	遺伝子発現, 遺伝子多型 運動・身体活動によるメタボリックシン ドロームの予防・治療

緩和ケア特論（選択1単位）

教科主任：佐藤 英俊

開講期間：前学期 6月17日・24日・7月1日・8日 木曜 18:00～21:00

1. 一般学習目標（G.I.O）

高齢化社会の到来とともに、がん罹患する患者数およびがんによる志望者数が増加年々増加している。がん患者は、すべての病期において程度の差こそあれ、身体的苦痛・精神的苦痛・心理社会的苦痛・スピリチュアルな苦痛などを伴っているため、患者個人だけでなく患者を取り巻く諸々の環境を含めた全人的なケアが必要である。本講座では、緩和ケアの最近の潮流を踏まえた上で緩和ケアについて様々な角度から考えていく。

2. 講義項目

(1) 緩和ケア概論①	(6月17日)	地域包括緩和ケア科	佐藤 英俊
(2) 緩和ケア概論②	(6月17日)	満岡内科消化器科医院	満岡 聡
(3) 緩和ケアとチーム医療	(6月24日)	地域包括緩和ケア科	佐藤 英俊
(4) 緩和ケアと死生観	(6月24日)	圓光寺	五十嵐雄道
(5) 命についてのワークショップ①	(7月1日)	満岡内科消化器科医院	満岡 聡
(6) 命についてのワークショップ②	(7月1日)	満岡内科消化器科医院	満岡 聡
(7) 緩和ケアと音楽療法①	(7月8日)	音楽教室主宰	野田 正純
(8) 緩和ケアと音楽療法②	(7月8日)	音楽教室主宰	野田 正純

3. 個別学習目標

- (1) 緩和ケアについて概説できる。
- (2) 緩和ケアチームについて概説できる。
- (3) 日本人の死生観や終末期のあり方について考察できる。
- (4) 緩和ケア領域における音楽療法やボランティアのあり方について考察できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
ワークショップを含んだ公開授業なので出席回数により評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行います。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的注意
公開授業であり、緩和ケア一般に興味があれば制限はない。
- (2) 社会人学生に対する注意
止むを得ない事情で出席できない場合には、教科主任に事前連絡・相談を行い、代替学習手段（講義ビデオの視聴、課題レポート等）について指示と指導をうけること。

6. 参考書等

指定・推薦はない。

心理学的社会生活行動支援特論（選択1単位）

教科主任：堀 川 悦 夫

開講期間：前学期

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

高齢者・障害者（児）の社会生活行動支援を考える場合、心理学的側面からのアプローチは多くの視点から行われる。社会生活行動支援の対象となる人々においては、行動の動機づけ、そして社会生活行動支援の効果の評価という2つの部分が特に関わっている。また社会生活行動支援を行う立場の人々においても支援の内容やその結果の評価に心理学的アプローチが有用である。

自立を目指し、生活の質（QOL）を高めていくための支援のあり方、支援の評価手法などに学び、実践場面での応用をめざす。

2. 授業項目と概要

（担当者）

(1) 社会生活行動支援における心理学的側面

認知神経心理学分野

堀川 悦夫

1) 認知機能およびその評価法

2) 認知症とモビリティ維持手法

3) 介護負担とポジティブゲイン

4) 疫学的研究による認知機能低下予防の可能性

(2) 社会生活行動支援の新展開

1) Assistive Technology における主観的評価と数量化

2) 移動支援と主観的評価

3) 脳活動等の指標を用いた非言語的コミュニケーション支援研究

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席とレポートなどにより総合的に評価する

(2) 評価基準

6割以上の評価を得たものを合格とする

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義を基にして自主的に先行研究やその測定法などについて調べることが求められる。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

厳しいスケジュールの中でどのようにして学ぶ時間を得るかを工夫することも、今後の生活に生かせる貴重な体験ではある。とはいえ、履修への配慮をできるだけするので、遠慮なく相談して欲しい。

5. 参考書等

(1) テキスト

配付資料やスライドを用いる。

(2) 参考書

随時 紹介する。

6. 履修選択に関するアドバイス

人間の意識活動や行動に関する研究成果や研究法について心理学に限定せずに取り上げていく。受講生においても実践経験からの問題提起がなされることが期待される。数量化の手法やデータ処理についても取り上げることとなる。

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時限	項 目	担当者
1	4月13日(火) 5	認知機能及びその評価法(1)	堀 川
2	4月13日(火) 6	認知機能及びその評価法(2)	堀 川
3	4月20日(火) 5	認知症とモビリティ維持手法	堀 川
4	4月20日(火) 6	疫学的研究による認知機能低下予防の可能性	堀 川
5	4月27日(火) 5	Assistive Technology における主観的評価と数量化	堀 川
6	4月27日(火) 6	移動支援と主観的評価	堀 川
7	5月11日(火) 5	脳活動等の指標を用いた非言語的コミュニケーション支援研究	堀 川
8	5月11日(火) 6	総括	堀 川

高齢者・障害者生活支援特論（選択1単位）

教科主任：松 尾 清 美

開講期間：前学期 4月12日～6月7日 月曜 3時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

現在、障害者や高齢者の在宅ケアや地域生活に関することが問題にされており、従来型の施設収容型から在宅や地域生活支援型に方向転換されている。特に高齢者や障害者支援に関わる関係者や一般教育に見られる「高齢者や障害者は、可哀想とか手助けしなければならない」というような一種の思い込みにより、自立性が軽視され、介護性ばかりが重視される傾向も存在している。

一人一人の自立（律）生活に向けたニーズとデマンドに対応した支援方法を構築することを当福祉健康科学部門の課題としており、自立（律）を目指した支援方法と本人と家族の生活方法について、生活実態調査や動作分析、そして実際の生活行動支援などを通して知ることが必要である。当部門では、その研究を継続してきており、その研究成果を基に、クライアントのQOLの高い生活を実現し、自己尊厳性が守られる社会を構築していくべく努力している。

このような研究成果を基に講義を構築しており、具体的な障害・高齢者の生活理解を進めながら、その支援技術と理論を明確にするための学習を目的としている。また、それを他の人に説明できるようにする。

2. 授業項目と概要

		(担当者)
(1) 社会生活行動支援	福祉健康科学部門	松尾 清美
1) 生活支援とテクニカルエイド		〃
2) 高齢者・障害者の生活動作の理解		〃
① 補助器具（福祉用具）		〃
② 移動支援と環境整備		〃
③ コミュニケーション支援	高等教育開発センター	井手 将文
④ 住環境整備		松尾 清美
(2) 障害・高齢者の社会生活と社会的アクセス		〃
1) 社会生活行動支援の考え方		〃
2) 生活支援と社会環境との関連		〃

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

講義の内容理解と福祉用具の取扱い修得状況で評価する。また、講義の理解度はレポート、福祉用具の取扱いは実習にて評価する。出席状況も評価する。

(2) 評価基準

理解度と用具の取扱い状況を5段階で評価する。

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

筆記用具と動きやすい服装とくつを準備すること。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

福祉用具の取扱いについては実習を行うので必ず受けること。

5. 参考書等

(1) テキスト

「最新版テクニカルエイドー選び方・使い方」三輪書店（編著）長尾哲男，松尾清美，窪田 静，2003年出版，¥3,500（本体価格）

(2) 参考書

1) 「福祉用具支援論」，財団法人テクノエイド協会，市川 冽他著，2006年，¥4,200

2) 「福祉用具アセスメントマニュアル」中央法規出版，市川 冽他著，1998年，¥4,000（本体価格）

3) 「バリアフリーのための福祉技術入門」オーム社，足立芳寛（監修），後藤芳一（編著），平成10年出版，¥3,800

6. 履修選択に関するアドバイス

高齢者・障害者支援現場の状況，テクニカルエイドの具体的論理および技術を体感習得，新しい視点での支援技術を確立することを強く意識している。医療・福祉・生活など現場で役に立つと考えている。

7. 日 程 表

No.	月 日 (曜) 時 限	項 目	担 当 者
1	4月12日(月) 3	高齢・障害者の社会生活行動支援の考え方	松 尾
2	4月19日(月) 3	生活支援とテクニカルエイド(1) 移動支援	〃
3	4月26日(月) 3	生活支援とテクニカルエイド(2) コミュニケーション	井 手（非常勤講師）
4	5月10日(月) 3	生活支援とテクニカルエイド(3) コミュニケーション	〃
5	5月17日(月) 3	生活支援とテクニカルエイド(4) 住環境整備	松 尾
6	5月24日(月) 3	生活支援とテクニカルエイド(5) 社会生活行動支援	〃
7	5月31日(月) 3	生活支援とテクニカルエイド(6) 生活支援と社会環境	〃
8	6月7日(月) 3	総括	〃

地域医療科学特論（選択1単位）

教科主任：小 泉 俊 三

開講期間：前学期 4月12日～6月7日 月曜 5時限

1. 学習目標（G.I.O., S.B.O.）

医療の高度化と情報技術の進歩，少子高齢化と社会のグローバル化による人々の意識の変化，医療費の高騰などを背景とする医療変革の世界的潮流が，医療現場を急速に様変わりさせている。

地域医療科学特論では，外来診療，在宅医療，高齢者介護，救急医療，健康教育（予防医学）など，地域の保健・医療・福祉システムを理解し，地域包括医療における円滑な連携を推進し，専門職者として現場の諸問題に適切に対処するための基本的考え方を身につける。

2. 授業項目と概要

（担当者）

- (1) 地域包括医療総論：地域医療の本質を社会システム総体の中で位置付けると共に，医療の原点に立ち返って健康概念を考察し，保健・医療・福祉の専門職としての基本的あり方を説く。
(4月12日) 総合診療部 小泉 俊三
- (2) 予防医学・健康増進特論：近年，地域保健活動の中でも最も重視される健康増進（予防医学）活動の方法論（ストラテジー）について概説すると共に，数値目標を設定することの重要性を示す。
(4月19日) 総合診療部 小泉 俊三
- (3) 地域医療情報の共有化について：医療の情報化によって医療機関は専門性を高め，患者は病状に合った最適な診療を受けることが可能になる。具体例を挙げて最適診療への医療情報の共有化の必要性を示す。
(4月26日) 医療情報部 高崎 光浩
- (4) 電子カルテネットワークについて：地域における医療情報の共有化は，電子カルテ情報の標準化と一元化が不可欠である。地域完結型の医療を目指すうえで必要な電子カルテの基本構造を示す。
(5月10日) 医療情報部 高崎 光浩
- (5) 救急医療システム総論：救急医療は種々の組織が全力を投じ，ITなどを駆使し，行政や社会組織の全てとの緊密な連携によってはじめて行える。医療の縮図とも言える複雑な救急医療システムを理解する。
(5月17日) 救急医学 阪本雄一郎
- (6) 救命救急医療の現場における諸問題：救急疾患の種類と内容，緊急度と重症度，トリアージの実際などを通じて救急医療の特徴を理解させ，救急受診患者の受診行動やこれに対応する救急医療の具体的な問題を教示する。
(5月24日) 救急医学 阪本雄一郎
- (7) 高齢者医療介護制度特論：高齢者介護をめぐる制度上の諸問題を，国際比較を通じて概説すると共に，介護と自立，老化と世代間のコミュニケーションを巡る諸問題について医学的および学際的視点から概説する。
(5月31日) 総合診療部 小泉 俊三
- (8) 地域連携・在宅医療特論：医療現場での病院と診療所の連携，外来医療と在宅医療の連携の理想像について概説すると共に情報技術の進歩により可能となりつつある保健・医療・福祉の新しい展開を紹介する。
(6月7日) 総合診療部 小泉 俊三

3. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への出席。必要に応じてレポート提出。

個別に面接を行うこともある。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

試験答案の採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

4. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

今日の地域医療の全体像を把握してほしい。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業を撮影したビデオを視聴し、授業内容に沿った課題レポートを提出することで出席に代えることができる。

授業日程表とは別に集中授業を行うこともある。

その他、履修希望者と担当教員との調整により、別途の授業方法を定めることがある。

5. 参考書等

(1) 教科書

1) 「総合医療論，社会保障制度の生活者の健康(1) 系統看護学講座－専門基礎7」小泉俊三著，医学書院，第2版2001

2) 「予防医学のストラテジー：生活習慣病対策と健康増進」ジェフリー・ローズ著（水嶋他訳），医学書院，1998

3) 「救急医学」瀧 健治・西村謙一・十時忠秀著，新興医学出版社，2002

(2) 参考書

1) 「新たな医療連携の実践－その現状と方策－」武藤正樹編集，じほう，2001

2) 「POS－医療と医学教育の革新のための新しいシステム－」日野原重明著，医学書院，1973

3) 「緊急被爆医療対策」原子力安全研究協会編，2002

4) 「長崎救急医療白書」長崎救急医療協議会編，2001

5) 「こころの110番－外来における対応のポイント－」瀧 健治監修，佐藤 武・加藤博之著，永井書店，2000

6) 「この一冊で在宅患者の主治医になれる」飯島克巳著，南山堂，改訂2版 2002

7) 「21世紀プライマリ・ケア序説」伴信太郎著，プリメド社，2001

6. 履修選択に関するアドバイス

身近な地域医療がどのような仕組みで運営されているのかを理解すること，特に救急医療システムを理解することは，社会の現実を垣間見ることにもなり，これらの領域の専門職者だけでなく社会人として大変有意義なことである。救急医療を含め，我が国の地域医療についてその現状を学ぶことを通じて，地域包括医療についての正しい認識を養ってほしい。

アカデミックリーディング（選択必修1単位）

教科主任：池 田 豊 子

開講期間：後学期 木曜 3 時限

1. 一般学習目標

医学・看護学の分野の論文を中心に、語彙力、読解力の強化を目標とし、それによって英語での表現力を養う。

2. 学習項目（演習15時間）

- 1) 語彙を増やす。
- 2) 速読法，パラグラフリーディングを身につける。
- 3) 自分の専攻分野における研究に役立つ英語に慣れる。

3. 個別学習目標

日常的に英語文献に触れるようにする。
専門分野での英語による発信力をつける。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
講義への出席，予習，発表などを加味し総合的に評価する。
- (2) 評価基準
8回の講義の3分の2の出席が要求される。
教材の熟読を前提として，発表，質問など授業への貢献度を評価する。
- (3) 評価結果の開示
レポート課題の意図を開示し，提出されたレポートを解説し個別指導を行う。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
特になし
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
特になし

6. 参考書等

受講学生のニーズにあわせて，教材を編集する。

7. その他

初回の授業において，明示する。

看護学専攻 授業科目開設表

区 分	授 業 科 目	開講 時期	授業を行う 年 次	単 位 数			備 考
				講義	演習	実習	
必修科目	看護学研究法演習		1・2	2			14単位を修得すること。
	看護学特別研究		1～2	12			
選択必修科目	看護理論	前	1・2	2			8単位以上を修得すること。
	看護倫理	後	1・2	2			
	看護研究概論	前	1・2	2			
	看護学教育概論	後	1・2	2			
	看護管理	前	1・2	2			
専門選択科目	看護援助学特論	前	1・2	1			8単位以上を修得すること。 (修士課程医科学専攻の専門選択科目のうち2単位以内を含めることができる)
	看護機能形態学特論	後	1・2	1			
	急性期看護学特論	前	1・2	1			
	慢性期看護学特論	前	1・2	1			
	母性看護学特論	前	1・2	1			
	小児看護学特論	前	1・2	1			
	母子看護展開論	通	1・2	1			
	老年看護学特論	後	1・2	1			
	地域看護学特論	後	1・2	1			
	在宅看護学特論	後	1・2	1			
	国際看護学特論	後	1・2	1			
	精神看護学特論	後	1・2	1			
	看護統計学演習	前	1・2	1			
	看護教育方法論	前	1・2	1			
	がん看護学特論	前	1・2	1			
	実践課題実習	通	1・2			2	

I 看護学専攻の目的と履修案内

修士課程看護学専攻の理念，目的・目標，教育方針

【医学系研究科の基本理念】

医学系研究科の基本理念「医学・医療の専門分野において，社会の要請に応えうる研究者および高度専門職者を育成し，学術研究を遂行することにより，医学・医療の発展と地域包括医療の向上に寄与することを旨とする。」に基づき，次のような目的・目標と方針によって教育研究を行います。

【修士課程看護学専攻の教育目的】

高度の専門性を有する看護職者にふさわしい広い視野に立った豊かな学識と優れた技能を有し，国内および国際的に看護学の教育，研究，実践の各分野で指導的役割を果たすことができるような人材を育成します。

【修士課程看護学専攻の教育目標】

教育成果として，次のことを達成目標とします。

1. 高い倫理観と豊かな人間性を育み，看護学の分野での指導的役割を果たす能力を身に付ける。
2. 幅広い専門的知識・技術を身に付け，看護学の分野での実践で発揮する。
3. 自立して研究を行うのに必要な実験デザインなどの研究手法や研究遂行能力，或いは研究能力を備えた高度専門職者としての技量を身に付ける。
4. 幅広い視野を持ち，国内外の研究者あるいは専門職者と専門領域を通じた交流ができる。

【修士課程看護学専攻の教育方針】

目的・目標の達成に向けて，次の方針のもとにカリキュラムを編成しています。

1. 高い倫理観に基づき看護についての問題を包括的にとらえ，柔軟に解決する研究能力を持った看護職者を育成します。
2. 教育，研究，実践を通して，看護の多様な問題に対処できるように自ら研究し解決する習慣を身につけます。

履修について

1) 履修計画

入学後1週間以内に，修士課程2年間の履修計画を立てる必要があります。計画にあたっては，研究指導教員の助言の下に，各自の希望する進路および修学目的に適合した履修計画を立ててください。

修士課程2年間の履修計画は「履修届」として，学生サービス課大学院教育担当に提出します。

2) 授業科目

授業科目の構成は，看護学の基礎の理解を深めることを目的とした「選択必修科目」，看護学の専門領域の理解を深め研究を行う上で必要となる「専門選択科目」および学位論文作成のために行う研究とその指導を行う「必修科目」から成り立っています。

3) 修了要件

修士課程を修了するためには，2年以上在学し，下記の所要科目30単位以上を修得し，学位論文審査に合格することが必要です。

必修科目：2科目，14単位

選択必修科目：4科目，8単位以上

専門選択科目：8単位以上（ただし，2単位までは医科学専攻の専門選択科目の単位を含めることができる。）

合計：30単位以上を修得する

4) 履修届，履修科目変更届，再履修届

授業科目の履修にあたっては，原則として「看護学専攻授業科目開設表」の年次および学期別区分にしたがって履修します。

- ・科目の履修については，入学後1週間以内に，「履修届」を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。
- ・履修届の提出期限後に，履修科目の変更（追加又は取消）をするときは，「履修科目変更届」を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。
- ・当該年次以後に再履修を必要とする場合には，次年次開始から1週間以内に，「再履修届」を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

講義・演習・実習等について

1) 授業時間

講義・演習・実習等の時間は1コマ90分で行います。

- ・1コマ目 8：50～10：20
- ・2コマ目 10：30～12：00
- ・3コマ目 13：00～14：30
- ・4コマ目 14：40～16：10
- ・5コマ目 16：20～17：50

講義・演習・実習等の日程は，授業日程表により実施しますが，変更することがあります。掲示・メールでの連絡あるいは教員の指示に注意してください。

なお，社会人学生で，授業日程表による授業を受けられない場合は，各教科主任と相談の上，別途に履修時間・方法を定めてください。

2) 講義室

- ・講義は主に看護学科棟カンファレンスルームで行いますが，講義内容によっては場所が異なります。掲示・メールでの連絡あるいは教員の指示に注意してください。
- ・講義室の場所については，建物配置図を参照してください。
- ・諸事情により，授業を欠席する場合は，欠席届を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

成績評価について

授業科目の成績評価は，記述試験，口答試験，レポート，その他担当教員が必要と認めた方法により，秀，優，良，可と不可の判定により行い，秀，優，良，可を合格とし，その授業科目の単位が与えられます。

成績の評価は，次の基準により行います。

- 秀 100点～90点
- 優 89点～80点
- 良 79点～70点
- 可 69点～60点
- 不可 59点以下

1) 本試験

試験は、授業科目の担当教員が必要と認めた方法で適宜実施します。各授業担当教員の指示に従ってください。

2) 追試験

追試験は、傷病その他やむを得ない理由により本試験を欠席した者で、あらかじめ試験欠席届（医師の診断書又は理由書を添付）を提出し、当該授業科目の担当教員が認めた者に限り受験することができます。

3) 再試験

再試験は、本試験又は追試験の不合格者のうち、あらかじめ再試験受験願を提出し、当該授業科目の担当教員が認めた場合に限り行います。再試験における合格の評価は「可」とします。ただし、次年度以降に当該授業科目を再履修した場合には、「可」より上位の評価を与えることができます。

研究計画と学位論文の審査について

(1) 研究計画

入学後2週間以内に、修士課程で行う研究の方向性、計画、方針等について指導教員とよく相談のうえ、研究の方向性を示すテーマ（研究課題）と研究計画を自ら設定し、「研究課題届」と「研究指導計画書」を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

(2) 日 程

学位論文の審査までの日程は以下のようになっておりますので、これを留意のうえ研究計画を立ててください。

1 年次の4月上旬：研究課題届と研究指導計画書の提出

2 年次の12月上旬：学位論文題目の提出締切（指導教員を経て学生サービス課大学院教育担当に提出）

1 月初旬：学位論文の提出締切（学生サービス課大学院教育担当に提出）

1 月中旬：論文提出資格の認定（履修単位の認定）

研究科委員会にて学位論文審査員の決定

2 月上旬：公開審査会（論文発表会）、最終試験（口答試問）

2 月中旬：論文概要の提出締切（学生サービス課大学院教育担当に提出）

3 月上旬：研究科委員会にて学位授与の判定

3 月下旬：学位記授与式

(3) 学位論文審査の方法および審査基準

方 法

1) 学位論文の審査は、研究科委員会が選出した3人の審査員による学位論文の審査ならびに最終試験によって行う。

2) 学位論文審査に当たっては公開の論文発表審査会を開催する。

3) 最終試験は、学位論文を中心として、これに関連のある科目について口述により行う。

審査基準

1) 学位論文は、本専攻の目的に照らして学術的あるいは社会的に価値を有するものとする。

2) 最終試験の結果は、可または不可で評価し、審査員3人による評定が全て可であることをもって合格とする。

(4) 学位論文審査手続き

1) 学位申請の書類

修士の学位を申請する場合は、次の書類を提出期限までに学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

- | | |
|--------------------|----------------------|
| 1. 学位論文審査願 | 1 部 |
| 2. 学位論文 | 4 部（電子媒体での提出もお願いします） |
| 3. 論文要旨〔400字以内とする〕 | 4 部（電子媒体での提出もお願いします） |
| 4. 参考論文（有る場合） | 4 部 |

(5) 修士学位論文作成要領

1) 「学位論文」は次の様式により作成してください。

① 学位論文

規 格：A 4 縦置き，横書き，上下左右余白 各25mm

文 字 数：1 行35文字，30行程度

フ ォ ン ト：和文 明朝体，12ポイント

英文 該当者があった場合に検討する。

図 表：A 4 に納まる範囲内で，大きさは指定しません。

論文の枚数：10ページ程度（図表等は除く）を目安とします。

体 裁：表紙をつけて製本する。

基本的スタイル：以下の項目，順序で作成してください。

○論文題名，著者名，所属，指導教員名→表紙に記入する。

・目 次

○研究目的

○研究枠組み，研究仮説

○研究方法

○研究結果

○考 察

○結語，今後の課題

・文 献

・資 料

(6) 論文概要について

上記○印の内容を4ページ以内（図表を含む）にまとめたものを電子媒体にて作成してください。

(7) 「学位論文」および「学位論文概要」の製本について

学位論文は各自表紙をつけて製本する。

学位論文概要は学生全員分をまとめて一冊に製本する。

なお，表紙は看護学専攻で一括購入し年度ごとに統一する。

オフィスアワーについて

「オフィスアワー」とは、各教員が学生の方々からの個別相談に応じるために設定している時間のことです。授業や学習に関する質問や学生生活・進路相談などについての相談があれば、教員は随時相談に応じるのですが、他の授業や会議、診療などで離れるため、常に教員室や研究室に居ることは限りません。

そこで、学生の方々の来訪に備えて教員室や研究室で待機し、相談に応じるのに都合の良い時間帯を「オフィスアワー」として、教員ごとに設定しており、その詳細はホームページから参照できます。

諸規程について

規程については、医学系研究科 HP に掲載していますので、そちらを参照してください。

その他、留意事項

(1) メールについて

学生サービス課からの連絡事項は、学生用のメールアドレスへメールを送信しますので、1日1回はメールを確認してください。

(2) 授業料免除と奨学金について

授業料免除・奨学金を希望する場合は、学生サービス課総務担当で申請の手続きを行ってください。

また、授業料免除・奨学金に関する情報は、学生サービス課前の掲示板に掲示しますので、必ず確認してください。

(3) 住所届について

住所届は、大学院オリエンテーション終了後、大学院教育担当に提出してください。なお、住所届提出後に、住所が変更した場合も、住所変更届を学生サービス課大学院教育担当に提出してください。

(4) 駐車許可証の交付について

自家用車により通学する場合は、学生サービス課総務担当で「駐車許可証」の交付手続きを行ってください。（原則として大学までの距離が2 km以上の場合に限る。）

(5) 学籍異動について

在学中、様々な事情により学籍の異動（休学・退学・改姓等）が生じる場合は、一ヶ月前までに学生サービス課大学院教育担当に届け出てください。

研究指導計画書（研究実施経過報告書）

平成 年 月 日

医学系研究科・修士課程 専攻

学籍番号

氏 名 印 主指導教員名 印

		研 究 指 導 計 画		実 施 経 過 ・ 実 績 報 告	
年次		履修予定授業科目(時間)	研 究 指 導* 計 画	研究実施経過報告 (研究指導計画に沿って、進捗状況、実績、 成果等を記載)	指導教員のコメント (学生の取組み状況、指導内容、 指導計画の変更等を記載)
1 年 次	前 期				
	後 期				
2 年 次	前 期				
	後 期				

* 研究指導は主指導教員の指揮と研究グループ等教員の役割分担により、組織的に行う。

研究指導計画書(研究実施経過報告書)【記載例】

医学系研究科・修士課程 看護学

学籍番号

氏 名

印

主指導教員名

印

研究指導計画(履修予定授業科目,研究指導計画)は
指導教員と相談の上,入学後1週間以内に修了までの
計画を入力してください

実施経過・実績報告は,
各年次終了時(2月中旬～3月上旬)
に担当係にて回収・確認を行いますので,
指導教員と相談の上,随時作成してください。

		研 究 指 導 計 画		実 施 経 過 ・ 実 績 報 告	
年次		履修予定授業科目(時間)	研 究 指 導* 計 画	研究実施経過報告 (研究指導計画に沿って,進捗状況,実績, 成果等を記載)	指導教員のコメント (学生の取り組み状況,指導内容, 指導計画の変更等を記載)
		学生主作成	教員主作成	学生主作成	教員主作成
1	前期	看護理論 (32) 看護管理 (32) 看護研究概論 (32) 看護援助学特論 (16) 急性期看護学特論 (16) 慢性期看護学特論 (16) 母性看護学特論 (16) 小児看護学特論 (16) がん看護学特論 (16) 母子看護展開論 (16) 看護統計学演習 (16) 看護学研究法演習 (32)	1) コースワークと研究テーマの設定に関する助言指導。 2) 研究内容および研究計画の立案に関する助言指導。 3) 関連文献の検索・レビューの指導。 4) 抄読会に参加させ,欧文論文の読解指導。	1) 指導教員と相談の上,研究テーマを「●●●●●●●●」と設定した。 2) 研究内容を具体化するために,関連分野に関する情報検索法を学習し,研究テーマに関する文献を収集した。 3) 研究テーマの焦点化が図れず,指導教員の助言により看護領域だけでなく,●●領域の文献を追加した。 4) 文献レビューを通して,研究テーマに関する背景や問題の所在が理解でき,研究の最新の情報が把握できた。	1) 学生の希望する研究テーマの方向性について承認し,助言を行った。 2) 研究テーマに関連する文献収集を促した。 3) 看護学研究法演習での検討を通して,先行研究のまとめとテーマの焦点化を指導した。
1	後期	看護倫理 (32) 看護学教育概論 (32) 看護機能形態学 (16) 老年看護学特論 (16) 地域看護学特論 (15) 在宅看護学特論 (16) 国際看護学特論 (16) 精神看護学特論 (16) 看護学研究法演習 (32)	5) 看護学研究法演習や抄読会における討論を通して,研究戦略の設計,論述,論旨の展開等に関する指導。 6) 研究テーマの焦点化とそれに沿った研究戦略の設計・実施に関する指導。 7) 研究計画書の作成に関する助言指導。 8) 構想発表会の開催。 9) 予備調査実施に関する指導。 10) 関連学会・研究会などに参加させ,当該分野の視野を広げさせる。 11) 論文中間報告会・学位論文審査会に参加させ,学位論文作成・審査までのプロセスについて学ばせる。	5) 研究に必要な手法を学習した。 6) 指導を受けながら研究計画書を作成した。 7) 構想発表会において,研究グループの教員や院生から「●●」について助言を受けた。 8) 7)の助言に基づき「●●」について文献検討を重ね,研究テーマを「●●●●●●●●●●」と設定し直し,研究計画を修正した。 9) 本調査を開始する前段階として,研究計画に基づき,予備調査を開始した。 10) ●●学会に参加し,研究意欲が高まった。 11) 修士論文の中間報告会・公開審査に参加し,次年度に至る研究プロセスが具体化でき,プレゼンテーション技法や学位審査の実際について学んだ。	4) 文献レビューがほぼ終了したので,研究テーマの焦点化を図るよう指導した。 5) 焦点化された研究テーマについて研究計画書の作成を指導し,構想発表会を通して,更に修正を加えさせた。 6) 予備調査の実施結果を検討し,研究内容に反映させるよう指導した。 7) ●●学会に参加を促し,最新レベルの関連研究に触れ,情報交換の機会を持つように指示した。

2 年 次	前期	看護教育方法論（16） 実践課題実習（90） 看護学特別研究（180）	12) 予備調査の結果に基づく研究計画修正についての指導助言。 13) 上記5) 6) を継続 14) 倫理審査委員会審査の申請に関する指導。 15) 調査・実験等の実地指導。 16) 調査・実験等データの解析と解釈に関する指導。 17) 研究結果のまとめ方と考察、プレゼンテーションについての指導。 18) 関連学会・研究会等で成果を発表させ、他研究者との討論を通して、見識と技量を磨かせる。 19) TA として教育・研究に参画させ、当該分野の理解と技能を深めさせる。	12) 予備調査の結果分析を通して、研究内容を吟味し、研究計画の修正、確定を行った。 13) 倫理委員会に申請し、承認を得た。 14) 研究協力機関に協力を依頼し、研究計画書を提示し、説明・同意を得た。 15) 研究計画に沿って本調査に着手した。 16) これまでの結果を整理し、●●学会で発表した。 17) TA として教育・研究に参画し、●●●分野の理解が深まった。	8) 研究計画を具体化し、順調に実施している。 9) データの分析方法について、看護統計学演習の授業を再度、聴講するよう助言した。 10) これまでの結果を●●研究会で発表するように指示した。 11) 結果のまとめ方を指導した。
	後期	看護学特別研究（180）	20) 上記16) 17) を継続実施。 21) 論文中間発表会での他者からの意見も参考にして、論文作成の準備と作成に関する具体的な指導。 22) 論文の素稿作成。 23) 論文最終稿作成。 24) 論文投稿に係る具体的指導。 25) 学位論文審査に係る具体的な指導。	18) 論文中間報告会で報告し「●●●●」について助言を受けた。 19) 上記18) の助言を参考に、「●●●●」の検討を行った。 20) データの整備を進めるとともに、論文の素稿作成に着手した。 21) 論文最終稿を作成した。	12) 修士論文の作成状況を確認し、修正を繰り返すよう指導した。 13) 学位論文および関係書類の提出・確認

* 研究指導は主指導教員の指揮と研究グループ等教員の役割分担により、組織的に行う。

学位論文を申請する時、最終版を併せて提出してください。

Ⅱ 授業科目の学習指針等 (シラバス)

シラバスとは

シラバス [syllabus] は、個々の授業科目の目的、内容、目標、予定など授業の概要を書き示したもので、この学習要項では「授業科目の学習指針等」として掲載してあります。

各授業科目は、医学系研究科の教育目的・目標に沿って年次ごとに開講、配置されていますが、その教育課程における個々の授業科目の位置付け（開講目的）や学習内容・到達目標等をシラバスで明示することにより、教育課程の内容を保証するとともに、学生が、いつ、何を、何のために、どのようにして学び、どこまで到達すべきかを知る学習指針として、重要な役割を果たすものです。

シラバスに記載されている項目の説明

【教 科 主 任】 各授業科目の担当責任者で、教科主任の下に講義・実習等の編成、担当者の配置ならびに試験の実施と成績判定が行われます。

【G. I. O. (General Instructional Objective)：一般学習目標】 各学科の教育課程における当該授業科目の位置付け（開講目的）を示すとともに、この授業により何ができるようになるか、（すなわち、この授業の学習がなぜ重要なのか、それによって学習者のニーズがどのように満たされるか）の総括的な目標が掲げられています。

【講義・実習項目】 授業科目を構成する講義・実習等の項目と、それぞれを担当する教員名が示されています。

【S. B. O. (Specific Behavioral Objective)：個別学習目標】 当該授業科目の一般学習目標（G. I. O.）を達成するためには、どのようなことができればよいのか、具体的な行動の表現で個別の学習目標が示されています。

【評価の方法と基準】 当該授業科目の成績評価の方法と、成績判定の基準が示されています。

【履 修 上 の 注 意】 各授業科目を履修する上での心構え、注意等が示されています。

【テ キ ス ト 等】 当該授業に必要な参考書を、次の区分に分けて紹介してあります。

- 1) テキスト：教科書として用いるもので、必ず手に入れておく必要があるもの。
- 2) 指定図書：重要な参考書として利用頻度が高く、手に入れておくことが望ましいもの。これについては、原則的に附属図書館医学分館に配架されています。
- 3) 参 考 書：上記以外の参考書として挙げられています。

【日 程 表】 当該授業科目の講義・実習等および試験の日程、担当者とともに、講義項目のキーワードが示されています。講義を受ける際の準備や自己学習などに活用してください。

注：医学系研究科のシラバスは、ホームページにも掲載してあるので、利用ください。

看護学研究法演習（必修2単位）

教科主任：各指導教員

開講期間：1年次の前・後学期

1. 一般学習目標

修士課程看護学専攻の目的に沿って、自立して研究を行うのに必要な研究デザインや研究戦略（課題の抽出・設定，仮説・立証計略の立案，方策・方法の考案，手順・計画設計など）の理論を学び，自らが立案する素養を身につける。

2. 授業項目

（担当者）

- (1) 論文読解演習（40時間）（主指導教員および当該研究グループ教員）
主指導教員の研究グループごとに論文読解演習を行い，読解を担当し発表する。
- (2) 研究設計演習（20時間）（主指導教員および当該研究グループ教員）
主指導教員の研究グループごとに研究の設計，遂行等に関する検討会（セミナー）を行い，各自の研究について討論する。

3. 個別学習目標

- (1) 論文読解演習
 - 1) 欧文論文を読解し，論文内容の要旨を説明できる。
 - 2) 論文著者の立場になって，論旨の展開を説明できる。
- (2) 研究設計演習
 - 1) 各自の研究テーマに沿って，研究デザインや研究戦略を立案できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
論文読解演習や検討会（セミナー）の学習状況等で評価する。
- (2) 評価基準
上記の授業あるいは相当する学習内容を修めていること。
- (3) 評価結果の開示
上記評価結果を開示する。
希望者は各指導教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

特になし

6. 参考書等

特になし

7. 授業日程

論文読解演習日程および研究設計演習日程

主指導教員の研究グループごとに開催されます。主指導教員と日程を打合せてください。

看護学特別研究（必修12単位）

教科主任：主指導教員

開講期間：1，2年次の前・後学期

1. 一般学習目標

各自の研究テーマに沿って、研究を遂行するために必要な能力，方法等を研究の実践を通して学び、自立して研究を行う素養を身につける。

2. 授業項目

（担当者）

(1) 研究実習（360時間）

（主指導教員および当該研究グループ教員）

各自が研究を実践する過程で直面する様々な問題に対して、解決方法を見出すための助言・指導等を毎週4時間程度行う。

(2) 学会等実習（適宜）

（主指導教員および当該研究グループ教員）

関連学会や研究会等に参加させ、研究に対する広い視野と深い見識を養うとともに、プレゼンテーション等の技量を訓練する。

3. 個別学習目標

(1) 研究実習

- 1) 各自がデザインした研究を開始するための実験，調査等の準備ができる。
- 2) 計画した実験，調査等を遂行し，必要に応じて柔軟な変更・調整ができる。
- 3) 実験，調査等データの解析と解釈が適切にできる。
- 4) 学会発表あるいは論文としてデータをまとめることができる。
- 5) 論文の原稿作成，投稿，発表までの過程を遂行できる。

(2) 学会等実習

- 1) 関連分野の様々な研究動向を理解し，各自の研究に活用できる。
- 2) 他者の研究発表を理解し，適切に質疑討論できる。
- 3) 自己の研究を明快に発表し，質問等に対して適切に応答できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

研究実習等の学習状況にて評価する。

(2) 評価基準

上記の授業あるいは相当する学習内容を修めていること。（研究実施経過報告）を主指導教員に提出。

(3) 評価結果の開示

上記研究実施経過報告を開示する。希望者は主指導教員へ問合せをすること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

研究実習（360時間）は，各自の論文研究を具体的に実行するための時間ではなく，研究遂行に必要な能力を養うためのもので，各自の積極的な取り組みが必要です。

必修科目

6. 参考書等：特になし

7. 授業日程：主指導教員と相談の上，研究実習時間を設定してください。

看護理論（選択必修2単位）

教科主任：幸 松 美智子

担当者：木 村 裕 美

開講期間：1・2年次前学期

1. 一般学習目標

看護現象を説明している理論の基本的な成り立ちや構造を学習し、それぞれの理論の特徴や限界を分析する。また、看護実践を支える哲学に関して概観し、哲学と科学と看護との関係に関しても洞察を深める。その上で、それぞれの理論の実践の中における活用の現状を分析し、可能性を考察する。

2. 学習項目

- 1) イントロダクション
- 2) 看護システム論
- 3) 地域看護論

3. 個別学習目標

- 1) 看護理論の変遷を概観するとともに、看護理論の基本的な成り立ちや構造について理解を深める。
- 2) 各理論の時代背景や基盤とする知識体系等から理論の主要概念・命題および看護実践における有用性について考察する。
- 3) 看護学構築における看護システム論の意義と課題を、システム論の基本的な成り立ちや構造から概観し、その特徴や有用性、および限界を分析、考察する
- 4) 看護システム論におけるオレム看護理論の意義を、その構造（目的、基本概念、定義、関係性、命題等）と実践における有用性、その限界から考察する。
- 5) 地域における人々の健康問題、生活環境をアセスメントするための諸理論およびケア概念について理解し、効果的な地域看護実践について考察する。

4. 評価の方法と基準

評価方法

授業への出席やグループワークへの参加の状況、およびレポート提出等により総合的に評価する。

評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年10月1日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

1) 一般的な注意事項

主体的に問題意識を持ち、自己学習をベースにした積極的なディスカッション等を通して、視野を広げ知識や考察力を高める。

2) 社会人学生に対する履修上の注意

授業日程に沿った受講ができない場合は、授業開始時までに教科主任・幸松（内線2553）まで連絡し、相談すること。

6. 参考書等

- 1) オレム看護論 第4版 看護実践における基本概念 小野寺杜紀 医学書院
- 2) ワトソン看護論 人間科学とヒューマンケア 稲岡文昭他訳 医学書院
- 3) コミュニティーズパートナー 地域看護学の理論と実際 第2版 金川克子監訳 医学書院

7. 日 程 表

No.	月日（曜）	コマ	講 義 テ ー マ	担当者	備考（教室等）
1	4月12日(月)	2	看護理論とは	幸 松	5 FCR
2	4月26日(月)	1	看護システム論の概観	〃	〃
3	4月26日(月)	2	オレム看護理論の構造を理解する	〃	〃
4	5月10日(月)	1	オレム看護理論の主要概念を理解する	〃	〃
5	5月10日(月)	2	オレム看護理論の実践における有用性を理解する	〃	〃
6	5月24日(月)	1	オレム看護理論の限界と今後を考察する	〃	〃
7	5月24日(月)	2	オレム看護理論の限界と今後を考察する	〃	5 FCR
8	6月7日(月)	2	オレム看護理論による事例検討	〃	〃
9	6月21日(月)	1	キング・ロイ・ペプロウ, Mニュートン・ワトソン各理論についての有用性の検討	〃	〃
10	6月21日(月)	2	キング・ロイ・ペプロウ, Mニュートン・ワトソン各理論についての有用性の検討	〃	〃
11	7月5日(月)	2	地域活動に活用するモデル・理論・概念	木 村	〃
12	7月5日(月)	3	地域活動に活用するモデル・理論・概念	〃	5 FCR
13	7月12日(月)	2	地域活動に活用するモデル・理論・概念	〃	〃
14	7月12日(月)	3	地域活動に活用するモデル・理論・概念	〃	〃
15	7月26日(月)	2	地域活動に活用するモデル・理論・概念	〃	〃
16	7月26日(月)	3	地域活動に活用するモデル・理論・概念	〃	〃

看護倫理（選択必修2単位）

教科主任：藤田君支

開講期間：1・2年次後学期，火曜日2次限

1. 一般学習目標

看護における倫理的原則を理解して，現代医療における倫理的諸問題，臨床看護場面における倫理，医療者と患者および家族との関係に関する学習を深め，看護専門職としての役割を理解する。

2. 学習項目（講義16時間 演習14時間）

（担当者）

- | | |
|---|-------|
| 1) 研究者の礼儀としての研究倫理 講義1時間／演習1時間 | 村久保雅孝 |
| 2) 援助専門職の職業倫理 講義1時間／演習1時間 | 〃 |
| 3) 見舞い客への助言 講義1時間／演習1時間 | 〃 |
| 4) 医療事故と患者・医療者（援助者）へのサポートシステム 講義1時間／演習1時間 | 〃 |
| 5) 精神科医療・看護における倫理的課題 講義2時間／演習6時間 | 山川 裕子 |
| 6) 医療・看護の歴史的背景 講義2時間 | 藤田 君支 |
| 7) 看護と倫理的原則 講義4時間 | 〃 |
| 8) 患者の立場からみた倫理的問題 講義4時間 | 田渕 康子 |
| 9) 臨床における倫理的課題と問題解決 演習4時間 | 藤田 君支 |

3. 個別学習目標

- 1) 研究協力者へのインフォームドコンセントとディセプション，被検者の利益／不利益の平等性，研究上のトラブルについて説明できる。
- 2) 援助専門職の職業倫理を，個人情報保護，援助上のインフォームドコンセント，援助外関係の禁止，援助者の専門性の維持・向上，被援助者の独立性の尊重の観点から説明できる。
- 3) 見舞い客への倫理的配慮を具体的に指示できる。
- 4) 医療事故関係者への支援行為を説明できる。
- 5) 精神科医療・看護における倫理的課題について議論できる。
- 6) 医療・看護の歴史的背景と倫理的課題について説明する。
- 7) 高齢者看護・介護における倫理的課題について理解できる。
- 8) 患者・家族の医療事故に対する認識と医療者の認識との違いについて理解できる。
- 9) 臨床における倫理的課題について，事例を用いて問題解決的な意思決定ができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席状況および課題発表・レポートによる総合評価を行う。

(2) 評価基準

成績の評価は，次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は，成績発表後2週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の日時、内容、準備等については、担当教員の指示を確認する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は下記の日程表どおりに開催されます。止むを得ない事情で出席できない場合は、代替の学習手段・課題について、講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

サラ・フライ著 看護実践の倫理 倫理的意思決定のためのガイド 日本看護協会出版会
 ダニエル・F.チャンプリス（著），浅野祐子（翻訳） ケアの向こう側－看護職が直面する道徳的・倫理的矛盾 日本看護協会出版会 2002
 安藤寿康・安藤典明（編） 事例に学ぶ心理学者のための研究倫理 ナカニシヤ出版
 神田橋條治著 発想の般跡 岩崎学術出版社
 ヴァン・デン・ベルク著（早坂泰次郎・上野凜訳） 病床の心理学 現代社
 山内桂子・山内隆久著 医療事故 朝日新聞社

7. 日 程 表

番号	月 日	コ マ	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	10月5日	2	研究者の礼儀としての研究倫理	村久保雅孝	地域・国際保健看護学
2	10月12日	2	援助専門職の職業倫理	村久保雅孝	地域・国際保健看護学
3	10月19日	2	見舞い客への助言	村久保雅孝	地域・国際保健看護学
4	10月26日	2	医療事故と患者・医療者（援助者）へのサポートシステム	村久保雅孝	地域・国際保健看護学
5	11月2日	2	精神科医療・看護における倫理的課題	山川 裕子	地域・国際保健看護学
6	11月9日	2	〃	山川 裕子	地域・国際保健看護学
7	11月16日	2	〃	山川 裕子	地域・国際保健看護学
8	11月30日	2	まとめ	山川 裕子	地域・国際保健看護学
9 10	12月7日	2, 3	患者の立場からみた倫理的問題	田渕 康子	成人・老年看護学
11 12	12月14日	2, 3	医療・看護の歴史的背景 倫理的原則	藤田 君支	成人・老年看護学
13	12月21日	2	高齢者看護・介護における倫理的課題， 医療資源の配分	藤田 君支	成人・老年看護学
14 15	1月18日	2, 3	臨床における倫理的課題と対処 4分割表を用いた事例分析	藤田 君支	成人・老年看護学

※講義の日時については、未定や変更があるため、担当教員に確認する。

看護研究概論（選択必修2単位）

教科主任：齋藤 ひさ子

開講期間：前学期 木曜日 4時限

1. 一般学習目標

看護学修士に要求される研究実践能力を習得する。基本的な看護研究過程と方法論に関する知識と理論を体系的に学習し、具体的展開方法を習得する。修士課程で作成する学位論文に必要な妥当で信頼性の高い科学的アプローチが自ら実施できるようになる。この過程を通して、研究と看護実践との関係を理解し、研究の意義と役割について考察する。

2. 学習項目

1) 研究の意義	(講義 2 時間)	成人看護学	大田 明英
2) 研究の準備	(講義 2 時間)	母子看護学	齋藤ひさ子
3) 研究デザイン	(講義 2 時間)	〃	〃
4) 研究方法 (量的研究)	(講義 6 時間)	〃	〃
5) 研究方法 (質的研究)	(講義 6 時間)	精神看護学	山川 裕子
6) 研究データの収集法	(講義・演習 2 時間)	母子看護学	齋藤ひさ子
7) 研究データの分析	(講義 2 時間)	〃	〃
8) 研究計画書	(講義・演習 2 時間)	〃	〃
9) 看護研究の公表	(講義 2 時間・演習 2 時間)	成人看護学	大田 明英
10) EBN と看護研究	(講義・演習 2 時間)	母子看護学	齋藤ひさ子

3. 個別学習目標

- 1) 看護研究の必要性について述べることができる。
- 2) 適切な研究課題を選択する方法について説明できる。
- 3) 文献を効果的に検索し、批判的に検討ができる。
- 4) 研究課題に対応した研究デザイン、研究方法について説明できる。
- 5) 研究データの収集と分析方法について説明できる。
- 6) 自己の研究計画書の作成について具体的に説明することができる。
- 7) 研究成果の公表について計画することができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への出席状況、学習課題への取り組み状況、レポートなどにより総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年10月1日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

授業の形式は、講義のほか、グループワークによる学習成果の発表および討議による授業形態をとるので、学生の主体的な学習を通して知識や考察を深めることが要求される。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

講義については日程表の通りに実施される。やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指示を受けること。

6. 参考書等

(1) 教科書：なし

(2) 参考書：講義テーマに関連した文献等を適宜、紹介する。

7. 日 程 表

番号	月 日	コ マ	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	4月16日(金)	4	研究の意義	大田 明英	成人看護学
2	4月22日(木)	4	研究の準備 文献検索と文献検討, 研究疑問	齋藤ひさ子	母子看護学
3	5月6日(木)	4	研究デザイン (量的アプローチと質的アプローチ)	〃	〃
4	5月13日(木)	4	研究方法 (量的研究)	〃	〃
5	5月20日(木)	4	〃	〃	〃
6	6月3日(木)	4	〃	〃	〃
7	6月10日(木)	4	研究方法 (質的研究)	山川 裕子	精神看護学
8	6月17日(木)	4	〃	〃	〃
9	6月24日(木)	4	〃	〃	〃
10	7月1日(木)	3	研究データの収集法	齋藤ひさ子	母子看護学
11	7月1日(木)	4	看護研究の公表(1) 論文の書き方から投稿のプロセス	大田 明英	成人看護学
12	7月8日(木)	4	研究データの収集法, 分析	齋藤ひさ子	母子看護学
13	7月15日(木)	4	看護研究の公表(2) プレゼンテーション技法	〃	〃
14	7月22日(木)	4	研究計画書	〃	〃
15	7月29日(木)	4	EBN と看護研究	〃	〃
16	8月5日(木)	4	看護研究まとめ	〃	〃

看護学教育概論（選択必修2単位）

教科主任：井 上 範 江
 担 当 者：井 上 範 江
 木 村 裕 美
 古 賀 明 美

開講期間：後学期 木曜日 2校時目（一部1校時目を含む）

1. 一般学習目標

我が国の近年の急速な看護教育の変遷および看護教育の基盤となる法律等の基礎的知識を理解し、現在の看護教育の問題点を考察する。さらに、これからの看護学教育のあり方について考える。

2. 学習項目（講義8時間、演習20時間）

- 1) 看護師教育の変遷
- 2) カリキュラムの構成要素と大学の看護教育カリキュラム
- 3) 現在の我が国の看護教育における課題についてのプレゼンテーション・討議（教育制度、看護基礎教育、臨地実習、継続教育、諸外国との比較等）

3. 個別学習目標

- 1) 保健師助産師看護師法指定規則における看護教育の変遷を説明する。
- 2) 学校教育法施行規則における大学設置基準を説明する。
- 3) 我が国の多様な看護教育課程とその特性について考察する。
- 4) 大学の看護教育カリキュラムの一事例について考察する。
- 5) 現在の看護学教育の動向について説明する。
- 6) 現在の看護教育の諸課題についてその問題点を考察し、今後の看護学教育の在り方を考える。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席状況およびプレゼンテーション、レポートにより総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

担当プレゼンテーションの1週間前に資料を配付するので、各自、目を通しておくこと。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

開講日時に受講できない場合は事前に教科主任に相談すること。但し、プレゼンテーションを担当する日は出席できるよう各自で責任をもって調整すること。

6. 参考書等

特になし

7. 日 程 表

番号	月 日	時 間	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	10月14日(木)	10：30～ 12：00	看護師教育の変遷	井上 範江	看護基礎科学講座
2	10月21日(木)	〃	カリキュラムの構成要素	〃	〃
3	10月28日(木)	〃	大学の看護教育カリキュラム	〃	〃
4	11月 4 日(木)	〃	大学における成人看護学教育	古賀 明美	成人・老年看護学講座
5	11月11日(木)	〃	大学における地域看護学教育	木村 裕美	地域・国際保健学講座
6	11月18日(木)	〃	課題についてのプレゼンテーション準備	井上 範江 木村 裕美 古賀 明美	看護基礎科学講座 地域・国際保健学講座 成人・老年看護学講座
7	11月25日(木)	〃	課題についてのプレゼンテーション準備		
8	12月 2 日(木)	8：50～ 10：20	プレゼンテーション・討議		
9	〃	10：30～ 12：00			
10	12月 9 日(木)	8：50～ 10：20			
11	〃	10：30～ 12：00			
12	1 月13日(木)	8：50～ 10：20			
13	〃	10：30～ 12：00			
14	1 月20日(木)	8：50～ 10：20			
15	〃	10：30～ 12：00			

*12月 2 日, 12月 9 日の主担当者は木村裕美, 1 月13日, 1 月20日の主担当者は井上範江

看護管理（選択必修2単位）

教科主任：井 上 範 江

担 当 者：田 中 洋 子

開講期間：1・2年次前学期 月曜日 4・5限（隔週）

1. 一般学習目標

- 1) 医療行政および社会の動向を把握したうえで、自らの看護サービスの概念を確立すると同時に、看護サービス提供のあり方についての考えをまとめて述べるができる。
- 2) 看護管理のプロセスおよび機能への理解を深め、保健医療福祉に携わる人々との連携，協力，調整のために必要な知識を学習するとともに、看護管理者の役割を追求することができる。

2. 学習項目

- 1) 医療行政の動向と看護管理上の問題
- 2) 看護サービスの概念と看護機能評価
- 3) 患者満足度と職員満足との関連
- 4) 医療安全の推進

3. 個別学習目標

- 1) 医療行政の現状および変革の動向を理解し、生じる看護管理上の問題を明らかにしその解決法を推測することができる。
- 2) 看護サービスの概念を理解し、患者満足度との関連性を明らかにすることができる。
- 3) 施設における看護機能評価を理解し、患者満足度との関連性を明らかにすることができる。
- 4) 患者の不満を解決するために看護管理プロセスを活用することができる。
- 5) 医療安全確保のために、看護師の法的責務の認識を深め、事故発生要因を分析手法によって明らかにすることができる。
- 6) 各自が抱えている看護管理上の問題への解決の糸口を見出すことができる。

4. 成績評価の方法と基準

- 1) 評価方法
 - ・授業への参加状況
 - ・課題に関するプレゼンテーションの内容
 - ・提出されたレポートの内容
- 2) 評価基準
 - ・課題に関するプレゼンテーションを1題行う。
 - ・課題に関するレポートを期日内に提出する。
- 3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年9月30日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

1) 一般的な履修上の注意

- ・導入の時間帯に、取り組む課題を明らかにする。
- ・課題についてプレゼンテーションを行い、皆との討議によって内容の理解を深める。
- ・プレゼンターは、事前に使用する資料を担当教員および受講生に配付する。終了後、2週間以内に討議内容をふまえてレポートを提出する。
- ・授業は、原則として隔週で2時限ずつ行う。課題のディスカッションの内容により集中講義を組むことがある。
- ・教員よりの連絡事項などは、掲示板を活用するので注意しておくこと。

2) 社会人学生に対する履修上の注意

(1) 日程表での出席が可能な場合は

- ・臨床現場における看護管理上の問題を明らかにして授業にのぞみ、学期終了後には解決の示唆を得るようにする。
- ・看護職の未経験者に対して話題提供者として機能する。

(2) 日程表での出席が不可能な場合は

- ・レポート等他の方法にて実施し評価する。

6. 参考書等

看護管理学学習テキスト、1巻～8巻および別巻、日本看護協会出版会（必携とはしない）
課題によってはテキストを指示することがある

7. 日 程 表

番号	月 日	時 間	講 義 テ ー マ	担当者	備 考
1 2	4月12日(月)	Ⅳ・Ⅴ	導入 医療行政と看護管理上の問題	田 中	
3 4	4月26日(月)	Ⅳ・Ⅴ	看護サービスの概念	田 中	
5 6	5月17日(月)	Ⅳ・Ⅴ	医療安全管理	田 中	
7 8	5月31日(月)	Ⅳ・Ⅴ	課題：ディスカッション	田 中	
9 10	6月14日(月)	Ⅳ・Ⅴ	課題：ディスカッション	田 中	
11 12	6月28日(月)	Ⅳ・Ⅴ	課題：ディスカッション	田 中	
13 14	7月12日(月)	Ⅳ・Ⅴ	課題：ディスカッション	田 中	
15 16	8月2日(月)	Ⅳ・Ⅴ	課題：ディスカッション	田 中	

看護援助学特論（選択1単位）

教科主任：井 上 範 江

開講期間：1・2年次前学期 2コマ目

1. 一般学習目標

看護ケアの基盤になる理論および基礎的看護技術について理解を深め、看護研究領域における課題を考察する。

2. 学習項目（講義8時間、演習8時間）

- 1) 看護援助学について
- 2) 看護援助学の研究領域における課題の考察

3. 個別学習目標

- 1) 看護実践の基盤となる哲学、倫理、理論および技術が広範囲に渡っていることを理解する。
- 2) 看護援助学領域における課題を各自で見つけ、その課題に関係する先行文献を整理することによって課題についての理解を深める。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業の出席やグループワークへの参加の状況、およびレポート提出等により総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

申し出により評価の対象となった内容については開示する。希望者は、成績発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

主体的に問題意識を持ち、自己学習をベースにした積極的なディスカッション等を通して視野を広げ、知識や考えを深めていく。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

日程に沿った受講ができない場合は、4月15日前までに教科主任・井上（内線2532）まで連絡し、相談をすること。

6. 参考書等

特になし。

7. 日 程 表

番号	月 日	時 間	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	4月15日(木)	2	看護援助学について，文献レビューについて，看護援助学の研究領域における課題の考察について	井 上	看護基礎科学講座
2	4月22日(木)	2	看護援助学の研究領域における課題の考察について自己学習	〃	〃
3	5月20日(木)	2	まとめ方等についてのディスカッション	〃	〃
4	5月27日(木)	2	まとめ方等についてのディスカッション	〃	〃
5	7月8日(木)	2	発表・討議	〃	〃
6	7月15日(木)	2	発表・討議	〃	〃
7	7月22日(木)	2	発表・討議	〃	〃
8	7月29日(木)	2	発表・討議	〃	〃

看護機能形態学特論（選択1単位）

教科主任：河 野 史
担 当 者：河 野 史

開講期間：1・2年次後学期 木曜日3・4コマ目

1. 一般学習目標

看護を実施するためには、様々な身体機能の変化をもたらす成因を考察することが大切である。その基礎となる、特に組織・細胞レベルでの正常な構造と産生物質・機能との対応を理解し、また、そのアプローチのための方法を学習する。

2. 学習項目（講義12時間、実習4時間）

細胞・組織の正常な構造・機能とその観察法
尿産生のしくみ
消化・吸収のしくみ
ガス交換のしくみ
顕微鏡実習

3. 個別学習目標

身体各部に見られる機能がどのような構造と対応しているのかを説明できる。
特定の構成要素や産生物質の検出方法を説明できる。
人体の組織標本を顕微鏡により観察し、成書に記載されている所見との対応を確認し、その特徴を説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業・実習への出席や参加状況から総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

採点結果、配点、成績等の解説と個別指導を行う。希望者は、試験結果発表後1月程度の期間内に、オフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

顕微鏡実習では事前学習が必要であり、積極的な参加が望まれる。また、図譜などの持参が望ましい。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

日程表に沿った受講ができない場合は、授業開始までに教科主任・河野（5302室、内線2531）まで連絡し、相談すること。

6. 参考書等

特になし。

7. 日 程 表

番号	月 日	時 間	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	11月4日(木)	3	細胞・組織の正常な構造とその観察法	河野 史	看護基礎科学講座
2	〃	4	〃	〃	〃
3	11月11日(木)	3	尿産生のしくみ	〃	〃
4	〃	4	〃	〃	〃
5	11月18日(木)	3	消化・吸収のしくみ	〃	〃
6	〃	4	ガス交換のしくみ	〃	〃
7	11月25日(木)	3	顕微鏡実習	〃	〃
8	〃	4	〃	〃	〃

講義は原則大学院講義室1（旧 CR2425室）で行う。

※顕微鏡実習は医学科基礎実習棟1220室で行う。

急性期看護学特論（選択1単位）

教科主任：安 田 加代子

開講期間：1・2年次前学期

1. 一般学習目標（G.I.O.）

健康状態の急激な変化（突発的な事故や重篤な疾病の発症，病気の活動期，手術直後の急性期）などによってクリティカルケアが必要とされる患者および家族の理解とケアに関する理論を学習し，看護実践のあり方について探究する。

2. 講義項目（講義8時間，演習8時間）

（担当者）

- | | | |
|--|----------|-------|
| 1) 急性期看護学領域における研究の動向（講義2時間） | 成人・老年看護学 | 安田加代子 |
| 2) 急性期看護学領域に関する理論と看護への応用 | | |
| (1) 危機理論および家族に対するニーズアセスメント（講義4時間） | 山口大学 | 山勢 博彰 |
| (2) 技能習得に関するドレファスモデルの看護への適用（講義・演習4時間） | 大分大学 | 佐藤 和子 |
| (3) クリティカルケア看護：心理社会的問題（演習4時間） | 成人・老年看護学 | 安田加代子 |
| (4) 急性期看護の専門性：AACN synergy model for patient care の適用（講義2時間） | 成人・老年看護学 | 安田加代子 |

3. 個別学習目標（S.B.O.）

- 急性期看護学領域における研究動向の概要を述べることができる。
- 急性期看護学領域に関する理論を理解し，看護への応用について検討することができる。

4. 成績評価の方法と基準

1) 評価方法

出席状況および学習への取り組み状況を合わせて総合的に評価する。

2) 評価基準

成績の評価は，次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は，平成22年7月30日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- 止むを得ない理由により出席できない時は，事前に担当教員に相談すること。
- その他演習の方法については授業初日に説明する。
- 講義・演習は4階CR(3)で行う。

6. 参考図書：必要に応じて紹介する。

7. 日 程 表

No.	月 日	曜日	時 間	担当	内 容
1	4月13日	火	2	安 田	Introduction 急性期看護学領域における研究の動向
2 3	4月23日	金	3, 4	山 勢	1.Crisis theory (concept) 2.Family needs and coping strategies in critical and emergency care settings
4	5月18日	火	2	安 田	急性期領域における看護の専門性 AACN synergy model for patient care.
5 6	5月25日	火	3, 4	佐 藤	From Novice to Expert : Excellent and Power in Clinical Nursing Practice
7	6月1日	火	2	安 田	Critical Care Nursing: Psychosocial Alterations
8	6月8日	火	2	安 田	同上

慢性期看護学特論（選択1単位）

教科主任：大 田 明 英

開講期間：1・2年次前学期 火曜日2時限

1. 一般学習目標（G.I.O.）

成人期の健康問題の理解を基盤にして、健康の段階に応じた看護を実践するための理論と方法を習得する。特に慢性の経過をたどる健康障害を持つ人や家族に対して、長期的な視野に立った有用な看護支援、生活支援を行うための科学的、論理的な根拠を明らかにするとともに、患者のクオリティ・オブ・ライフを目指したケア、効果的な指導法や支援システムのあり方についても考える。

2. 学習項目（講義14時間）

（担当者）

- | | | |
|---|-------|-------|
| (1) 成人期慢性疾患および難病患者の QOL について | 成人看護学 | 大田 明英 |
| (2) 慢性疾患におけるストレス適応系（神経・内分泌・免疫系）の異常と看護支援 | | 〃 |
| (3) 成人期看護に役立つ免疫学の理解 | | 〃 |
| (4) 慢性疾患とともに生きることについて | | 古賀 明美 |
| (5) 慢性疾患患者における療養生活の管理方法について | | 〃 |
| (6) 関節炎患者の QOL | | 藤田 君支 |

3. 個別学習目標（S.B.O.）

- (1) 成人期慢性疾患および難病患者の QOL の現状を理解し、研究に応用することができる。
- (2) ストレス適応系の生理を理解し、主な慢性のストレス関連疾患における病態との関連を説明することができる。
- (3) 成人期看護に役立つ免疫学の基礎的事項を理解し、重要事項を説明することができる。
- (4) 臨床判断の過程を科学的に理解し、実際の研究や臨床応用に役立てることができる。
- (5) 慢性疾患による生活史および日常生活への影響を説明することができる。
- (6) 慢性疾患患者がかかえる療養生活上の課題を理解し、研究に応用することができる。
- (7) 関節炎による下肢機能障害をもつ患者の QOL について説明することができる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
出席状況および学習への取組状況を合わせて総合的に評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行う。
秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下
- (3) 評価結果の開示
閲覧を希望する者は、成績発表後1月程度の期間内に、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
具体的な授業の時期、方法等については、教科主任や担当教員と事前に打ち合わせる。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

やむを得ない理由により出席できない時には、事前に担当教員に相談すること（ビデオ振り替え授業や個別授業などへの対応を考慮する）。

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 日程表

「急性期看護学特論」と連動して講義が組まれる予定であり、具体的な講義日時、担当者および内容については、オリエンテーション当日までに掲示その他の方法で知らせる。

No.	月 日	曜日	コマ	担当	内 容
1	6月15日	火	2	大 田	看護師も理解すべき免疫学の基礎 資料：「カラーで学べる病理学」第3版，p61-76.
2	6月22日	火	2	古 賀	病の慢性性 chronicity と個人史 —わが国におけるセルフケアから個人史までの軌跡— 看護研究35(4)：19-30、2002
3	6月29日	火	2	藤 田	Quality of life and pharmacoeconomics in clinical trials
4	7月6日	火	2	古 賀	Chronic illness and the quality of life chapter 2: Management of regimens p34-48
5	7月13日	火	2	藤 田	関節炎患者の QOL
6 7	7月20日 7月27日	火	2	大 田	Selection and interpretation of diagnostic tests and procedures. (2回に分けて施行) Ann Intern Med 94 (Part 2)： 553-600, 1981
8	8月3日	火	2	大 田	慢性疾患におけるストレスと病態との関連

※報告者は以下のことを準備すること

1. いずれも資料は教員が持っているのので、早めに担当教員と連絡をとり、資料を受領する。
2. 受講者の人数分の資料を印刷し、報告日の前週金曜日までに各院生に配付する。
3. 担当教員から指定された資料の他に、報告要旨を作成し、報告当日に教員および各院生に配付する。

※内容は変更される可能性があり、その場合講義初日に別途指示する。

母性看護学特論（選択1単位）

教科主任：齋 藤 ひさ子

開講期間：1・2年次前学期 木曜日 3時限

1. 一般学習目標

女性のライフサイクル各期の発達課題および特有な健康問題を身体的、心理・社会的関連から分析し、女性の健康について考える。

女性の健康や成長発達に影響する家族・社会との関連について理解し、リプロダクティブヘルスのあり方を考える。

2. 学習項目

1) 「親になる」ことによる発達（講義2時間・演習2時間）	母子看護学	齋藤ひさ子
2) 不妊と女性（講義2時間・演習2時間）	〃	〃
3) 更年期（講義2時間・演習2時間）	〃	〃
4) リプロダクティブヘルス（講義2時間・演習2時間）	〃	〃

3. 個別学習目標

- 1) 親になるという発達課題とその過程について理解し、現状を考察する。
- 2) 不妊という現象が家族に及ぼす影響について学習し、援助の方向性を考える。
- 3) ライフサイクルにおける更年期の特徴を説明し、発達課題を考察する。
- 4) リプロダクティブヘルスの現状を把握し、今後の課題について自分の視点をもつ。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への出席状況、学習課題への取り組み状況、レポートなどにより総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年10月1日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

グループワークによる学習成果の発表および討議の授業形態をとるので、学生の主体的な学習を通して知識や考察を深めることが要求される。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

講義については日程表の通りに実施される。やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指示を受けること。

6. 参考書等

- (1) 教科書：なし
- (2) 参考書：講義テーマに関連した文献等をその都度紹介する。

7. 日 程 表

番号	月 日	コ マ	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	6月3日(休)	3	「親になる」ことによる発達 Becoming a parent and personality development	齋藤ひさ子	母子看護学
2	6月10日(休)	3	〃	〃	〃
3	6月17日(休)	3	不妊と女性 Women with infertility	〃	〃
4	6月24日(休)	3	〃	〃	〃
5	7月8日(休)	3	更年期 The menopause	〃	〃
6	7月15日(休)	3	〃	〃	〃
7	7月22日(休)	3	リプロダクティブヘルス Reproductive health	〃	〃
8	7月29日(休)	3	〃	〃	〃

小児看護学特論（選択1単位）

教科主任：幸 松 美智子

1. 一般学習目標

小児看護ケアの現状を教育的、倫理的、政策的な視点から分析するとともに、小児看護ケアの動向と課題を考察し、今後の看護実践のあり方を主体的に開発し、改革する能力の修得をめざす。

2. 講義項目

- 1) 子ども観の歴史的変遷と日本文化の中の子ども、医療の中の子ども
- 2) 子どもの権利条約と子どもの権利を擁護する看護
- 3) 子どもと臓器移植法
- 4) 子どもと“しつけ”（虐待）

3. 個別学習目標

- 1) 自己の持つ“子ども観”とその由来を分析し、子どもの真実の姿とその相違について考察する
- 2) 子どもの権利を擁護する専門職としての倫理的基盤となる知識を学ぶ
- 3) しつけと虐待の現状を知ることから、子どもに対する自己の教育的姿勢について考察する
- 4) ディベートを通じて、自己の意見を相手に伝える技術を学ぶ

4. 評価の方法と基準

評価方法

出席状況および課題への取り組み、プレゼンテーション、ディベートの成果を合わせて総合的に評価する。

評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年10月1日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

やむを得ない事由により出席できない場合は、事前に担当教員に相談すること

6. 参考書等

必要に応じて紹介する。

7. 日 程 表

No.	月日（曜）	コマ	講 義 テ ー マ	担当者	備考（教室等）
1	4月13日(火)	3	小児医療と看護の現状と課題	幸 松	
2	4月27日(火)	3	子ども観を問う	幸 松	
3	4月27日(火)	4	インフォームド・アセントについて	幸 松	ディベート
4	5月11日(火)	3	臓器移植法の現状と課題	幸 松	
5	5月11日(火)	4	子どもの臓器移植、その是非	幸 松	ディベート
6	6月1日(火)	3	虐待は何故起こるのか？	幸 松	
7	6月1日(火)	4	痛みを与えないと子どもはしつけられないか？	幸 松	ディベート
8	6月8日(火)	3	小児医療における子どもの権利	幸 松	

母子看護展開論（選択1単位）

教科主任：齋 藤 ひさ子

開講期間：通年

1. 一般学習目標

母子の健康問題および発達課題について身体的、心理・社会的関連から分析し、多様な理論の適応を試み理解する。母子の健康や成長発達に影響する家族・社会との関連について理解し、看護援助のあり方を考える。母子看護学講座で開催するケア検討会に参加しアシスタントの役割を務める。

2. 学習項目

母子看護展開方法（演習16時間）

母子看護学 齋藤ひさ子
〃 幸松美智子

3. 個別学習目標

- 1) 母子の発達課題とその過程について理解し、現状を考察する。
- 2) 母子の健康障害が家族に及ぼす影響について学習し、援助の方向性を考える。
- 3) 家族における発達課題を考察する。
- 4) 母子看護の現状を把握し、今後の課題について自分の視点をもつ。
- 5) アシスタントとしてケア検討会に参加し、講師とともにグループディスカッションを促進する。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への出席状況、学習課題への取り組み状況、レポートなどにより総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成23年3月31日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

一般の看護職を対象としたリカレント教育に参加します。グループワークによる学習や討議の形態をとるので、学生の主体的な学習を通して知識や考察を深めることが要求される。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

講義日程は受講者に通知する。やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指示を受けること。

6. 参考書等

- (1) 教科書：なし
- (2) 参考書：講義テーマに関連した文献等をその都度紹介する。

7. 授業日程

1年に7回程度開催予定

日程は後日連絡する。

老年看護学特論（選択1単位）

教科主任：藤 田 君 支

開講期間：1 年次後学期，火曜日 3 時限

1. 一般学習目標

加齢による心身の変化の特性を理解し，高齢者およびその家族の健康と生活を支援する看護について学習する。特に，疾病や障害をもつ高齢者の QOL を維持・向上する看護の機能やケアシステムについての知識を習得する。

2. 学習項目（講義 8 時間，演習 8 時間）

（担当者）

1) 老化の科学 講義 2 時間	成人・老年看護学	藤田 君支
2) 慢性疾患をもつ高齢者の QOL 講義 2 時間 演習 2 時間	〃	大田 明英
3) 長寿者の疫学研究 講義 2 時間 演習 2 時間	〃	藤田 君支
4) 認知症高齢者の看護 講義 2 時間 演習 2 時間	〃	田淵 康子

3. 個別学習目標

- 1) 加齢や健康障害による高齢者の生活への影響を説明できる。
- 2) 高齢期慢性疾患および難病患者の QOL の現状を理解し，研究に応用することができる。
- 3) 長寿高齢者の研究について最新の研究成果を学び，説明することができる。
- 4) 認知症高齢者のパーソンセンタードケアに基づいた援助方法を説明することができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席状況および課題発表・レポートによる総合評価を行う。

(2) 評価基準

成績の評価は，次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は成績発表後 2 週間以内に電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義の日時，内容，準備等については，担当教員の指示を確認する。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

各講義は下記の日程表どおりに開催されます。やむを得ない事情で出席できない場合は，代替の学習手段・課題について，講義担当者の指示と指導を確認する。

6. 参考書等

1. 福原俊一，数間恵子監訳：QOL 評価学 中山書店
2. Spilker: Quality of life and pharmacoeconomics in clinical trials 2nds, 1996.
3. Snowdon/藤井留美訳：100歳の美しい脳 DHC 2004.

7. 日 程 表

番号	月 日	コ マ	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	10月5日	3	老化の科学	藤田 君支	成人・老年看護学
2	10月12日	3	慢性疾患をもつ高齢者の QOL	大田 明英	〃
3	10月19日	3	〃	〃	〃
4	10月26日	3	The Nun Study	藤田 君支	〃
5	11月2日	3	〃	〃	〃
6	11月9日	3	認知症高齢者とケアマッピング	〃	〃
7	11月16日	3	パーソンセンタードケア	田淵 康子	〃
8	11月30日	3	ライフヒストリー	〃	〃

8. そ の 他

- ※1 講義室は4階カンファレンスルーム。場所を変更する場合は後日連絡する。
- ※2 各講義の担当院生を決め、担当者は受講者の人数分の資料を担当者まで受け取りに来ること。

地域看護学特論 (選択1単位)

教科主任：有 吉 浩 美
担 当 者：有 吉 浩 美
小 野 ミ ツ
村久保 雅 孝

開講期間：1・2年次後学期 月曜3～5時限（原則）

1. 一般学習目標 (G.I.O.)

地域の動向を理解し，地域における看護活動を実践展開するための理論と方法を習得する。また，これからの地域社会における看護学のあり方についても考える。

2. 学習項目 (講義8時間，演習8時間)

I 地域看護学の研究領域・課題	広島大学	小野 ミツ
II 地域看護学領域における研究手法	地域・国際保健看護学	有吉 浩美
III コミュニティとカウンセリング	地域・国際保健看護学	村久保雅孝

3. 個別学習目標 (S.B.O.)

- I 地域看護学の研究領域・課題
地域看護の対象の特性・健康問題を明らかにし，研究の方法について理解できる。
災害医療における看護について説明できる。
- II 地域看護学領域における研究手法
文献の抄読を実施できるとともに，文献の評価について説明できる。
- III コミュニティとカウンセリング
地域における心理臨床的援助の展開について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

講義および演習の出席状況と提出されたレポートの結果で評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は，次の基準により行う。

秀	100点～90点
優	89点～80点
良	79点～70点
可	69点～60点
不可	59点以下

- ① 上記の講義および演習に2/3以上出席していること。
- ② レポートの結果が，一定水準以上であること。

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は，平成23年2月15日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

講義および演習には各自の積極的な取り組みを必要とする。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

社会人学生は、なるべく都合をつけて、10/25(月)12:50～16:00の小野教授の講義には参加すること。

詳細に関しては、後日、大学から付与しているメールアドレス宛に課題などを連絡するので、確認してレポートを提出すること。

6. 参考書等

特になし

講義において資料等を配布予定

7. 日 程 表

初回の講義開始時に変更等について連絡する。

No.	月日(曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	10月4日(月) 3	地域看護学領域における研究手法	有 吉	文献の抄読, 文献の評価
2	10月4日(月) 4	地域看護学領域における研究手法	有 吉	文献の抄読, 文献の評価
3	10月18日(月) 3	地域看護学領域における研究手法	有 吉	文献の抄読, 文献の評価
4	10月18日(月) 4	地域看護学領域における研究手法	有 吉	文献の抄読, 文献の評価
5	10月25日(月) 3	地域看護学の研究領域・課題	小 野	研究領域・課題
6	10月25日(月) 4	地域看護学の研究領域・課題	小 野	公衆衛生に関する学会誌, 論文提供, 抄録, 投稿
7	11月8日(月) 5	スクールカウンセリング	村久保	地域における心理臨床的援助 スクールカウンセリング, 学校不適応, 教師と家族への援助
8	11月15日(月) 5	産業カウンセリング	村久保	産業カウンセリング, うつ病 ストレス, 業務管理と精神保健

※10月25日3～4時限の小野教授の講義には社会人学生もなるべく都合をつけて出席すること。

講義の場所は、5 F の CR (4) で実施する。

在宅看護学特論（選択1単位）

教科主任：木 村 裕 美

開講期間：1・2年次後学期 月曜日3・4コマ

1. 一般学習目標

在宅看護に関する保健医療福祉制度を理解し、対象者とその家族の自立支援を目的としたケアマネジメントのための生活アセスメントの方法を探究し、在宅看護の専門性と実践への適応について考察する。

2. 学習項目（講義8時間、演習8時間）

- 1) 在宅看護に関する保健医療福祉制度（講義4時間）
- 2) 自立促進のための地域ケア・認知症予防（講義4時間）
- 3) 在宅ケアの現状と課題（演習8時間）

3. 個別学習目標

- 1) 在宅看護に関する保健医療福祉制度について説明できる。
- 2) 在宅療養者とその家族が地域で生活を継続するための支援について説明できる。
- 3) 在宅療養者支援のための生活課題を捉えケアマネジメントについて考察する。
- 4) 在宅療養者の家族看護について考察する。
- 5) 看護職に求められる在宅ケアの課題と役割について考察する。

4. 成績評価の方法と基準

- 1) 評価方法
講義および演習の出席状況とレポートによる総合評価とする。
- 2) 評価基準
講義および演習への3分の2以上の出席
学習目標の到達目標を5段階評価し、総合評点3以上を合格とする。
- 3) 評価結果の開示
試験問題、解答例および配点を開示する。閲覧を希望する者は、平成23年2月1日までのオフィスアワーの時間帯に担当教員の研究室まで来ること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- 1) 一般的な履修上の注意
講義および演習へは、各自積極的な姿勢で取り組むこと。
- 2) 社会人学生に対する履修上の注意
止むを得ない理由にて欠席する場合には、事前に担当教員に相談すること。

6. 参考書等

自立をはかり尊厳を支えるケアマネジメント事例集 佐藤美穂子他 中央法規 2004年
MDS-HC2.0在宅ケアアセスメントマニュアル 池上直巳訳 医学書院 2004年
続介護予防完全マニュアル 鈴木隆雄他 財団法人東京都高齢者研究・福祉振興財団2005年
家族エンパワメントをもたらす看護実践 野嶋佐由美他 へるす社 2005年

7. 日 程 表

番号	月 日	コ マ	講 義 テ ー マ	担 当 者	所 属
1	12月 6 日(月)	3	在宅ケアに関する保健医療福祉制度(1)	木村 裕美	地域・国際保健看護学
2	〃	4	在宅ケアに関する保健医療福祉制度(2)	〃	〃
3	12月13日(月)	3	自立支援のための地域ケア・認知症予防	〃	〃
4	〃	4	〃	〃	〃
5	12月20日(月)	3	在宅ケアの現状と課題(1) 演習	〃	〃
6	〃	4	在宅ケアの現状と課題(2) 演習	〃	〃
7	1 月17日(月)	3	在宅ケアの現状と課題(3) 発表・討議	〃	〃
8	〃	4	在宅ケアの現状と課題(4) 発表・討議	〃	〃

国際看護学特論（選択1単位）

教科主任：新 地 浩 一

開講期間：1・2年次後学期 月曜3～5時限（原則）

1. 一般学習目標（G.I.O.）

国際保健および国際看護の動向を理解し、海外における看護活動を実践展開するための理論と方法を習得する。また、これからの国際化社会における看護学のあり方についても考える。

2. 学習項目（講義8時間、演習8時間）

I 国際看護学の研究領域・課題	地域・国際保健看護学	新地 浩一
II 国際看護学領域における研究手法	〃	〃

3. 個別学習目標（S.B.O.）

- I 国際看護学の研究領域・課題
国際看護学の対象の特性・健康問題を明らかにし、研究の方法について理解できる。
国際緊急医療援助活動に関する問題について説明できる。
- II 国際看護学領域における研究手法
文献の抄読を実施できるとともに、文献の評価について説明できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法
講義および演習の出席状況と提出されたレポートの結果で評価する。
- (2) 評価基準
成績の評価は、次の基準により行う。
 - 秀 100点～90点
 - 優 89点～80点
 - 良 79点～70点
 - 可 69点～60点
 - 不可 59点以下
- ① 上記の講義および演習に2/3以上出席していること。
- ② レポートの結果が、一定水準以上であること。
- (3) 評価結果の開示
レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成23年2月15日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意
講義および演習には各自の積極的な取り組みを必要とする。
- (2) 社会人学生に対する履修上の注意
社会人学生については、e-learningのシステムを利用した講義もしくは課題付与によるレポートの提出を実施する。詳細な連絡は、大学から各学生に付与されたメールアドレス宛に連絡するので、確認すること。

6. 参考書等

特になし

講義において資料を配付予定

7. 日 程 表

初回の講義開始時に変更等について連絡する。

No.	月日 (曜) 時限	項 目	担当者	キ ー ワ ー ド
1	11月 1 日(月) 4	国際看護学の研究領域・課題 国際緊急援助活動（総論）	新 地	研究領域・課題、国際看護、災害看護
2	11月 1 日(月) 5	国際緊急援助活動の DIG (1) 演習の課題付与	新 地	図上演習、国際看護、害看護、災害医療
3	11月 8 日(月) 3	国際緊急援助活動の DIG (2) グループでの演習	新 地	図上演習、国際看護、災害看護、災害医療
4	11月 8 日(月) 4	国際緊急援助活動の DIG (3) グループでの演習	新 地	図上演習、国際看護、災害看護、災害医療
5	11月15日(月) 3	国際緊急援助活動の DIG (4) グループごとの発表(1)	新 地	図上演習、国際看護、災害看護、災害医療
6	11月15日(月) 4	国際緊急援助活動の DIG (5) グループごとの発表(2)	新 地	文献の抄読、文献の評価
7	11月22日(月) 3	国際看護学領域における研究手法	新 地	文献の抄読、文献の評価
8	11月22日(月) 4	国際看護学領域における研究手法	新 地	文献の抄読、文献の評価

※ DIG: Disaster Imagination Game（災害時における図上演習）

※ No.2～6 に関しては、実際に発生した大規模災害をモデルとして、国際緊急援助隊の医療スタッフとして海外に派遣されるという想定で、図上演習を実施する。グループ演習であるので、なるべく出席すること（社会人学生は、e-learning 等を利用して、別メニューで実施予定）。

※ 講義の場所は、5 F の CR (4)で実施する。

※ 11月中旬に佐賀大学で行われる予定の災害医療研修に参加することが望ましい。

精神看護学特論 (選択1単位)

教科主任：山 川 裕 子

開講期間：1・2年次後学期，水曜日，5時限

1. 一般学習目標 (G.I.O. General Instructional Objective)

現代の複雑化したストレス社会において，あらゆる心の健康状態にある人々を理解し，精神的健康を支援する看護について学習する。特に，精神障害者とその家族の生活や意志決定を支え，主体的な健康生活を志向するケアのあり方について考える。

2. 講義項目 (講義12時間，演習4時間)

(担当者)

1) うつ病患者の回復過程 講義／2時間	精神保健看護学	山川 裕子
2) 産後の母親のメンタルヘルス 講義／2時間	〃	〃
3) 精神看護学教育におけるプロセスレコードの指導 講義／2時間，演習／2時間	〃	〃
4) 精神看護学分野における研究課題 講義／2時間，演習／2時間	〃	〃
5) 包括的暴力防止プログラム，司法精神看護 講義／4時間	肥前精神医療センター	西谷 博則

3. 個別学習目標 (S.B.O. Specific Behavioral Objective)

- 1) うつ病患者の回復過程の特徴を知り，患者の意思決定を支える看護について述べることができる。
- 2) 産後の母親の精神状態とストレス・コーピングおよび子どもへの愛着感情の関連について知り，必要な支援および社会システムを議論することができる。
- 3) 精神状態の観察とアセスメントについて，必要性の根拠を説明できる。
- 4) 精神看護学教育におけるプロセスレコードの指導の要点を述べることができる。
- 5) 精神看護学分野における研究課題を述べることができる。
- 6) 司法精神看護の現状と課題および展望を述べることができる。
- 7) 精神科領域における暴力とその予防法について述べることができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業の出席状況，自己学習への取組状況，学習目標の到達状況等について，毎回の授業およびディスカッション等（必要に応じたレポート課題）を通して判定し，総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は，次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

成績等の解説と個別指導を行うので，希望者は，成績結果発表後1月程度の期間内にオフィスアワー等の時間帯を利用して担当教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

特になし

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

止むを得ない事情で出席できない場合には、講義担当者に事前連絡・相談を行い、代替の学習手段（学習課題レポートの指示、自己学習法、学習内容に関する質問等の方法など）について指示・指導を受けること。

6. 参考書等

(1) 教科書

なし

(2) 参考書

- ・「医療職のための包括的暴力防止プログラム」, 包括的暴力防止プログラム認定委員会編集, 医学書院, 2005年, ￥2,300
- ・その他, 必要に応じて紹介する。

7. 日 程 表

番号	月 日	コ マ	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1	10月27日	5	うつ病患者の回復過程	山 川	地域・国際保健看護学
2	11月10日	〃	精神看護学教育 演習 1	〃	〃
3	11月17日	〃	産後うつ病予防のスクリーニング	〃	〃
4	11月24日	〃	精神看護学教育 演習 2	〃	〃
5	12月 1 日	〃	精神看護学研究課題	〃	〃
6	12月 8 日	〃	〃	〃	〃
7	12月15日	〃	包括的暴力防止プログラム	西 谷	肥前精神医療センター
8	12月22日	〃	司法精神看護	〃	〃

看護統計学演習（選択1単位）

教科主任：齋 藤 ひさ子

開講期間：夏季集中

1. 一般学習目標

看護学分野において求められるさまざまな統計学的手法の理論的基礎と応用について理解し、具体的なサンプルデータと統計解析ソフトウェアを用いたコンピュータ実習により、看護学研究に必要な統計解析の基礎的な技術を習得する。この学習を通して、各自の研究計画に対応した適切な分析方法が選択でき、適用できるようになる。

2. 学習項目

看護統計学演習（講義・演習16時間）

産業医科大学 中野 正博

3. 個別学習目標

- 1) 看護研究における統計学的手法の必要性が説明できる。
- 2) 看護統計学の基礎について理解し、説明できる。
- 3) 看護統計学に広く応用されている統計解析手法について理解し、説明できる。
- 4) 統計学的視点を反映した調査用紙の作成ができる。
- 5) 統計解析ソフトウェアを用いて実際のデータを解析することができる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

授業への出席状況、学習課題への取り組み状況、レポートなどにより総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年10月1日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

パソコンを使用した演習を行うので、各自持参すること。

学生の主体的な学習を通して知識や考察を深めることが要求される。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

講義については日程表の通りに実施される。やむを得ない事情で出席できない場合は、事前連絡・相談を行い、代替の履修方法について指示を受けること。

6. 参考書等

(1) 教科書

- 1) 新・看護・保健・医療のための楽しい統計学 中野正博著，ヘリシティ出版，2008，¥2,700
- 2) 看護・保健・医療のための楽しい多変量統計分析 中野正博著，ヘリシティ出版，2009，¥2,500

7. 日 程 表

番号	月 日	時 間	講 義 テ ー マ	担当者	所 属
1-3	8月10日(火)	3, 4, 5	統計研究とは 母集団と標本抽出の方法 アンケートの作り方	中野 正博	産業医科大学
			看護研究のあり方 研究計画書の書き方 研究方法の書き方		
			データ分布の表現法 平均値と標準誤差 統計分布 検定の基本的考え方 帰無仮説と対立仮説 有意差		
4-6	8月20日(金)	3, 4, 5	代表的パラメトリック検定とその特徴 代表的ノンパラメトリック検定とその特徴		
			パソコン演習 パラメトリック検定とノンパラメトリック検定		
7-8	8月25日(水)	3, 4	多変量解析の色々 重回帰分析 各自研究の個別指導		
			主成分分析 因子分析 各自研究の個別指導		

看護教育方法論（選択1単位）

教科主任：担当者未定

担当者：担当者未定

開講期間：平成22年度は開講しない

1. 一般学習目標

看護教育の基本的な教育内容および方法やシステムづくりについて学ぶ。

2. 学習項目（講義4時間、演習12時間）

- 1) 看護教育方法論（講義4時間）
- 2) 看護授業展開演習（演習12時間）

3. 個別学習目標

- 1) 看護の理論と方法について説明する。
- 2) 看護教育の全体構造および各論を学習し、教育活動を展開するための基礎的知識・技術を習得する。
- 3) 学部に開講される講義に参加観察し、授業設計、準備、評価の一連の過程に参加する。
- 4) 模擬授業を展開し、対象者の能力の向上を目指す教育の在り方を述べる。

4. 成績評価の方法と基準

(1) 評価方法

出席状況およびプレゼンテーション、レポートにより総合的に評価する。

(2) 評価基準

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

(3) 評価結果の開示

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

(1) 一般的な履修上の注意

- ・主体的に問題意識を持ち、自己学習をベースにした積極的なディスカッション等を通して視野を広げ、知識や考えを広めていく。
- ・受講人数により、講義・演習の内容および日程を変更する場合がある。

(2) 社会人学生に対する履修上の注意

指定された日時に受講できない場合は、講義の初日までに教科主任へ相談すること。

6. 参考書等

- ・藤岡完治・堀喜久子編 看護教育の方法 医学書院 2002
- ・レバ・ド・トニエ他著 看護学教育のストラテジー 医学書院1993

7. 日 程 表

番号	月 日	時間	講 義 テ ー マ	担 当 者	所 属
1			看護教育の方法，カリキュラム作成		
2			看護の授業展開		
3			看護基礎教育，継続教育による対象・目的・方法（演習）		
4			〃		
5			模擬授業（演習）		
6			模擬授業（演習）		
7			模擬授業（演習）		
8			模擬授業の評価と修正（演習）		

がん看護学特論（選択1単位）

教科主任：安 田 加代子

開講期間：前学期

1. 一般学習目標（G.I.O.）

最新のがん医療・看護の現状に対する認識を深め、がんと共に生きる患者および家族の理解とケアに関する理論を学習し、がん患者の病期に応じた看護実践のあり方について探究する。また、がんの予防や早期発見へ向けた健康教育のあり方についても検討する。

2. 講義項目

（担当者）

1) がん医療・看護に関する動向と課題

(1) 最新のがん医療・看護の動向	成人・老年看護学講座	安田加代子
(2) がんの発生メカニズム・疫学	消化器外科	北島 吉彦
(3) 化学療法と看護	薬剤部	持永早希子
(4) 放射線治療と看護	放射線部	徳丸 直郎

2) がん看護に関する理論と看護への応用

(1) 意思決定支援	成人・老年看護学講座	田渕 康子
(2) 症状マネジメント、緩和ケア	地域包括緩和ケア科	佐藤 英俊
(3) 家族ケア	母子看護学講座	幸松美智子

3) がんの予防や早期発見へ向けた健康教育	地域・国際保健看護学講座	木村 裕美
-----------------------	--------------	-------

3. 個別学習目標（S.B.O.）

- 1) がん医療・看護学の領域における最新の動向と課題の概要を述べることができる。
- 2) がん看護に関する理論や概念を理解し、看護実践のあり方について述べることができる。
- 3) がんの予防や早期発見へ向けた健康教育のあり方について述べることができる。

4. 成績評価の方法と基準

- 1) 評価方法：出席状況および学習への取り組み状況を合わせて総合的に評価する。
- 2) 評価基準：講義への3分の2以上の出席を合格最低基準とする。
- 3) 評価結果の開示：

レポート課題および出題の意図を開示する。閲覧を希望する者は、平成22年8月20日までに電子メールで担当教員に申し込むこと。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- 1) 止むを得ない理由により出席できない時は、事前に担当教員に相談すること。
- 2) その他演習の方法については授業初日に説明する。
- 3) 講義・演習は4階CR(3)で行う。

6. 参考図書は必要に応じて紹介する。

7. 日 程 表

No.	月 日	曜日	コ マ	担 当	内 容
1	6月15日	火	3	安田加代子	Introduction, 最新のがん医療・看護の動向
2	6月22日	火	3	北島 吉彦	がん発生のメカニズム・疫学・外科手術
3	6月29日	火	3	持永早希子	化学療法と看護
4	7月6日	火	3	徳丸 直郎	放射線治療と看護
5	7月13日	火	3	佐藤 英俊	症状マネジメント, 緩和ケア
6	7月20日	火	3	田渕 康子	意思決定支援
7	7月27日	火	3	幸松美智子	家族ケア
8	8月3日	火	3	木村 裕美	がんの予防・早期発見へ向けた健康教育

実践課題実習（選択2単位）

教科主任：各指導教員

開講期間：1・2年次の前・後学期

1. 一般学習目標

修士課程看護学専攻の各分野における専門的実践に関連した課題について、実習を通して学ぶ。課題に対する問題意識を明確化し、理論的思考や課題解明への探究的態度を修得する。自らが導き出した課題実習の成果をこれまで学修してきた諸理論と統合し、柔軟で創造的な実践活動ができるよう、専門的実践能力の向上を図る。

2. 授業項目

（担当者）

- (1) 実践課題実習（90時間）（主指導教員および当該研究グループ教員）

個々の実践課題に関する検討を行い、実習計画を立案し、担当者の指導のもとに実習する。
各自の実習成果を有機的に統合する。

3. 個別学習目標

- (1) 各自の実践課題について適切な実習内容が計画できる。
- (2) 立案した実習計画を展開し実習目的が到達できる。
- (3) 実習成果の要旨が説明できる。
- (4) 実習成果を今後の実践活動に反映できる。

4. 成績評価の方法と基準

- (1) 評価方法

実習計画書・レポートおよび実習における学習状況等で評価する。

- (2) 評価基準

上記の実習内容を修めていること。

成績の評価は、次の基準により行います。

秀 100点～90点 優 89点～80点 良 79点～70点 可 69点～60点 不可 59点以下

- (3) 評価結果の開示

上記評価結果を開示する。

希望者は各指導教員を訪ねること。

5. 履修上の注意および担当教員からのメッセージ

- (1) 一般的な履修上の注意

実習に出席し、レポートを提出すること。

- (2) 社会人学生に対する履修上の注意

各主指導教員に事前相談を行い、指示・指導を受ける。

6. 参考書等

特になし

7. 授業日程

主指導教員の研究グループごとに開催されます。主指導教員と日程を打合せてください。

分子生命科学講座 分子遺伝学・エピジェネティクス分野

1. 研究・教育スタッフ

副島 英伸（教授）、城 圭一郎（准教授）、西岡 憲一（講師（特任））、東元 健（助教）

2. 研究テーマ

1) ゲノム刷り込み（ゲノムインプリンティング）

ゲノム刷り込み（ゲノムインプリンティング）はヒトを含む哺乳動物の発生に不可欠であり，刷り込み異常により先天異常や癌などのさまざまな疾患が発症する。ゲノム刷り込みの生物学的役割を明らかにするために，ゲノム構造，分子機構の観点からアプローチする。

2) がんのエピジェネティクス

DNA 修復酵素遺伝子や腫瘍抑制遺伝子などのがん関連遺伝子の癌におけるエピジェネティックな変化の分子機構と遺伝子発現との関連を解析し，発癌・癌進展のメカニズムを解明する。

3) エピジェネティクス関連疾患の解析

エピジェネティクスの異常によって生じるさまざまな疾患や形質について分子遺伝学的に解析する。

4) クロマチンの生化学

エピジェネティクスにおいて，ヒストン化学修飾はDNA メチル化と双壁をなす重要な因子である。ヒストン修飾酵素の生化学的解析を行い，遺伝子発現における機能および個体発生・疾患発症に及ぼす影響を解析する。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

分子生物学，細胞生物学，分子遺伝学，人類遺伝学，生化学，エピジェネティクスなどの知識と，分子生物学的研究に必要な能力

2) 技術

DNA・RNA 抽出，PCR 法，サザンブロット，ノーザンブロット，ライブラリースクリーニング，クローニング，シーケンシング，遺伝子改変技術，レポータージーンアッセイ，DNA メチル化解析技術，タンパク精製，免疫沈降法，ウェスタンブロット，細胞培養技術，研究用マウス飼育，遺伝子関連データベースの検索・解析

4. 指導方針・目標

医学を背景にした分子遺伝学的研究を自ら立案し，遂行・発展させる能力を養うことを目標とする。基本的に個人指導。グループ全員によるセミナーを通して包括的にサポートする。

5. 問い合わせ・連絡先

副島教授：soejimah@cc.saga-u.ac.jp
 TEL 直通 34-2260（内線 2260）
 部屋番号 2305
 研究室：TEL 直通 34-2264（内線 2264）

分子生命科学講座 分子医化学分野

1. 研究・教育スタッフ

出原 賢治（教授），有馬 和彦（講師），白石 裕士（助教），鈴木 章一（助教）

2. 研究テーマ

1) サイトカインの細胞内でのシグナル伝達機構

生理活性物質であるサイトカイン，特にインターロイキン 4 (IL-4)，IL-13 の細胞内でのシグナル伝達機構の解明を目指している。シグナル伝達機構に関与している分子の同定，シグナル伝達分子間でのタンパク質－タンパク質あるいはタンパク質－DNA 相互作用の様式などの解析を行っている。

2) アレルギー疾患の発症機序の解明

気管支喘息，アトピー性皮膚炎，アレルギー性鼻炎といったアレルギー疾患の発症機序の解明を目指している。特にアレルギー疾患の発症に重要な IL-4，IL-13 の関与を中心に遺伝子，タンパク質，細胞，モデル動物などを用いて統合的に解析を行っている。上皮細胞などの非免疫系細胞，あるいはリンパ球などの免疫系細胞に対するこれらのサイトカインの生物活性の解明と，その生理学的意義を細胞レベルあるいは動物レベルで解析を行っている。

3) 炎症性疾患の発症機序の解明

炎症機序には，さまざまな免疫反応が関わっているが，それとともに免疫細胞と構成細胞との相互作用が重要となっている。間質性肺炎，COPD，動脈硬化などの種々の炎症疾患を対象として，その基礎となっている免疫反応と構成細胞との相互作用を解明し，これらの疾患の発症機序の解明につなげることを目指している。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

分子生物学的，細胞生物学的，生化学的，免疫学的知識

2) 技術

DNA 操作，細胞培養，細胞への遺伝子導入，タンパク質の発現とその精製，タンパク質検出解析，抗体作製，モデル動物を用いた解析

4. 指導方針・目標

セミナーあるいはディスカッションを通じて論理的思考を身につけさせるとともに，与えられたテーマに対して多面的な取り組みを行えるよう指導を行う。

5. 問い合わせ先・連絡先

出原 教授：kizuhara@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34－2261（内線 2261）
部屋番号 2331
研 究 室：TEL 直通 34－2269（内線 2269）
FAX 34－2058

分子生命科学講座 免疫学分野

1. 研究・教育スタッフ

木本 雅夫（教授），福留 健司（准教授）

2. 研究テーマ

1) 自然免疫に関与する生体分子の機能解析

細菌やウイルスなどの病原体を細胞表面で認識して、それらを排除するための免疫系を活性化する分子群の機能とシグナル伝達についての研究

2) 血液凝固系を制御する生体分子の機能解析

血液凝固系を制御する分子機構を、プロテインC受容体を中心に解析する。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

免疫学，細胞生物学，分子生物学，遺伝子操作，細胞工学の知識と，研究遂行能力が習得可能である。

2) 技術

抗体作製（ポリクローナル，モノクローナル），免疫沈降，免疫ブロッティング，免疫蛍光法，免疫アッセイ，細胞培養，限界希釈法，リンパ球の分画，クロマトグラフィー，電気泳動，フローサイトメトリー（FACS），実験用小動物の取扱い，核酸・タンパクの取扱い，遺伝子ライブラリーの作製，遺伝子の単離，DNA シーケンシング，遺伝子組替え，遺伝子導入，タンパクの単離精製，融合タンパクの作製，酵素反応測定，細胞内分子動態解析，コンピュータによる遺伝子・タンパク解析，結晶解析，顕微鏡観察，英語論文の読解・作成，プレゼンテーション技法

4. 指導方針・目標

免疫学，分子生物学を中心に，細胞生物学一般に必要な基礎知識を身に付け，研究を行う上で必要な実験を正確に実行できる技術，および，実験結果を的確に解釈し次の実験の組み立てができる思考能力を体得することを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

木本教授：kimoto@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2255（内線 2255）

部屋番号 2159

研究室：TEL 直通 34-2259（内線 2259）

分子生命科学講座 生体高分子学分野

1. 研究・教育スタッフ

高崎 洋三（教授）

2. 研究テーマ

タンパク質の構造と機能の相関性を明らかにするために、以下のテーマについてタンパク質工学の手法や種々の分析機器を用いて研究を行っている。

1) 制限酵素 *Hind* III の結晶解析

Hind III の立体構造と酵素触媒機構を明らかにする。

2) 変異体 *Hind* III の調製とその機能解析

種々の変異体を解析することによって酵素反応に重要な構造を明らかにする。

3) 中間径フィラメントの解析

細胞骨格の一つである中間径フィラメントの構造、機能、制御機構を解析する。中間径フィラメントを構成する蛋白質の分子進化や、眼の水晶体における中間径フィラメントの機能と白内障との関連性などを明らかにする。

4) 核ラミナ構成蛋白質の解析

細胞核に存在するラミン中間径フィラメントとそれに結合する膜蛋白質の構造と機能や、疾患との関連性を明らかにする。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識

タンパク質化学・ペプチド化学、タンパク質工学を主とする生化学および分子生物学などの知識

2) 技術

タンパク質の精製・一次構造および二次構造解析技術、cDNA クローニング・塩基配列解析技術および変異導入技術、ペプチドの化学合成・精製技術、タンパク質の結晶解析技術、タンパク質間相互作用解析技術（表面プラズモン共鳴センサー）、電子顕微鏡観察技術、原子間力顕微鏡観察技術など。

4. 指導方針・目標

常に疑問をもつ事、生命現象を解き明かしてみたいという情熱を持つことを心がけるよう指導する。特に生化学の基礎的な考え方を身につけてもらう。

5. 問い合わせ・連絡先

高崎 教授：takasaky@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2191（内線 2191）
部屋番号 2268
研 究 室：TEL 直通 34-2141（内線 2141）

分子生命科学講座 細胞生物学分野

1. 研究・教育スタッフ

池田 義孝（教授），井原 秀之（助教），伊東 利津（教務員）

2. 研究テーマ

1) 糖タンパク質アスパラギン結合型糖鎖の生合成

細胞のゴルジ装置内における糖鎖のアセンブリを明らかにし，細胞のタイプや組織特異的な生合成調節機構を解析する。糖鎖生合成経路のエンジニアリングによる糖鎖改変組換え糖タンパク質の発現を行う。

2) 糖転移酵素の活性調節機構

糖転移酵素の活性がタンパク質レベルでどのように制御されているかを解析する。

3) 抗酸化酵素ペルオキシレドキシンの酵素学的解析と生物学的機能

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識

生化学・細胞生物学全般，糖鎖生物学，酵素学，速度論など

2) 技術

タンパク質の分離精製法，組み換えタンパク質の発現，速度論的解析，化学修飾，糖鎖構造解析，論文作成など

4. 指導方針・目標

個々の進路に応じた柔軟な指導を行うが，生化学・分子生物学的な研究を遂行するのに必要な基礎的知識および実験手法を身につけてもらうことを最低限の目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

池田教授：yikeda@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2190（内線 2190）
部屋番号 2265
研究室：TEL 直通 34-2195（内線 2195）

分子生命科学講座 生体機能制御学分野

1. 研究・教育スタッフ

吉田 裕樹（教授），原 博満（准教授），中谷 真子（助教），見市 文香

2. 研究テーマ

細胞の運命決定機構の解明を目指し、特に以下のテーマについて研究を行っている。

1) サイトカインによるリンパ球分化制御機能の解明と、その治療応用

病原体の排除や癌に対する免疫に重要な免疫反応を誘導するサイトカインの役割やシグナル伝達経路を解析し、疾患との関連を探る。また、このシグナルを制御することにより疾患の治療法を確立する事を目指す。

2) 新規自然免疫活性化経路の解析

自然免疫系が感染防御や炎症性疾患の病態形態に重要な役割を演じることが明らかとなってきた。CARD9 経路は新規な自然免疫受容体（ITAM 受容体）を介したシグナル伝達に必須の分子である。感染防御や炎症性疾患に関与する ITAM 受容体やそのリガンドの同定、CARD9 を介したシグナル伝達機構の解明を行うことで、疾患の新しい治療法の構築を目指す。

3) 新規遺伝子改変マウスの作成

個体内におけるある遺伝子の働きを知る方法の一つに、その遺伝子を欠損するマウス（ノックアウトマウス）の作成がある。ノックアウトマウス作成により、特定の遺伝子の役割を明らかにする事を目指す。

3. 習得可能な知識・技術

- ・分子生物学，細胞生物学，免疫学の知識
- ・DNA 操作，細胞培養，蛋白質の表現・解析などの生化学的解析技術，マウスを用いた感染実験などの個体レベルでの免疫学的技術，フローサイトメトリーなどの細胞免疫学的技術など

4. 指導方針・目標

論文セミナーやグループディスカッションを通じて、研究遂行における論理的・科学的思考力を身に付ける事を目標とする。また、与えられたテーマに対して、自ら計画立案し、ディスカッションやデータ発表などを通じて研究を遂行・発展する能力を身につけることを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

吉田教授：yoshidah@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2290（内線 2290）
部屋番号 2411
研究室：TEL 直通 34-2294（内線 2294）

生体構造機能学講座 組織・神経解剖学分野

1. 研究・教育スタッフ

増子 貞彦（教授）、村田 祐造（准教授）、李 明子（助教）

河野 史（看護基礎科学講座，看護機能形態学分野 教授）

2. 研究テーマ

体の構成要素の構造と働きを明らかにするために，以下のテーマについて電子顕微鏡や光顕微鏡などさまざまな観察手段を用いた形態学的手法による研究を行っている。

1) 脳内自律神経経路の機能解剖学的研究

視床下部，延髄を結ぶ血圧・体液バランス調節に関わる神経路の解析

2) 末梢自律神経系の機能解剖学的解析

骨盤内臓と脊髄を結ぶ神経路の解析と仙髄副交感神経に対する中枢および末梢性調節機構の研究

3) 神経系の発生，細胞生物学的解析

一酸化窒素合成神経細胞の脳内発生や細胞培養法による神経細胞分化の研究

4) 他分野との共同研究

痛みの伝達・調節に関する生理学教室との共同研究，ノックアウトマウスの解剖・組織学的解析に関する遺伝・分子生物学分野との共同研究など

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

細胞・組織学，神経解剖学，実験小動物解剖学，発生学などの知識と，これらの形態学的研究に必要な能力

2) 技術

実験用小動物の取扱，実験手術および解剖技術，神経軸索トレース実験法，細胞単離培養技術，顕微鏡観察用標本作成技術，免疫組織化学法，インサイチューハイブリダイゼーション法，電子顕微鏡（透過型・走査型）観察技術，各種光線顕微鏡（蛍光，位相差，微分干渉，暗視野等）観察技術，顕微鏡写真撮影技術，暗室写真作業技術，コンピューター画像処理および解析技術など

4. 指導方針・目標

将来的に研究を遂行・発展させるのに必要な，しっかりとした基盤を身につけることを目標とし，マンツーマンによる指導を行う。

5. 問い合わせ・連絡先

増子教授：masuko@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2221（内線 2221）

部屋番号 2107

研究室：TEL 直通 34-2226（内線 2226）

生体機能構造学講座 器官・細胞生理学分野

1. 研究・教育スタッフ

柳 圭子（准教授）、塩谷 孝夫（助教）

2. 研究テーマ

心臓の規則正しい拍動のメカニズムを明らかにすることを最終目標として、現在は以下のテーマについて電気生理学的研究を行っている。主な研究方法は、一個の細胞の膜全体を流れる電流を測定する全細胞パッチクランプ法と、微小な細胞膜片に含まれる単一イオンチャネル分子を通して流れる微小電流を測定する単一チャネルパッチクランプ法である。

1) 心筋細胞膜上のクロライドチャネル電流の解析

心筋細胞には交感神経物質アドレナリンによって活性化されるクロライドチャネル、細胞容積変化に応答するクロライドチャネルなどがあるが、これらクロライドチャネルの性質、調節機構、細胞機能における役割を研究している。

2) 心筋細胞の内向き整流カリウムチャネル電流の研究

内向き整流カリウムチャネルは、心筋細胞において静止時と活動時を通じてその電氣的安定性に寄与している重要なカリウムチャネルであるが、このチャネルに特殊な性質を賦与している分子基盤を解析している。また、チャネル分子の遺伝子変異体を導入した細胞を用いての分子生物学的解析も行っている。

3) マウス心筋細胞の興奮収縮連関の解析

マウスは遺伝子改変動物の研究で中心的に用いられる動物であり、正常マウス心筋細胞の性質を明らかにしておくことは重要である。ここではマウス特異的な心筋興奮収縮連関機構を研究している。遺伝子改変マウスをにらんでの研究である。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

一般生理学、心臓生理学、イオンチャネル学、電気生理学の基本的原理、最新の電気生理学的研究手法の原理などに関する知識と、これらを駆使して研究を遂行する能力

2) 技術

標本作成法（動物手術、摘出臓器からの酵素処理による細胞単離法など）、各種溶液調整法、パッチクランプ法（微小パッチ電極作成法、顕微鏡およびマイクロマニピュレータ操作法、パッチクランプ増幅器その他の測定用電子機器操作法など）、コンピュータによるデータ取得技術、コンピュータによるデータ処理技術（統計解析、図表作成などを含む）、分子生物学的手法（細胞への遺伝子導入、遺伝子導入細胞取り扱い技術など）、その他

4. 指導方針・目標

実験メンバーの一員としてできるだけ早く私たちの研究プロジェクトに参加させ、心臓生理学研究のおもしろさを知ってもらう。

5. 問い合わせ・連絡先

柳 准 教授：keikoy@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2270（内線 2272）

部屋番号 2312

研 究 室：TEL 直通 34-2274（内線 2274）

生体構造機能学講座 神経生理学分野

1. 研究・教育スタッフ

熊本 栄一（教授）、藤田 亜美（准教授）、八坂 敏一（助教）

2. 研究テーマ

神経と神経のつなぎ目であるシナプスにおける神経伝達物質を介する情報伝達（シナプス伝達）や、神経自体の興奮伝導が神経活動および生体内外の化学物質により制御される仕組みに興味を持って研究を進めている。

1) 脊髄後角レベルにおける痛み情報伝達制御機構の解明

これは現在、本研究室で精力的に取り組んでいる研究テーマである。

脊髄薄切片を標本として用い、痛み情報伝達制御に関わる脊髄後角のシナプスに焦点を当てて、内因性および外因性の鎮痛物質がシナプス伝達を制御する仕組みを調べている。

2) 神経線維における活動電位の伝導に及ぼす薬物の作用

剥離した坐骨神経から記録される複合活動電位に及ぼす薬物の作用を調べ、その作用と薬物の化学構造との相関を調べている。

3) 虚血負荷による脊髄後角ニューロン保護効果の解明

虚血状態に陥った時に中枢神経系で内因性に働くニューロン保護効果を知る目的で、脊髄薄切片を虚血負荷と類似の状態に置き、脊髄後角のシナプス伝達変化、また、その仕組みは何かを調べている。

4) 中枢ニューロンに発現している受容体の化学物質による修飾作用

単離培養した中枢ニューロンを標本として用い、神経伝達物質が作用する受容体が内因性および外因性の化学物質によりどのような影響を受けるかを調べている。

5) 他分野との共同研究

生理機能を調べたニューロンの組織化学的手法による同定に関する解剖学教室との共同研究、鎮痛に働く治験薬の細胞レベルの作用機序について麻酔学教室との共同研究を行っている。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

神経生理学やシナプス生理学の基礎知識と、これに基づいて実験データを解析するのに必要な能力。

2) 技術

小動物の脳脊髄から薄切片を作製する技術、パッチクランプ法、コンピュータによるデータ解析法、小動物の胎児脳からニューロンを単離培養する技術

4. 指導方針・目標

研究室では週1回のセミナーにおいて、最新のトップジャーナルからの論文紹介、基礎的な欧米の神経生理学教科書の輪読、各自のデータ検討会を行っており、互いに啓発しあいながら勉強や研究に取り組むようにしています。必要に応じて、研究室内で神経生理学の基礎的な講義を行うようにしています。自分で物事を考え、自分で研究を進める能力が身につく研究者を育てることを目標とし、これをサポートするための指導を行います。

5. 問い合わせ・連絡先

熊 本 教 授：kumamote@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2273（内線 2273）
部屋番号 2315
研 究 室：TEL 直通 34-2276（内線 2276）

病因病態科学講座 病態病理学分野

1. 研究・教育スタッフ

戸田 修二 (教授), 青木 茂久 (講師), 内橋 和芳 (助教), 松延 亜紀 (助教), その他大学院生等

2. 研究テーマ

病理学は、細胞、組織構造を基盤にして、疾病の診断を実践するとともに、疾病の発症機構を研究する学問です。病理診断や病理解剖の実践（臨床病理）を通して、癌などの確定診断や疾病の治療方針、予後予測の決定、新しい疾患概念の提唱に重要な分野です。さらに、分子細胞生物学的手法や動物実験を用いて、臨床各科や臨床病理学で得られた現象のメカニズムを解明することを目指す分野です（実験病理）。

当教室は、臨床病理を実践し、それにより得られた知見を基盤にして、疾病の発症機構を研究しております。生命は不思議に満ちており、人体は宇宙空間そのもののような気がします。人体という広大な世界を旅する人材を希望します。我々と、一緒に旅してみませんか？ 旅人候補者は、是非、下記の連絡先に、アクセスしてください。素人大歓迎です！現在の研究テーマを記載しますが、当教室は何か面白いことがあれば、何でもトライする方針です。

- 1) 細胞間（上皮・間葉系細胞）および細胞－細胞外基質相互作用と疾病のメカニズム解析
- 2) 癌細胞の増殖・浸潤・転移機構の解明とその臨床応用
- 3) 組織再生機構の解明（ES 細胞を含む）とその再生医療への応用
- 4) 外科病理材料を用いた脱パラフィン切片による疾患特異的固定化微小環境の臨床病理学的研究
- 5) 気相－液相界面の分子細胞生物学的研究とその臨床応用
- 6) 生活習慣病の基礎病態である肥満の臨床病理学，および細胞生物学を基盤にした生活習慣病の発症機構とその予防法の確立（当教室の前教授 杉原 甫が，世界で初めて，成熟脂肪細胞の培養法を開発した。）
- 7) Radiation-induced bystander effect

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

細胞・組織学，臨床病理学，構造生物学，分子細胞生物学，学会発表，論文作成

2) 技術

病理解剖法，細胞・組織解析法，組織化学，免疫組織化学，in situ hybridization，組織培養法，電子顕微鏡（透過型，走査型），PCR，Western blotting，ELISA

4. 指導方針・目標

自由な討論と自発性を尊重し，独立して，研究計画を立案し，仮説検証，学会発表，論文作製ができるようにする。

5. 問い合わせ・連絡先

戸田 教授：todas@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2233（内線 2233）
部屋番号 2115
研究室：TEL 直通 34-2238（内線 2238）

病因病態科学講座 診断病理学分野

1. 研究・教育スタッフ

徳永 藏 (教授), 高瀬ゆかり (助教), 甲斐 敬太 (助教)

2. 研究テーマ

疾病の発生機序を解明し、病的変化や転帰を理解するために、以下のテーマについて形態学から、細胞生物学や最先端の分子病理学まで行っています。

1) 動脈硬化の発生と進展における分子生物学的研究

A 動脈硬化と感染性病原体や免疫担当細胞の関与に関する研究

B 培養内皮細胞や平滑筋細胞とヘルペス属ウイルスやクラミジア感染による細胞内シグナル伝達に関与する遺伝子の発現解析

2) 消化器癌の血管新生と血行性転移の研究

A 消化管の正常血管と段階的発癌における新生血管の超微形態観察や樹脂鋳型標本による3次元構造解析

B 癌の原発巣と血行性遠隔転移部の遺伝子発現の違いをDNAマイクロアレイを用いて統合的なヒエラルキーとして遺伝子を解析。

3) 研究成果を治療に応用するための戦略

虚血性疾患では血管新生を促し、悪性腫瘍では血管新生を抑制する遺伝子の同定と治療への基礎的研究

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

心・血管の解剖、遺伝子発現と免疫組織化学、血管リモデリングの形態

2) 技術

光学顕微鏡用標本作成および観察技術、多重免疫染色を含む組織化学法、超微形態観察法、樹脂による微細血管鋳型作成と観察法、永久標本からの遺伝子抽出と解析、ISH, PCR, Microarrayなどの分子生物学的解析法、遺伝子クローニング

4. 指導方針・目標

自立して研究を遂行・発展させるのに必要な基本的な知識とテクニックを身につける。指導は集団指導体制、必要に応じて個人指導やリーダーが直接指導。

5. 問い合わせ・連絡先

徳永教授: tokunao@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2230 (内線 2230)

部屋番号 2214

研究室: TEL 直通 34-2234 (内線 2234)

病因病態科学講座 微生物学・寄生虫学分野

1. 研究・教育スタッフ

宮本比呂志（教授）、久木田明子（准教授）、菖蒲池健夫（助教）、永田 正喜（助教）

2. 研究テーマ

1) レジオネラの病原性発現機構の解明

レジオネラは、グラム陰性の桿菌でエアロゾル感染によりヒトに急性肺炎（在郷軍人病）やインフルエンザのような熱性疾患（ポンティアック熱）を惹起する病原性を持っている。空調冷却塔水や衛生管理の悪い循環式の温浴施設などが感染源となり、ビルや温浴施設の利用者にレジオネラ肺炎が集団発生する。本菌が病原性を発揮する上で最も重要な性質は生体防御の第一線で働くマクロファージの殺菌に抵抗して増殖することである。本菌がどのようにマクロファージの殺菌機構からエスケープして増殖するのかについて、菌側の遺伝子（Icm/Dot）と宿主側の遺伝子Lgnlの両側から解析を行っている。

2) MRSA（メチシリン耐性黄色ブドウ球菌）の除菌法の開発

ブドウ球菌は医療従事者を介して易感染性宿主へ院内感染を起こす病因菌の一つとして重要な菌である。バイオフィルム（生物膜）を形成するメチシリン耐性黄色ブドウ球菌（MRSA）はカテーテルやドレーンなどの人工機材を生体内に装着する医療行為の大きな障害となっているのが現状である。現在、銀イオンを用いて本菌を除菌する方法を開発中である。

3) 破骨細胞の分化機能調節に関する研究

破骨細胞はマクロファージに近縁の細胞で骨を壊す働きを持っている。培養細胞や疾患動物を用いて、破骨細胞の分化や機能に関わる因子およびその分子機構を明らかにする。また本研究室においてクローニングにより単離した、破骨細胞の分化機能調節に関わる新規の遺伝子（転写制御因子（OCZF）など）の機能解析を行っている。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

微生物学・免疫学・細胞生物学・生化学および分子生物学などの基本的な知識の学習、最近の論文（cell, nature, science など）の発表と問題発見・問題解決などを討論する能力を養う。

2) 技術

細菌の培養と殺菌活性の測定、マクロファージの分離、骨芽細胞、骨髄細胞 etc の初代培養、株細胞の細胞培養、顕微鏡観察技術、免疫染色法、FACS、骨吸収アッセイ、電子顕微鏡（走査型）、蛋白質の解析（SDS 電気泳動、Western）、遺伝子の発現解析法（RT-PCR、Northern）培養細胞への遺伝子導入、遺伝子発現細胞株の樹立、DNA や RNA の調製、組み換え遺伝子の作製、遺伝子のクローニング、遺伝子の塩基配列の解析、PCR、Southern などの分子生物学的技術などを習得する。

4. 指導方針・目標

自発的に自ら疑問を提出し、その疑問を科学的な実験手法を用いて解決しようとする研究者の能力を伸ばすための援助をすることを指導の基本方針としている。

5. 問い合わせ・連絡先

宮本教授：miyamoth@cc.saga-u.ac.jp

ホームページ：<http://www.microbio.med.saga-u.ac.jp/biodefense/>

TEL 直通 34-2245（内線 2245）

部屋番号 2210（基礎研究棟 2 階）

事務室：TEL 直通 34-2253（内線 2253）

社会医学講座 環境医学分野

1. 研究・教育スタッフ

市場 正良（教授），大石 浩隆（准教授）

2. 研究テーマ

環境化学物質の体内動態や暴露量と健康影響との量－反応（影響）関係を明らかにするために、以下のテーマについて、分析化学的手法を用いて研究を行っている。

1) 環境保健，産業保健に関する研究

物理的・化学的・生物的環境を定量的に評価するための評価指標の確立に関する研究。

生活環境や労働環境において使用される主な化学物質が体内に取り込まれた場合，どのような生体変化が現れるかを解析するための研究。

2) 環境がんのリスク評価に関する研究

タバコ煙や排ガス中に含まれる発がん性の化学物質による体内曝露量や影響の程度を明らかにし，発がんの予知・予防を目指した研究。

3) 生物学的モニタリングに関する研究

有機溶剤や鉛などの化学物質が体内に取り込まれる場合，血液や尿などの生体試料を分析して，その体内曝露量を推定するための評価手法の確立。

4) 環境保健，産業保健活動システムに関する研究

環境保健，産業保健活動を推進して行くためのシステム作りに関する研究。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

ヒトの健康と環境（特に化学的環境要因）との係りを科学的に解明するために必要な知識と，それを予防医学に活かすための能力。環境保健，産業保健システムに関する知識。

2) 技術

化学物質の環境中濃度や体内に取り込まれた際の生体変化を血液や尿などの生体試料を用いて定量的に評価するために必要な各種の分析技術（機器分析の技術など）や統計的解析技術。

4. 指導方針・目標

私たちが精力的に取り組んでいる研究に参画し，その研究の発展に寄与できるように個別的・集団的指導を行い，その成果を「予防原則」即ち，予防医学の発展に活かすことを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

市場 教授：ichiba@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34－2283（内線 2283）

部屋番号 2409

研究室：TEL 直通 34－2289（内線 2289）

社会医学講座 予防医学分野

1. 研究・教育スタッフ

田中恵太郎（教授）、原 めぐみ（助教）、西田裕一郎（助教）

2. 研究テーマ

癌や生活習慣病の危険因子・防御因子の解明と予防対策の確立を目標とした疫学的研究と関連する実験的研究（遺伝子多型の解析など）を行っている。

1) 日本多施設共同コホート研究（J-MICC Study ジェイミックススタディ）

生活習慣（飲酒・喫煙・食習慣・運動など）と遺伝的素因（遺伝子多型）が相互的にがんなどの生活習慣病の発生に及ぼす影響の検討、佐賀市で約1万2千人、全国で約10万人を20年間にわたって追跡するコホート研究。

2) 肝癌の危険因子と予防対策に関する研究

環境要因（肝炎ウイルス・飲酒・喫煙など）と宿主要因（候補遺伝子多型など）が相互的に肝発癌に及ぼす影響の検討。佐賀県における肝癌対策の評価と支援に関する研究。

3) 身体活動と生活習慣病（肥満症・糖尿病・高脂血症・高血圧症など）に関する研究

生活習慣病に対する運動療法に関する研究、身体活動の効果を左右する候補遺伝子多型の解析、高齢者の寝たきり予防のための運動処方と実践プログラムの作成。

4) インフルエンザワクチンの有効性の評価に関する研究

施設入所中の重症心身障害児・者、地域居住の小児および高齢者におけるワクチン接種の有効性に関する研究。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

疫学、公衆衛生学、統計学などの知識と予防医学的研究に必要な能力。

2) 技術

疫学研究の企画と実施、調査票の作成、統計解析パッケージ（SAS など）によるデータ解析、遺伝子多型の解析、肥満・身体活動量の評価、運動負荷試験、生活習慣病に対する運動療法と食事療法、健康づくり支援プログラムの作成と実践。

4. 指導方針・目標

健康問題に対して多面的な角度から柔軟にアプローチできる能力を習得する事を目標とし、各教員が分担してそれぞれの得意とする分野から指導を行う。

5. 問い合わせ・連絡先

田 中 教 授：tanakake@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2280（内線 2280）
部屋番号 2407
研 究 室：TEL 直通 34-2287（内線 2287）

認知神経心理学分野

1. 研究・教育スタッフ

堀川 悦夫（教授）

2. 研究テーマ

支援を必要とする人の視点から様々な手法による支援を評価することは、その方向性や支援内容の良否を判断する上で重要である。人間の判断や評価など主観的な現象をいかに研究していくかという問題は、基礎的な研究課題であるが、応用・実践的場面での適用も求められるため、認知神経科学・認知神経心理学、脳科学などの関連諸領域からなる学際的アプローチが必要である。

当分野においては、実験室での精密な測定から、地域医療における活動に及ぶ幅広い分野で研究を行っている。また、本学大学病院各診療科や関連病院等そして地域と連携した新しい視点で、各種支援手法の開発と実証データに基づいた支援（Evidence Based Support）のための研究を進めている。

* 主な研究テーマ

- ① 認知機能に及ぼす加齢の効果の検証
- ② 認知機能測定法の開発
- ③ 高齢者・障害者のためのモビリティ（移動行動）の維持向上
- ④ 易転倒性評価法および交通事故防止に関する研究開発と応用
- ⑤ 介護負担とポジティブゲインに関する研究
- ⑥ 福祉機器の評価法の開発
- ⑦ 移動体計測手法による交通バリアフリー推進研究
- ⑧ 脳機能研究の成果に基づくコミュニケーションエイドの開発
- ⑨ モバイル計測を用いた糖尿病患者における治療継続動機づけ研究

3. 習得可能な知識・技術

- ① 支援を必要とする人々の認知神経心理学的研究法一般
- ② 歩行や生活動作の解析手法
- ③ 加齢に伴う心身の変化に関する医学的基礎知識
- ④ 人間工学的視点からの福祉用具の開発・研究
- ⑤ 脳機能を指標とした非言語的コミュニケーション支援

4. 指導方針・目標

基礎的研究と応用研究の療法の視点から研究とその指導を行う。多面的なアプローチを行っているため、広範囲な分野との共同研究が行われている。真に役に立つ生活支援の標準化・体系化を目指している。

5. 問い合わせ・連絡先

堀川 教授：ethori@cc.saga-u.ac.jp
 TEL 直通 34-2141（内線 2141）
 部屋番号 1208
 研 究 室：TEL 直通 34-2141

生活行動支援学 リハビリテーション工学分野

1. 研究・教育スタッフ

松尾 清美（准教授）

2. 研究テーマ

近年、医療従事者に求められていることは、医療に関する知識や技術のみならず、人間としてバランスのとれた人間性や社会性である。年齢や身体機能、生活環境、仕事、家族構成など様々な状況下にいる個々の患者の疾病や傷病の治療方法を検討し、退院後の社会生活の実情を理解して治療しなければならない。生活行動支援学では、医学的な治療後も身体機能に後遺障害が残る高齢者・障害者・傷病者に対しての医療支援技術の提供方法と役割、在宅や社会生活行動支援への具体的な関わり方と考え方を研究し、彼らの生活行動支援方法を追及する。

3. 習得可能な知識・技術

- ① 身体に障害を持って自立（律）生活する方法と教育方法の習得
- ② 歩行できない身体機能となっても自立（律）生活を目指す方法の習得
- ③ 移乗・移動方法および機器の種類の習得および教育方法の習得
- ④ 車いすの選び方・使い方および教育方法の習得
- ⑤ ベッドの選び方・使い方および教育方法の習得
- ⑥ 社会生活行動支援システムに関する考え方の習得
- ⑦ 身体障害者や高齢者の補助器具の選び方・使い方技術および教育方法の習得
- ⑧ 障害者（児）の就学・就労支援方法の習得

4. 指導方針・目標

当大学医学部の附属病院の整形外科やリハビリテーション診療科、皮膚科、小児科など外来診療および病棟における患者の生活行動支援を通して、また佐賀整肢学園におけるライフサポート研究会で障害児の生活行動支援を通して、生活行動支援方法を確立していくと共に、事例を通して学習し習得を図るものである。この生活行動支援は、補助器具と住環境の組み合わせを中心に、家族や周囲の支援者の考え方や方法を構築していくものである。基本は、本人と家族を囲み様々な専門職種が一同に集まり、個々の生活行動支援について論議して自立（律）支援方法を決定していくのである。

福祉健康科学部門の実験室には、動作分析装置や画像記録装置、体圧計測機、重心位置検出装置などの計測機を準備している。また、住環境の単位空間ごとのシミュレーションができるように装置を設置している。これらの装置を用いて、移乗・移動動作などの生活動作の分析を行いながら研究開発を進行していく。

5. 問い合わせ・連絡先

松尾准教授：matsuoki@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2187（内線 2187）
部屋番号 1214
研 究 室：TEL 直通 34-2187

医 療 教 育 学

1. 研究・教育スタッフ

酒見 隆信（教授），小田 康友（准教授）

2. 研究テーマ

医療従事者の習得すべき基本的能力を知識や技能，態度の視点から特定し，臨床研修プログラム，医療従事者プログラムに効果的に応用する方法を研究し，教育教材開発を行っている。また，医学教育の世界標準化の動きに合わせ，具体的には次のテーマを研究している。

- 1) 新入生への早期付き添い実習の効果の研究
- 2) PBL 学習が臨床実習へ及ぼす影響に関する研修
- 3) シミュレーター学習導入と学生の意欲に関する研究
- 4) PBL 学習，病棟実習における視的教材の効果に関する研究
- 5) PBL 学習：ハワイ大学との比較研究
- 6) 地域医療機関との教育機器の共有に関する研究

3. 習得可能な知識・技術

- 1) 知識・能力

医療コミュニケーション論

- 2) 技術

4. 指導方針・目標

医療教育の実際を把握するため，現在の医療教育に対する学生の生の評価を収集する。問題立脚型学習法(PBL)，診療参加型臨床実習などの新しい教育方法の評価を実践を通して行う。また，さまざまな課題を地域の医療関連機関との共同，協力を基盤として行い，その成果を地域に発信する。

5. 問い合わせ・連絡先

酒見 教授：sakemit@cc.saga-u.ac.jp

TEL 0952-34-2507

地域医療科学教育センター

事務室：内線 2180

医 療 情 報 学

1. 研究・教育スタッフ

竹生 政資（教授）、富永 広貴（准教授）、高崎 光浩（准教授）

2. 研究テーマ

1) 地域遠隔医療システムの開発

地域医療機関等との緊密な連携を構築し、住民に継続性のある質の高い医療を提供するために、1 地域 1 患者 1 電子カルテシステムを設計し、安全かつ円滑に地域医療機関と情報交換を行う高速通信ネットワーク、セキュリティシステム、および地域医療情報データベースの研究開発を行う。

2) 生体データの解析

生体データ（脳波、眼球運動、呼吸、心臓、脈など）を計測し、これらのデータをスペクトル解析、フラクタル次元解析、カオス解析などの手法により解析し、生体の状態を定量化する手法を開発する。

3) 医学教育 CAI システムの開発

e-Learning システム等の導入により医学教育の CAI システムを開発する。

4) 大規模分散システムのネットワーク管理技術の開発

情報処理センターの多数のコンピュータとネットワーク環境を利用して、大規模分散システムに関する効率的なネットワーク管理技術の開発に関する研究を行う。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

電子カルテシステム、地域遠隔医療システム、地域医療情報データベースに関する知識を修得する。また、脳波・眼球運動・呼吸・心臓・脳波などの生体データとその解析手法についての知識、医学教育 CAI システムを構築する能力、大規模分散システムについての知識とこれを効率よく管理する能力などを修得する。

2) 技術

遠隔医療システム構築技術、地域医療情報データベース設計技術、数値計算技術、画像データ解析技術、スペクトル解析技術、フラクタル次元解析技術、カオス解析技術、統計解析技術、ソフトウェア開発技術、ネットワーク管理技術などの技術を修得する。

4. 指導方針・目標

上記の研究テーマについて、将来的に独立して研究を遂行・発展させるのに必要な、しっかりとした基盤を身につけることを目標とし、マンツーマンによる指導を行う。

5. 問い合わせ・連絡先

竹 生 教 授：takefu@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2202（内線 2202）
部屋番号 1311
研 究 室：TEL 直通 34-2202（内線 2202）

内科学講座 膠原病・リウマチ内科学分野

1. 研究・教育スタッフ

長澤 浩平（教授），多田 芳史（講師），小荒田秀一（特任講師），井上 久子（助教）
末松 梨絵（医員），副島 幸子（医員）

2. 研究テーマ

全身性エリテマトーデスや関節リウマチなどの自己免疫疾患の発症メカニズムおよび病態の解析を主要なテーマとし、患者リンパ球を用いた実験と、疾患モデルマウスを用いた実験を行っている。

- 1) 自己免疫疾患患者単核球の Toll like receptor (TLR) および B 細胞の RP105 分子に関する研究
患者リンパ球，単球，樹状細胞の TLR ファミリーの発現および機能についての解析，治療への応用を目的とする。
- 2) 自己免疫疾患患者 T 細胞のサイトカインに関する研究
患者 T 細胞の細胞内サイトカインの測定により Th1, Th2 への偏倚を解析する。
- 3) ノックアウトマウスを用いた疾患モデルマウスの研究
各種の遺伝子欠損マウスに全身性エリテマトーデスや関節リウマチのモデルを誘導し，疾患への各遺伝子の影響を解析する。
- 4) SLE 患者における大腿骨頭壊死予防に関する臨床研究
- 5) 成人スティル病に関する臨床研究

3. 習得可能な知識・技術

- 1) 知識・能力
基礎および臨床に関連した免疫学の知識，自己免疫疾患の発症機構，小動物の解剖・生理学
- 2) 技術
フローサイトメトリーによる解析（細胞表面マーカー解析，細胞内サイトカイン解析，細胞分裂解析，アポトーシス解析，ビーズアッセイ法によるサイトカイン測定など），細胞培養，細胞株の作成・維持，ELISA 法，マウスの取扱（免疫法，採血，注射，解剖など），遺伝子解析（PCR，逆転写 PCR など），組織学的解析（各種染色，蛍光抗体法）など

4. 指導方針・目標

基礎的な免疫学を疾患の解析に応用できるように，臨床と基礎とを関連づけながら研究を行っていく。

5. 問い合わせ・連絡先

長澤 教授：nagasak@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2350（内線 2350）
部屋番号 2437
研 究 室：TEL 直通 34-2367（内線 2367）

内科学講座 皮膚科学分野

1. 研究・教育スタッフ

成澤 寛 (教授), 三砂 範幸 (准教授), 井上 卓也 (講師), 大川 毅 (助教)
古場 慎一 (助教)

2. 研究テーマ

1) 皮膚の感覚受容のメカニズムを研究

毛嚢および毛盤におけるメルケル細胞の機能および特性について走査型および透過型電子顕微鏡を用いて研究を行う。

2) 毛嚢に分布するランゲルハンス細胞の機能解析

毛嚢ランゲルハンス細胞の表面マーカーをフローサイトメトリーを用いて比較検討する。

3) 皮膚腫瘍の病理組織学的研究

未だ分類や病理発生が明確でない皮膚付属腫瘍、特に皮膚脂腺系腫瘍や外毛根鞘癌の組織診断基準を作成して明瞭な分類を行い、組織発生の研究を行う。また基底細胞癌の病理組織学的研究について取り組む予定である。ポリオスウィルスによる発癌機序が判明したメルケル細胞癌についても研究を行う。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

皮膚の構造と機能, 皮膚感覚の機序, 皮膚の発生学, アレルギー性皮膚疾患の病態, 皮膚病理組織学などの知識

2) 技術

走査型・透過型電子顕微鏡, 免疫組織化学法, 細胞培養法, 光学顕微鏡の観察法, 顕微鏡撮影技術

4. 指導方針・目標

基本的手技の取得のための実技指導をマンツーマンで指導する。定期的にこまめにミーティングを行い研究の進捗状況をチェックする。

5. 問い合わせ・連絡先

成澤教授: narisawa@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2352 (内線 2352)
部屋番号 2440
研究室: TEL 直通 34-2368 (内線 2368)

内科学講座 消化器内科学分野、光学医療診療部

1. 研究・教育スタッフ

藤本 一眞（教授）、岩切 龍一（光学医療診療部、准教授）、坂田 祐之（講師）
綱田 誠司（光学医療診療部、特任講師）、下田 良（助教）、白石 良介（助教）

2. 研究テーマ

内科学の中でも消化器疾患を中心に臨床および基礎研究を行っている。特に以下のテーマについて重点的に取り組んでいる。

1) 消化器疾患における内視鏡治療の妥当性の検討

前向き研究を実施することで現在施行されている内視鏡的治療を中心とする治療法の妥当性を検討する。

2) 小腸機能の検討

小腸粘膜の増殖や細胞死（アポトーシスを含む）がどのように調節されているかを動物モデル中心に検討し、消化吸収等の小腸機能との関連を検討する。

3) 胃および小腸粘膜細胞の培養系の確立

培養系で用いられている細胞株は癌由来のものが多い。当研究室では初代培養細胞を用いて粘膜の再構築を試みている。将来的には胃や小腸の幹細胞や骨髄幹細胞からの消化管粘膜の再構築を試み、消化管における再生医療の先駆けとなりたい。

4) 中枢神経系の消化管機能におよぼす影響

中枢神経系の消化管におよぼす影響は消化管の運動や消化管ホルモンの分泌を中心になされてきた。当研究室では世界に先駆けて中枢神経系の消化管粘膜の増殖能に及ぼす影響を明らかにしている。

5) 消化器と生活習慣病との関連の検討

生活習慣病に対する消化管の関与に関する研究を行っている。脂質吸収と生活習慣、脂質摂取と大腸発癌、等が中心的テーマである。2003年度の日本消化器病学会週間では“生活習慣と消化器”のテーマで教育講演を行った。

3. 習得可能な知識・技術

消化器病学の基礎的知識および臨床的知識、科学実験計画と実験データの処理、科学論文の書き方、等を学ぶことが可能である。実験技術としては実験用動物を用いた *in vivo* 実験と培養細胞を用いた *in vitro* の実験に関する技術を得ることが可能であり、生理的、生化学的、病理学的、分子生物学的なアプローチ法を学ぶことが可能である。

4. 指導方針

2年間の間にふたつのテーマに取り組んでもらう。最初のテーマは担当教員の考えた予め結果の予想可能なものであり、実際の実験を施行しながら技術の習得をして実験結果をまとめて科学論文にする段階で知識をより確実なものにする。結果は国内外の学会で積極的に発表させる。ふたつ目のテーマは最初のテーマで得た知識や技術を応用して、なるべく自分で実験のテーマを考え実行する。ふたつの論文を完成させることで科学者としての基礎的な知識と科学論文の書くための基本的な知識を習得する。

5. 問い合わせ・連絡先

藤本 教授：fujimotk@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2351（内線 2351）
部屋番号 2438
研 究 室：TEL 直通 34-2361（内線 2361）

内科学講座 循環器内科学分野

1. 研究・教育スタッフ

野出 孝一（教授）、河野 宏明（准教授）、小松 愛子（助教）

2. 研究テーマ

- 1 プラーク不安定化，再狭窄の分子機構の解明
- 2 動脈硬化症の発症，進展の新たな予測マーカーの開発
- 3 危険因子に対する早期介入と新たな動脈硬化治療薬の開発
- 4 心筋リモデリングの分子機構解明とそのマーカーの開発
- 5 生活習慣病の観点からとらえた不整脈
- 6 脳梗塞の発症予測マーカーの開発
- 7 多施設臨床共同研究の推進
- 8 血管内皮細胞障害の分子機構
- 9 血管内皮細胞新生・再生の分子機構
- 10 心血管病モデルを用いた循環器疾患治療薬の作用機序の解明
- 11 体内時計分子メカニズムの分子細胞生物学的研究
- 12 体内時計と循環器機能の生理学的・病理学的相互作用
- 13 体内時計調節因子の探索と人為制御

3. 習得可能な知識・技術

- 1 ELISA, EIA, EPLC などにより血中マーカーの測定
- 2 フローサイトメトリーによる細胞膜表面抗原，細胞内サイトカインの検出
- 3 細胞培養
- 4 各種遺伝子操作（PCR，ダイレクトシーケンス，レポーター遺伝子アッセイ，etc）および分子生物学的手法一般
- 5 冠動脈造影，血管内超音波法定量解析評価法
- 6 血管内皮機能評価（血流依存性血管拡張反応：FMD）
- 7 蛋白精製，電気泳動法等の蛋白学
- 8 免疫組織染色，蛍光抗体法
- 9 遺伝子組み換え技術を含む遺伝子工学
- 10 病態モデル動物の作成
- 11 分子生物学の基礎的知識・技術全般
- 12 細胞生物学の基礎的知識・技術全般
- 13 生化学の基礎的知識・基礎的技術
- 14 動物操作の基礎的知識・基礎的技術
- 15 体内時計研究全般の知識・技術

4. 指導方針・目標

- 1 実際の臨床の現場を見ながら，そこで要求されていることを知り，どんなことを解明していく必要があるのかを臨床医とともに考えて研究をすすめていく
- 2 教員，院生，実験助手の枠をこえ，互いにアイデアを出し合い，研究プロジェクトを立てていく
- 3 テーマ設定・研究計画・実験計画のサポート
- 4 基礎医学・生物学研究者養成のサポート
- 5 研究成果の臨床応用へ向けた企業等との共同研究の展開
- 6 実験技術の確実な習得
- 7 特許につながる研究をめざす
- 8 将来研究を必ず臨床の現場に還元させる
- 9 研究成果の国内・国際学会での発表
- 10 研究成果の英文国際誌への発表

5. 問い合わせ・連絡先

野出教授：node@cc.saga-u.ac.jp
TEL 34-2364（内線 2364）
部屋番号 2439, 2451
研究室：TEL 直通 34-2364（内線 2364）

一般・消化器外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

能城 浩和（准教授）、北原 賢二（講師）、三好 篤（講師）、隅 健次（助教）

小林毅一郎（助教）、小池 健太（助教）、古賀 靖大（助教）、井手 貴雄（助教）

政次 俊宏（助教）

2. 研究テーマ

癌を主要研究テーマとして、癌の予後因子の解析から、増殖、浸潤、転移などの進展機構を分子生物学的に明らかにしつつ、特定分子を標的とした新たな治療の開発および制癌剤の耐性機構の分子生物学的解析から合理的な化学療法の確立をめざしている。サブテーマとして、三次元画像解析による手術シミュレーション構築や鏡視下手術など低侵襲治療の生体反応に対する影響なども行っている。

- 1) 抗癌剤感受性マーカーのジェネティック・エピジェネティック解析を基盤とした抗癌剤個別化治療
抗癌剤への感受性は、患者間で異なっている。

教室では、癌細胞の DNA 修復・細胞周期制御遺伝子が DNA メチル化により発現を喪失し抗癌剤感受性を増強させること、さらに抗癌剤の細胞内代謝に関わる酵素群の発現量が抗癌剤効果と強い関連があることを明らかにしている。これらの基礎データをもとに患者個々に有効な抗癌剤を選択する個別化抗癌剤治療の実現を目指す。

- 2) 癌の微小環境と分子標的治療

固形癌の特徴である腫瘍内低酸素による癌の形質変化（悪性度の増強、抗癌剤耐性獲得）を解析し、関連遺伝子の検索と制御機構を研究することにより分子標的治療薬開発の可能性を探る。

- 3) 抗癌剤増強効果をもたらす新薬の開発
- 4) 肝臓三次元画像ソフトによる手術シミュレーションの構築
- 5) 生体侵襲反応における低侵襲手術の評価

3. 習得可能な知識・技術

- 1) 知識・能力

腫瘍学、癌の分子生物学、解剖学、病理学、外科学の知識、医学研究へのモチベーション、特性解析から仮説立案、モデル構築、結果からの考察という一連の研究を遂行する能力、医療の限界と break-through point を見極める能力

- 2) 技術

二次元、三次元細胞培養、初代培養、株細胞樹立、顕微鏡操作撮影技術（光学、位相差、蛍光、電子）、免疫組織染色、RI 解析、in situ hybridization、マイクロダイセクション、ヌードマウス移植、DNA、RNA 解析、アレイ解析、遺伝子導入技術、薬剤感受性試験、小動物実験、三次元画像解析

4. 指導方針・目標

教員は医学博士を原則としている。ほとんどが分子生物学的解析研究経験者であるため、臨床に則した translational research をめざしている。研究室長のもと、通常 2～4 名程度の臨床大学院生と研究生が研究活動に専念している。従って、多年次の複数の専門を異にする指導が得られ、アットホームな研究環境がある。

5. 問い合わせ・連絡先

能城准教授：noshiro@cc.saga-u.ac.jp

TEL 34-2331（内線 2331）

部屋番号 2340

研究室：TEL 直通 34-2349（内線 2349）

泌 尿 器 科 学 講 座

1. 研究・教育スタッフ

魚住 二郎 (教授), 野口 満 (講師), 徳田 雄治 (講師), 佐藤 勇司 (講師)
西村 和重 (助教), 中島 啓二 (助教), 中尾 孝子 (助教), 金子 新 (助教)

2. 研究テーマ

薬剤などによる外因性腎臓障害のメカニズムを, in vitro で酵素化学的技法により明らかにする。さらに, 前立腺細胞の成長・分化に与える脂肪細胞の影響をくらべている。また独自に開発した再構築膀胱粘膜培養法を利用して, 人工膀胱臓器の開発, 尿路悪性腫瘍の進展浸潤治療などを解明する研究を行っている。

1) 造影剤・抗がん剤による腎毒性の解明

尿管上皮酵素測定法による急性腎障害のメカニズムの解明・予防の研究

2) 脂肪細胞と前立腺癌細胞増殖との関係についての研究

肥満の前立腺癌細胞成長・分化に与える影響, 前立腺癌細胞の転移先である骨髄における増殖についての研究

3) 再生人工膀胱

腸管利用術に替わる膀胱本来の機能を有する人工膀胱の再生医用工学の研究

4) 腎細胞癌の遺伝子解析

腎癌発生のメカニズム解明のため, 分子遺伝子学的解析を行っている。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

細胞生物学, 泌尿生殖器臓器の解剖・機能, 分子遺伝子学

2) 技術

腎酵素化学的分析法, 細胞培養技術, 細胞再構築技術, 病理学的手技, 蛋白, 遺伝子レベルでの解析など

4. 指導方針・目標

自分の疑問に対して, 解決に向けたアプローチ, 問題点を列挙し整理していく論理的な思考ができる研究者を育てる。研究の成果実績主義に陥ることなく, 自然科学事象に対して真摯な態度で臨み, 真実にたどり着くことができる研究者を育成する。

5. 問い合わせ・連絡先

魚住教授: uozumi@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2333 (内線 2333)
部屋番号 2343
研究室: TEL 直通 34-2344 (内線 2344)

脳神経外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

松島 俊夫（教授）、河島 雅到（准教授）、中原由紀子（助教）、高瀬 幸徳（助教）

2. 研究テーマ

1) 微小外科解剖に基づく手術アプローチの開発

解剖が大変複雑な脳の手術を行うため、研究室で手術用顕微鏡下に死体標本を用いて研究する。

2) 脳腫瘍における遺伝子発現解析

DNA マイクロアレイ法によるグリオーマ培養細胞および臨床サンプルの mRNA 発現解析を行う。
また Methylation-specific PCR による脳腫瘍関連遺伝子の転写制御機構の解明を行う。

3) 脳腫瘍、脳血管障害の画像診断

頭部 MRI および CT-angiogram を用いて、神経機能の局在診断や錐体路、視覚路などの同定や静脈解剖を解析する。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

脳の構造および働きに関する知識と、中枢神経系疾患に関する理解、最先端の解析法

2) 技術

組織培養、マウス・ラットを用いた実験、パラフィン切片の作製、電顕資料の作成と観察、免疫組織化学、分子生物学的実験

4. 指導方針・目標

各人が研究テーマを与えられ、それに沿って専門家にマンツーマンで指導が与えられる。神経解剖、組織培養、動物実験、免疫組織化学・電顕、分子生物学的実験、画像診断・解析などの中から、自由に選択して研究できる。

5. 問い合わせ・連絡先

松島教授：matsuto@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2330

部屋番号 2345

研究室：TEL 直通 34-2346（内線 2346）

胸部・心臓血管外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

森田 茂樹（教授）、岡崎 幸生（准教授）、古川浩二郎（講師）、光岡 正浩（特任講師）

2. 研究テーマ

胸部心臓血管外科手術の安全性向上、低侵襲性向上、新しい手術術式の研究

1) 心臓内視鏡による正常弁動態生理、弁形成術式、自己弁温存大動脈基部置換術式の研究

内視鏡で見る心臓の内部の動きはまさに神秘的です！

2) 心筋保護・虚血再灌流障害軽減の研究

心臓を止めて手術した後、心臓が元気よく動き出すことは、重要なポイントです。

3) 人工心肺装置・補助循環装置・人工心臓の研究

人工心肺装置は手術中心臓と肺の働きを代行します。また、くたびれがひどい心臓には補助循環を必要とします。

4) 低侵襲心臓手術の研究

心臓手術といえども患者さんに負担の少ない手術方法が望まれています。

5) 心臓移植に関する研究

心臓移植の基礎から臨床に関する研究に取り組みます。

6) 気管再建に関する研究

気管ステントに関する知見を応用発展し、気管再建法の開発に取り組んでいます。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

心臓の解剖生理、循環動態生理、心筋虚血再灌流障害と炎症反応のメカニズム、生体医用工学、呼吸病態生理

2) 技術

動物実験手術手技、麻酔法、無菌手術操作、人工心肺装置操作法、心機能測定法、臓器灌流法、走査電子顕微鏡

4. 指導方針・目標

先入観を持たず自由な発想でアイデアを出してください。

一緒に楽しく研究しましょう。

5. 問い合わせ・連絡先

森田教授：moritash@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2328

研究室：TEL 直通 34-2345

形 成 外 科

1. 研究・教育スタッフ

上村 哲司（准教授），苅部 大輔（助教）

2. 研究テーマ

1. 創傷治癒および足病変の血流と血管解剖
2. マイクロサージャリートレーニングシステムの開発

3. 習得可能な知識・技術

1. 創傷治癒学
2. 足病変の血流評価と血管解剖
3. マイクロサージャリーの手技

4. 指導方針・目標

臨床の足病変（潰瘍，壊疽）の創傷治癒学を課題にして，その基礎研究を行い，臨床に反映する。
新しい分野の大学院であり，アットホームな雰囲気の中で臨床，研究を行っている。

5. 問い合わせ・連絡先

上村 哲司：uemurat@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34－3680

部屋番号 2330

研 究 室：TEL 直通 34－2460（部屋 2329）

リハビリテーション部

1. 研究・教育スタッフ

浅見 豊子（准教授）

2. 研究テーマ

身心機能の低下に対するリハビリテーション医療を行う上で必要な診断あるいは障害評価の方法，治療法などの確立・開発のために，身心機能の分析や解析，機械工学技術などの手法を用いたリハビリテーション医学の研究を行っている。メインテーマとしては以下のものがある。

- 1) 義肢・装具をはじめとした福祉用具の研究や開発
- 2) リハビリテーションに関わる評価尺度およびシステム研究や開発
- 3) 新しい筋電ロボットの開発に関する工学部との共同研究など他分野との共同研究

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

各疾患の基礎医学・リハビリテーション医学および関連分野の知識と，リハビリテーション医学研究に必要な能力

2) 技術

リハビリテーション医学的診察法や障害評価法，理学療法技術，作業療法技術，義肢装具の作製および操作技術

4. 指導方針・目標

将来的にリハビリテーション医学の臨床研究を遂行・発展させるための基盤を身につけることを目標としている。指導においては，リハビリテーション医療で重要なチームアプローチの一環として，医師のみならずリハビリテーションに関わる他職種による指導も取り入れている。

5. 問い合わせ・連絡先

浅見診療教授：asamit@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-3630（内線 3630）
部屋 リハビリテーション部
研 究 室：TEL 直通 34-3285（内線 3285）

放 射 線 医 学 講 座

1. 研究・教育スタッフ

工藤 祥 (教授), 入江 裕之 (准教授), 水口 昌伸 (診療准教授), 徳丸 直郎 (診療准教授)
野口 智幸 (講師), 野尻 淳一 (診療講師), 蒲地 紀之 (助教), 大塚 貴輝 (診療講師)
平川 浩一 (助教), 江頭 秀哲 (助教)

2. 研究テーマ

疾患の画像診断, インターベンショナル・ラジオロジー (画像ガイド下治療), 放射線治療等の臨床的研究を行うとともに, 装置, 器具, 薬剤, 検査法, 画像処理法, および診断法・治療法について, 医用工学, 画像工学, 情報工学的見地から研究を行っている。

- 1) X線写真・CT・MRI・超音波・シンチグラムによる腫瘍の質的診断とステージング
- 2) X線写真・CT・MRI・超音波・シンチグラムによる炎症性疾患の質的診断
- 3) CT・MRI・超音波・シンチグラムによる血流, 臓器虚血, 臓器機能の診断
- 4) CT・MRI・超音波・シンチグラムによる血管, 骨軟部, 臓器微小病変の立体的診断
- 5) 画像診断の集団検診への応用
- 6) 脳動脈瘤, 喀血, 肝臓癌, 子宮筋腫等に対する動脈塞栓療法, 動注化学療法
- 7) 経皮的血行再建術, 特に大動脈瘤のステント・グラフト治療
- 8) 頭頸部腫瘍, その他に対する立体放射線照射療法を含む集学的治療
- 9) 婦人科癌, その他に対する小線源放射線療法を含む集学的治療
- 10) 医用電子画像情報の臨床応用, 保管・転送, その他の活用法

3. 習得可能な知識・技術

- 1) 知識・能力
 - ・一般解剖学, 画像解剖学, 機能解剖学に関する知識
 - ・造影剤, 放射性医薬品の代謝経路, 臨床応用法に関する知識
 - ・画像診断機器の原理, 医用工学的知識, 情報工学的知識
 - ・放射線の発生, 物質・生体との相互作用に関する知識
- 2) 技術
 - ・画像診断機器操作, 画像処理, 画像診断
 - ・放射線治療機器操作, 線量計算, 放射線治療計画

4. 指導方針・目標

- ・スモール・グループ, あるいは一対一による指導
- ・研究心を持った臨床家, 臨床に即した研究者の養成

5. 問い合わせ・連絡先

工藤 教授: kudo@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2305
部屋番号 2138
研 究 室: TEL 直通 34-2309
ファックス: 0952-34-2016

精神医学講座

1. 研究・教育スタッフ

山田 茂人（教授），楯林 英晴（講師），溝口 義人（講師），植木 裕司（助教）
國武 裕（助教），江上 真紀（助教）

2. 研究テーマ

- 1) 情動の生物学的指標に関する研究
うつ・不安の指標としての唾液中ノルアドレナリン代謝産物測定の妥当性の検討
一般人を対象とした精神健康調査票と唾液中ノルアドレナリン代謝産物の関連
- 2) 統合失調症における情報処理障害の解析
Prepulse Inhibition による統合失調症の病態研究
- 3) 伊万里市黒川町における老化に関する長期縦断疫学研究
- 4) 抗うつ薬の唾液中濃度測定の妥当性に関する研究

3. 習得可能な知識・技術

- 1) 知識・能力
情動に関与する神経解剖学，神経化学，精神薬理学，各種心理テスト施行能力
- 2) 技術
高速液体クロマトグラフィーによる低分子化合物定量分析，ガスクロマト質量分析計による低分子化合物定量分析

4. 指導方針・目標

将来的に行動科学分野の研究を遂行・発展させるのに必要な，知識と技能基盤を身につけることを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

山田教授：yamadash@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2300
部屋番号 2132
研究室：TEL 直通 34-2304

産科婦人科学講座

1. 研究・教育スタッフ

岩坂 剛（教授）、横山 正俊（准教授）、室 雅巳（講師）、中尾 佳史（講師）
佐護 直人（助教）

2. 研究テーマ

婦人科癌，中でも子宮頸癌の発癌から治療に至る一連の研究を行っている。

- 1) ヒト乳頭腫ウイルス（HPV）による発癌過程における，分子生物学的変化の検索
 - 2) 発癌過程における癌抑制遺伝子，喫煙の関与の解明
 - 3) 癌化過程の進行とテロメラーゼ活性化との相関についての研究
 - 4) 子宮頸部異形成患者からの HPV 検出と型の同定，およびその追跡調査による癌化のリスク因子の解明
 - 5) 子宮頸部腺癌に対する新しい細胞診断法および治療法の開発
- 母体・胎児の生体リズムの解明とその臨床応用のために以下の研究を行っている。
- 1) 生体リズムの解析法の開発とソフトウェアの作成
 - 2) 胎児心拍数パターンの非線形解析
 - 3) 正常胎児心拍数パターンにおける基準心拍数，一過性頻脈，基線細変動，持続性頻脈のサーカディアン，ウルトラディアンリズムの解析
 - 4) 超音波観察，胎児心拍数モニタリングに基づいた胎児行動期の研究
 - 5) 双胎間の生体リズム同期性の解析
 - 6) 正常，異常妊娠における母児間の生体リズムの相関についての研究
 - 7) ドップラー血流測定を用いた胎児中大脳動脈血流と胎児行動期との関係についての研究

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

婦人科腫瘍関係では，子宮頸癌の発癌機構の理解，婦人科腫瘍の細胞診所見および病理組織像の理解

周産期関係では胎児心拍数変動パターンの生理，病理的背景についての知識とその読解能力，生体リズムの理解に必要な知識とその解析能力

2) 技術

婦人科腫瘍関係では，婦人科細胞診断技術の習得，コルポスコピー診断の習得，組織培養技術の習得，分子生物学的手法の習得

周産期関係では基本的な胎児超音波観察，胎児心拍数モニタリングの手技と収録情報のデータベース構築および統計処理，Visual Basic を用いた簡易コンピュータソフトのプログラミング

4. 指導方針・目標

各専門分野の担当教員による指導から基本的知識・技術を修得し，自らの発想をもとにした研究へ発展させる基礎を培うとともに，女性を対象としたデータ収集を通じてインフォームドコンセントに基づいた臨床研究の進め方を体験することを目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

岩坂教授：iwasaka@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2315（内線 2315）
部屋番号 2239
研究室：TEL 直通 34-2319（内線 2319）

小 児 科 学 講 座

1. 研究・教育スタッフ

濱崎 雄平 (教授), 藤田 一郎 (准教授), 松尾 宗明 (講師), 田代 克弥 (助教)
山本 修一 (助教), 在津 正文 (助教), 西村 真二 (助教), 尾形 善康 (助教)
大塚 泰史 (助教)

2. 研究テーマ

小児科学講座は小児の幅広い疾患の病態に対応するためにいくつかの研究グループにわかれて診療および研究活動をしている。その中で代表的なものを紹介する。

- 1) アレルギー・呼吸器疾患グループの大きなテーマは、小児気管支喘息の基本的病態である気道の慢性炎症、気道過敏性の発症の機序を明らかにし予防、治療法を開発することである。アレルギーの重要なメディエーターであるアラキドンサン代謝物の合成、分解酵素、およびその受容体の発現、活性化の機序について、培養気道上皮、好酸球、肥満細胞等の気道炎症に関係した細胞を用い、分子生物学的、生化学的、また免疫学的な手法を応用し研究している。習得可能な技術は細胞培養、HPLCなどの機器分析法、RIA、EIAなどの測定法、DNA、mRNAを解析して診断に応用する基本的分子生物学的手法、呼吸生理学的検査法、アレルギー検査法などである。
- 2) 血液・腫瘍グループは乳児白血病の病態解析とその治療法の確立、臍帯血幹細胞の体外増殖法の確立と応用、自己免疫疾患におけるT細胞機能解析などを研究テーマとし、骨髓末梢血の形態診断法、flow cytometryをもちいた細胞解析法、遺伝子解析法を駆使した小児の血液、腫瘍性疾患の形態、マーカー、遺伝子解析を含む診断、および血液学研究の基礎技術を習得することを目標としている。
- 3) 神経筋疾患グループは痙攣性疾患、神経筋疾患、発達障害などの病態を明らかにし、治療法を開発することを研究テーマとし、中枢神経感染症における脂質メディエーターの役割の解析、痙攣とサイトカインとの関連等の研究を行っている。
- 4) 内分泌・代謝疾患・遺伝病グループは若年発症糖尿病、その他の内分泌疾患、遺伝性疾患のよりよい治療法の確立、これらの患者の社会的支援のあり方についての研究を行っている。
- 5) そのほかに、循環器グループ、新生児グループ、腎グループがそれぞれの対象となる疾患の病態、治療法の確立をめざしてテーマをもち研究活動を行っている。小児科学研究室の特徴は、非常に幅広い小児医学分野の研究を連携をもって行うことが可能であるという点にある。

3. 問い合わせ・連絡先

濱崎 教授：hamasaki@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2310 (内線 2310)
部屋番号 2231
研 究 室：TEL 直通 34-2314 (内線 2314)

眼 科 学 講 座

1. 研究・教育スタッフ

沖波 聡 (教授), 平田 憲 (准教授), 岩切 亮 (講師), 中尾 功 (助教)

2. 研究テーマ

臨床面では、様々な治療法による治療成績を比較検討するため、統計学を用いて検討し、基礎面では網膜疾患、ぶどう膜疾患、緑内障、角膜疾患の病因を明らかにするために、免疫組織化学、分子生物学、組織培養などの様々な手段を用いて、疾患に関わる遺伝子、タンパク質の同定とその役割の解明を試みている。

1) 臨床データの解析

2) ぶどう膜炎の病因解明、緑内障発症に関する研究

ぶどう膜炎の発症、重症化に関わる遺伝子、タンパク質の解析、毛様体、線維柱帯における特異的な遺伝子、タンパク質の解析

3) 網膜硝子体疾患の治療に関する研究

網膜血管の再生、神経網膜のサバイバルに関与する遺伝子、蛋白質の解析

4) 角膜における細胞障害性に関する研究

角膜培養系の確立、薬剤、病因菌における角膜細胞障害におけるメカニズムの解明

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

眼組織学、実験動物眼解剖学、分子生物学的研究に必要な能力

2) 技術

実験用動物の眼解剖技術、眼内組織から得られた各種細胞の培養、免疫組織化学法、インサイチュウハイブリダイゼーション法、共焦点レーザー顕微鏡解析技術、電子顕微鏡技術、ウエスタンブロッティング、PCR 法、RT-PCR 法、定量 RT-PCR 法、培養細胞における細胞障害性試験、ELISA 法によるタンパク質の定量

4. 指導方針・目標

眼科全般における分子生物学的実験に必要な基礎知識、技術の習得を目標とする。

5. 問い合わせ・連絡先

沖波 教授: okinami@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2380 (内線 2380)
部屋番号 2502
眼科医局: TEL 直通 34-2384 (内線 2384)

耳鼻咽喉科学講座

1. 研究・教育スタッフ

井之口 昭（教授），倉富勇一郎（准教授），島津倫太郎（講師），佐藤慎太郎（講師）
鈴木久美子（助教），門司 幹男（助教），島ノ江洋平（助教）

2. 研究テーマ

＜基礎的研究＞

1) 喉頭腫瘍病理学

コラーゲンゲル三次元培養法による喉頭粘膜の再構築法の考案。この方法を利用した喉頭癌の増殖分化と細胞外基質・間葉型細胞との関連についての研究，さらには喉頭癌放射線治療モデルの作成。喉頭癌の発癌，増殖，分化およびアポトーシスについての臨床病理学的研究。

2) 頭頸部癌の浸潤・転移におけるラミニンの意義に関する研究

基底膜タンパクであるラミニンの頭頸部癌組織における発見と，癌の浸潤・転移との関連についての免疫組織化学的，生化学的研究。新規腫瘍マーカーとしての血中ラミニン濃度の意義に関する研究

＜臨床的研究＞

1) 頭頸部悪性腫瘍に対する集学的治療

Chemoradiation, IVR (Interventional Radiology) 治療導入による臓器温存治療の臨床解析。

2) 嗅覚・味覚障害の臨床研究

新しい嗅覚検査法・解析法，治療法の考案・臨床検討。嗅覚障害と認知障害の関連，簡便で定量的な味覚検査の開発

3) 嚥下障害患者の動的解析と治療

VF (video fluorography) による嚥下動態の解析とその外科的治療および嚥下訓練法の研究

4) アレルギー性鼻炎の組織学的研究

アレルギー性鼻炎患者の外科的治療の検討，抗アレルギー剤投与による鼻粘膜の組織学的変化についての研究

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

耳鼻咽喉科に関する解剖学，病理学および一般臨床知識，特に咽喉頭の神経機能解剖学・生理学，喉頭腫瘍学，組織培養法

2) 技術

実験動物ならびにヒト摘出標本の取り扱い（切り出し・固定法・包埋・染色法・観察），各種顕微鏡・電子顕微鏡観察技術，神経軸索トレース実験法，免疫組織化学法，コラーゲンゲル三次元培養法による喉頭粘膜再構築法とその応用（喉頭癌モデルおよび治療モデルの作成），In situ hybridization

4. 指導方針・目標

当該研究を遂行するのに必要な最低限の基礎的技量を身につけさせる。加えて，臨床講座として将来的に臨床にも役立つ幅広い見識と応用力を習得させる。基礎的および臨床的研究には各分野の専門の教官が直接の指導にあたり，教授がこれを統括し目標を達成させる。

5. 問い合わせ・連絡先

井之口教授：inoaki@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2375（内線 2375）
部屋番号 2507
耳鼻科医局：TEL 直通 34-2379（内線 2379）

歯科口腔外科学講座

1. 研究・教育スタッフ

後藤 昌昭（教授）、山下 佳雄（准教授）、重松 正仁（助教）

2. 研究テーマ

顎口腔領域の様々な疾患の診断や治療、機能回復に関する基礎研究ならびに臨床的研究を行っている。

1) 顎口腔機能分析

顎口腔領域の腫瘍等を切除した患者、顎変形症患者、歯科インプラントを行った患者などの顎口腔機能の評価を様々な測定機器を使用して行い、機能の向上を図る。

2) 顎顔面補綴治療に関する研究

顎顔面領域に発生する腫瘍や外傷などによって生じる欠損を顎義歯やエビテーゼを使用して治療するが、その治療法の向上に関する研究

3) ヒト頭蓋骨の3次元計測と形態分析

ヒトの頭蓋骨をレーザースキャナーを用いて3次元計測し、形態学的に分析する。

4) コンピューターを使った顎矯正手術シミュレーションシステムの開発

顎矯正手術患者の顔面形態と骨形態の変化に関する形態的、力学的、統計学的に分析する。

5) 歯科口腔外科手術のためのオプティカルトラッキングシステムの開発

ナビゲーション手術を行うための歯科口腔外科用デバイスの開発

6) 高速通信回線を用いた遠隔医療システムの開発

海外の大学とのインターネットを経由したビデオライブ中継、遠隔ナビゲーションシステムに関する共同研究

7) 歯の再生に関する基礎研究

歯の象牙質の再生をはじめとする歯に関する幹細胞の同定と培養法の確立

8) 口腔癌の浸潤メカニズムに関する研究

口腔癌の浸潤に関するメカニズムを免疫組織学的手法を用いて解析する。

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

歯科学、特に口腔外科に関する知識と診断や治療に関する技術を理解できる能力を養い、研究に応用できるようにする。

2) 技術

顎顔面写真撮影技術、顎口腔機能検査機器（筋電図、咬合力、咀嚼能率、顎運動）、実験用小動物の取扱、実験手術および解剖技術、細胞単離培養技術、顕微鏡観察用標本作成技術（特に非脱灰研磨標本）、免疫組織化学法、各種光線顕微鏡（蛍光、位相差、微分干渉、暗視野等）観察技術、顕微鏡写真撮影技術、統計学的処理方法、骨形態の計測法、レーザースキャナーを用いた非接触3次元計測法、ネットワークシステムの構築技術、3次元形態の比較分析法、3次元形態の統計学的分析法、3次元形態シミュレーション技術、コンピューター画像処理、オプティカルトラッキング法など

4. 指導方針・目標

将来的に研究を遂行・発展させるのに必要な、基盤を身につけることを目標とする。他大学や企業のエンジニアと共同して行うシステム開発の手法について習得する。

5. 問い合わせ・連絡先

後藤教授：gotoh@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2395（内線 2395）

部屋番号 2471

研究室：TEL 直通 34-2397（内線 2397）

麻酔・蘇生学講座

1. 研究・教育スタッフ

平川奈緒美（准教授）、前田 祥範（教育指導講師）、垣内 好信（助教）

2. 研究テーマ

1) 痛みの伝達，治療に関する基礎研究

麻酔・蘇生学教室では，動物を用いて自律神経および感覚神経に神経トレーサーを注入することにより，内臓の求心性感覚神経の起始の決定や，神経ペプチドを用いて免疫組織化学研究を行い，内臓痛における自律神経，感覚神経の関与に関して神経解剖学的研究を行っている。臨床の場合においては，難治性慢性疼痛に対する新しい治療法として，大槽内薬物注入，三叉神経槽内グリセリン注入，胸腔鏡下胸部交感神経切除術，脊髄刺激電極埋込みなどを行い，良好な成果をおさめている。これらの臨床的に利用している治療法の基礎として動物での神経解剖学的研究を行っている。

また，疼痛制御機構としての下行性疼痛抑制系に関する研究として，ラットを用いて，これらのシステム内の中脳水道灰白質や延髄腹内側領域に各種薬物（オピオイドなど）を投与したときの鎮痛作用に関して行動生理学的研究（熱刺激を与えたときの尾逃避反射など）を行っている。さらに痛みには性差や情動が関与していることに注目して，慢性痛モデルを作成して，行動生理学的研究および神経解剖学的研究を組み合わせ，下行性疼痛抑制系と情動に関するドパミン作動神経系（脳内報酬系）との関係についての研究を行っている。

これらの研究では，中枢神経および末梢神経の解剖，神経解剖学的研究手法（神経組織化学，神経トレーサー法，免疫組織化学法）が習得できる。さらに行動生理学に必要な尾逃避反射やホルマリンテスト，条件づけ学習などの研究法，動物での定位脳手術などの手法を習得することができる。

また，脊髄における疼痛伝達機構に関する電気生理学的研究を，生体構造機能学講座とともに進めており，in vitro および in vivo patch clamp 法などの手法を学ぶことができる。

2) 複合性局所疼痛症候群（CRPS）の臨床的・基礎的研究

疼痛疾患の中でも非常に難治性である CRPS に関して，国内の多施設共同での研究を行っており，当教室はその共同研究施設として，診断・治療に関しての研究を行っている。また，発症機序に関する基礎的研究を行っている。

3) 難治性疼痛の治療のひとつとして脊髄刺激療法が臨床では有効である。しかしながら，この鎮痛機序に関しては，また不明な点も多い。当教室では，ラットの神経障害性疼痛モデルを作成し，独自に作成した電極を植え込み，電極刺激を行うことにより，行動生理学的変化，免疫組織的变化を調べることで，脊髄刺激療法の鎮痛機序の解明を行っている。

4) 冠状動脈攣縮に対する新しい治療戦略

周術期に発生する冠状動脈の異常収縮はしばしば生命予後を悪化させる重要な課題である。当教室では，冠動脈の異常収縮のメカニズムと解明し，有効な治療薬の研究を行っている。

3. 問い合わせ・連絡先

平川准教授：hirakan@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34-2324（内線 2324）
部屋番号 2251

手術部，集中治療部

1. 研究・教育スタッフ

荒木 和邦（准教授），三溝 慎次（講師），松本 浩一（助教）

2. 研究テーマ

我々の研究室では，重症患者の救命率を上げるため様々な病態における心臓や血管の変化を明らかにし，治療に役立てようと動物実験を中心とした基礎的研究を行っています。特に，感染を契機にショック状態を呈する敗血症性ショックの病態を調べるため，敗血症の際に産生される生理活性物質について，心臓や血管に対する影響をラットを用いて電気生理学的な手法で実験を行ったり，心エコー検査を用いて研究しています。

我々の研究室では臨床に従事しているメンバーが多く，研究だけの時間はとりにくいものの，短時間で効率的な実験を行い臨床に直結する結果がでてきています。

3. 問い合わせ・連絡先

荒木准教授：arakik@cc.saga-u.ac.jp
TEL 直通 34－3364（内線 3364）
部屋番号 病院 3 階手術部副部長室
事務室：TEL 直通 34－2324（内線 2324）

総合分析実験センター 生物資源開発部門

1. 研究・教育スタッフ

北嶋 修司（准教授）、西島 和俊（助教）

2. 研究テーマ

当部門では、発生工学、生殖工学といった手法を用いて、ヒト疾患モデル動物としての遺伝子組換えウサギの開発に関する研究を中心に行っています。疾患モデル動物とは、「人の病気と同一、もしくは類似の病態を持った動物」であり、医学研究において、病態解明、診断法の確立、治療法の開発といった研究に非常に重要な役割を果たしています。特に、ウサギはヒトと脂質代謝系が類似していることから脂質代謝異常、動脈硬化の研究分野でその有用性が注目されています。当部門では、これまでに作出した遺伝子組換えウサギを用いて、実際に動脈硬化や肥満といった生活習慣病の病態解析などの研究に寄与してきました。近年では、遺伝子組換えウサギの開発だけでなく、これら遺伝子組換えウサギを研究資源として保存するために、ウサギ精子や胚による凍結保存に関する研究も行っています。

3. 習得可能な知識・技術

- 1) 実験動物学、発生工学および生殖工学に関する知識
- 2) 実験動物の取扱い、ウサギ精子および胚の操作法、遺伝子解析技術、タンパク解析技術

4. 指導方針・目標

動物福祉に配慮した実験動物の取扱いならびに法律、規則等に則った動物実験を理解し、疾患モデル動物開発のための発生工学、生殖工学的手法等を習得する。

5. 問い合わせ・連絡先

北嶋准教授：kitajims@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2430（内線 2430）

部屋番号 総合分析実験センター 生物資源開発部門
（旧動物実験施設）2階准教授室

事務室：TEL 直通 34-2431（内線 2431）

薬 剤 部

1. 研究・教育スタッフ

藤戸 博（教授），中野 行孝（准教授）

2. 研究テーマ

薬物の体内動態を把握するために必要な薬物微量測定法を開発し、これを利用して得られたデータを、臨床での医薬品の適正使用に応用する。

- 1) 蛍光ラベル化剤を用いた液体クロマトグラフィーによる医薬品の微量定量の開発とその臨床応用
- 2) 液体クロマトグラフィーによる生体内成分の測定法の開発とその臨床応用
- 3) 他の分野との共同研究

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

医薬品の全般的な知識（作用機序，体内動態，薬物相互作用，重大な副作用，禁忌・警告など），医薬品の構造活性相関の知識，各種機器分析法についての知識，未知化合物の赤外分光光度計・紫外可視分光光度計，核磁気共鳴（NMR）測定装置・質量分析装置による構造決定の知識

2) 技術

赤外分光光度計・紫外可視分光光度計，核磁気共鳴（NMR）測定装置の測定技術，液体クロマトグラフィー分析測定技術，液体クロマトグラフィー質量分析測定技術

4. 指導方針・目標

医薬品についての幅広い基礎知識を身につけ，薬物動態の研究を通して，医療における薬物療法に貢献できる人材の育成を目標とし，そのために必要な研究能力や技術の習得のためにマンツーマンでの指導を行う。

5. その他

薬剤師免許取得者については，医療現場における問題点を意識し，研究テーマにつなげるために，薬学部医療系の大学院生が行っている病院での実務実習に準じた実習を薬剤部などで行うことができる。

6. 問い合わせ・連絡先

藤戸 教授：fujito@cc.saga-u.ac.jp
 TEL 直通 34-3161（内線 3161）
 部屋番号 病院 1 階薬剤部部長室
 研 究 室：TEL 直通 34-3164（内線 3164）

総 合 診 療 部

1. 研究・教育スタッフ

小泉 俊三（教授）、江村 正（准教授・卒後臨床研修センター専任副センター長）
小田 康友（准教授・地域医療科学教育研究センター）、
江口有一郎（講師）、副島 修（助教）、吉岡 経明（助教）、松永 諭（助教）

2. 研究テーマ

- 1) 臨床疫学に基づく診断プロセスの臨床的および認知心理学的検証
事前確率、事後確率の考え方を応用した診断困難例の解析
診断プロセスにおける心理学的落とし穴とバイアスの分析
- 2) 診療記録調査による各種診断検査データの有用性に関する研究
症状・身体所見情報の有用性についての臨床疫学的研究
診断プロセスの標準化と臨床的診断能力の関連についての研究
- 3) 総合外来における患者の受療行動と満足度に関する調査
患者の「解釈モデル」に関する調査
患者の症状発現における「心理的要因」の関与についての研究
かかりつけ医への不満と総合外来受診にいたる受療行動に関する研究
外来実習を行う医学生の資質と学生に接した患者の満足度についての調査
- 4) 医療の安全と質向上につながる医師の職業意識（プロフェッショナリズム）に関する調査
- 5) 医学生・研修医の基本的臨床能力の教育に関する調査研究
OSCE（客観的臨床能力試験）の有用性と妥当性に関する研究
医学教育における模擬患者の役割についての調査研究
- 6) 根拠に基づく医療（EBM）実践のための環境整備に関する研究
医学生（高学年・低学年）に対する EBM 教育の有効性に関する研究
研修医を対象とした EBM 普及のための教育プログラムに関する研究

3. 習得可能な知識・技術

1) 知識・能力

総合医療論（医療科学）：臨床疫学（EBM）、保健医療行動科学、臨床倫理学
総合診療医学：地域包括医療（プライマリ・ケア）、家庭医療、一般内科学、医療の安全と質向上
医学教育学：OSCE（客観的臨床能力試験）、PBL（問題基盤型学習）などの方法論

2) 技術

疫学・生物統計学の基礎、社会調査方法論の基礎、小グループ学習などの成人教育技法、行動科学、質的研究方法論の基礎

4. 指導方針・目標

個人の問題意識を尊重、海外での調査・研究活動も積極的に奨励している。

5. 問い合わせ・連絡先

小泉教授：koizums@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-3239

研究室：TEL 直通 34-2391, 2390, 2392

医局事務：TEL 直通 34-3238

部屋番号 病院 2 階総合診療部医師室

看護基礎科学講座

1. 研究・教育スタッフ

看護機能形態学

河野 史（教授）

看護援助学

井上 範江（教授），分島 り子（助教），古島 智恵（助教）

2. 研究テーマ

看護機能形態学

主たる研究分野

- ・中枢神経における自律神経回路の機能形態学的研究
- ・内臓を支配する神経の機能形態学的研究
- ・看護の基礎的研究一般

看護援助学

主たる研究分野

- ・生活援助技術およびコミュニケーションにおける生理・心理学的影響
- ・看護ケアの質に関する研究（患者および家族の心理と QOL，看護師と患者・家族の人間関係）
- ・ケア社会における看護の教育的機能
- ・看護教育に関する研究

3. 問い合わせ・連絡先

河野 史教授：kawanoh@cc.saga-u.ac.jp

TEL&FAX 直通 0952-34-2531（内線2531）

部屋番号5302

井上範江教授：inouen@cc.saga-u.ac.jp

TEL&FAX 直通 0952-34-2532（内線2532）

部屋番号5304

成人・老年看護学講座

1. 研究・教育スタッフ

急性期看護学分野：安田加代子（准教授），末次 典恵（講師），高野 陽子（助教）

慢性期看護学分野：大田 明英（教授），古賀 明美（准教授），赤木 京子（助教），
松藤 彩（助教）

老年看護学分野：藤田 君支（教授），田淵 康子（准教授），仙波 洋子（助教）

2. 研究テーマ

成人期にある患者の急性期・慢性期の療養生活とケアについて、また疾病予防の観点から対象者の価値観や信念、生活習慣、生活体験に着目したテーマについて研究を行っている。さらに、要介護高齢者の看護ケアについて研究を行っている。

- 1) ストレス関連疾患におけるストレス不適応についての基礎的研究と看護介入（大田）
- 2) 臨床免疫学，人類遺伝学（とくに膠原病や遺伝性疾患の患者および家族の QOL に影響を与える要因の研究）（大田）
- 3) 関節炎患者および要介護高齢者の QOL に関する研究（藤田）
- 4) 糖尿病の自己管理に関する研究
 - ・糖尿病における患者教育を重視した教育方法の開発に向けた基礎的研究（藤田，安田，古賀）
 - ・成人糖尿病患者の食事管理に影響する要因と自己効力感（藤田）
 - ・糖尿病患者の QOL に影響を及ぼす要因（安田）
 - ・受診中断中にある糖尿病患者の療養生活および治療の認識（古賀）
 - ・インターネットを活用した自己管理支援に関する研究（古賀）
- 5) 循環器疾患患者の QOL 向上をめざした看護介入のための基礎的研究（安田）
- 6) 手術を受ける患者の睡眠と QOL に関する研究（田淵）
- 7) 認知症高齢者の看護に関する研究（田淵）

3. 習得可能な知識・技術

成人・老年看護学部門では，成人・老年期にある患者および家族の生活を多角的に理解し，それを支えるための看護に関する理論と実践を探究するとともに，関連する種々の問題を解決するための研究方法を習得する。さらに，関連する国内外の研究論文を毎週定期的に抄読することで，看護における最先端の研究内容を把握できるようになるとともに，科学的な視点で論文を批評する能力を身につけることができる。

4. 指導方針・目標

看護は実践する科学であるという前提のもとに，教育・研究の指導を行っている。とくに研究面においては，研究の面白さを知り，意欲的に研究を実践するための基礎能力を養うことを目標としている。また，個々の院生の興味・関心を高めるために，研究テーマの選択と方法においてはできるだけ自主性を持たせるようにしている。本講座では，教員全体による研究検討会を定期的に行うことによって個々の研究体制を支援しており，指導教授による個別で密な研究指導と相まって，世界に発信できるような一流の研究を行える研究環境（指導体制）作りを目指している。実際に，毎年数名ずつの看護学修士を輩出しているが，その成果の多くは国内外の一流の看護学・医学雑誌に研究論文として掲載されている。上記のように各分野，教員ごとに研究の対象者や対象疾患，テーマは異なるが，共通しているのは，①

成果が看護の実践に還元できる，②現在の看護学に即した内容であること（update なるものであること），③世界的なレベルであり得ること，の観点で研究テーマを設定していることである。

5. 問い合わせ・連絡先

大田明英教授：ohtaa1@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2541（内線2541）

部屋番号5402

研究室：TEL 直通 34-2548（内線2548）

藤田君支教授：fujitak@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2542（内線2542）

部屋番号5404

母子看護学講座

1. 研究・教育スタッフ

母性看護学：齋藤ひさ子（教授）、永松 美雪（講師）、中河 亜希（助教）

小児看護学：幸松美智子（准教授）、井手 紀子（助教）

2. 研究テーマ

女性と子どもの健康について、セクシャル&リプロダクティブヘルスの視点、ライフサイクルの視点、マタニティサイクルの視点、family-centeredなどの視点から対象を多角的にとらえ、看護研究を進めている。

- 1) 女性と家族の健康生活援助に関する研究（齋藤）
- 2) 女性のライフサイクルと identity に関する研究（齋藤）
- 3) 女性の保健行動とヘルスプロモーション（齋藤）
- 4) 父親に関する研究（齋藤）
- 5) 祖父母に関する研究（齋藤）
- 6) マタニティサイクルにおける母子と家族のケアに関する研究（齋藤）
 - ・育児に対する自信を高める看護（中河）
- 7) 子どもと家族に関する研究（幸松）
 - ・病気をもつ子どもと家族への看護について（幸松）
 - ・母親の育児不安と抑うつについて（井手）
 - ・夫婦関係と母親の子どもに対する衝動的行動について（井手）
- 8) 思春期の親子関係と健康教育に関する研究（永松）

3. 習得可能な知識・技術

母子看護学部門では、関連する国内外の文献を抄読し、女性と子どもおよび家族の健康問題を多角的に理解する視点を養成する。健康を支えるための看護理論と実践方法を追求し、問題解決に導くための研究方法を習得する。対外的な評価に耐えることのできる創造的研究を模索し、科学的思考と研究成果の質的向上を図りながら、基礎的研究実践能力を身につけることができる。

4. 指導方針・目標

看護研究による知見は看護実践に新しい情報を提供し、社会や自分自身をも変える力を持つという考えに立脚し教育・研究の指導を行う。多くの学生が初めての研究過程を経験するため、研究テーマの選択と方法においてもできるだけ自主性を尊重し、主体的な態度や関心をもって研究に取り組めるよう指導する。地域社会への貢献を目指した特色ある研究を推進し、得られた成果の社会への還元を行う。また、指導教授を含んだ教員全体による研究の支援をしている。

5. 問い合わせ・連絡先

齋藤ひさ子教授：saitohi@cc.saga-u.ac.jp

TEL 直通 34-2550（内線2550）

部屋番号5504

地域・国際保健看護学講座

1. 研究・教育スタッフ

新地 浩一（教授），有吉 浩美（教授），村久保雅孝（准教授），木村 裕美（准教授），
山川 裕子（准教授），吉水 清（助教），神崎 匠世（助教），藤本 裕二（助教）

2. 研究テーマ

- 1) 国際緊急医療援助活動に関する研究
- 2) 災害医療・国際保健医療に関する研究
- 3) 職場におけるメンタルヘルスに関する研究
- 4) 地域における介護予防のための生活支援事業の検討に関する研究
- 5) 働く人々の健康に関する研究
- 6) 在宅ケアマネジメントに関する研究
- 7) 介護保険制度に関する研究
- 8) カウンセリングないし心理療法に関する実践的研究

3. 習得可能な知識・技術

それぞれの研究テーマに沿って，先行研究を参考に科学研究論文としてまとめてゆく過程を習得する。

4. 指導方針・目標

これからの国際化社会，高齢化社会における看護学の発展に寄与できるように，研究基盤を身につける。

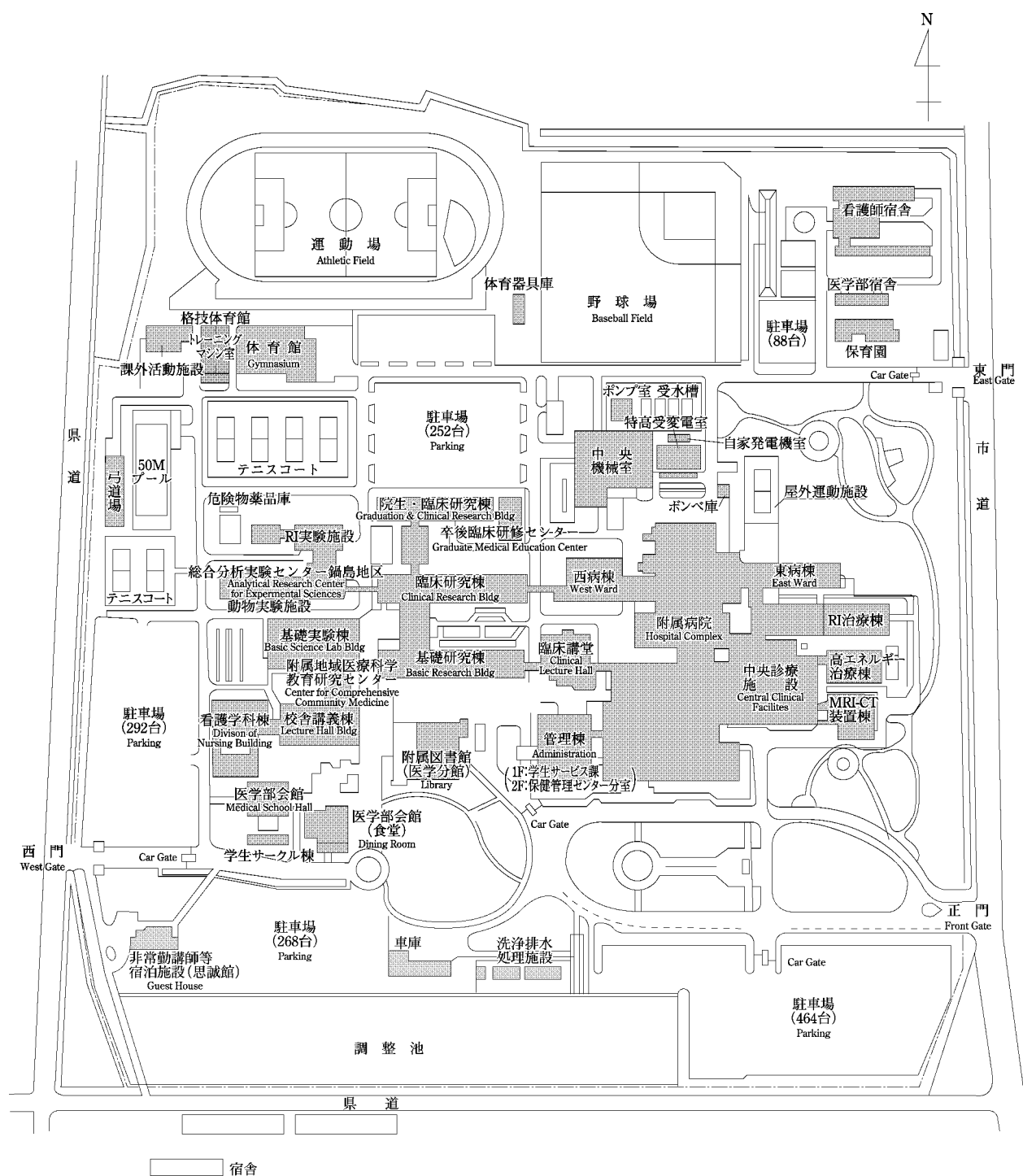
5. 問い合わせ・連絡先

新地浩一教授：shinchik@cc.saga-u.ac.jp

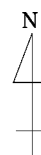
TEL 直通 34—2564（内線2564）

部屋番号5606

IV 佐賀大学医学部建物配置図



院生棟，臨床研究棟，基礎研究棟平面図

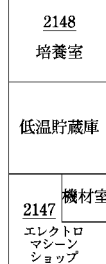


分子生命科学

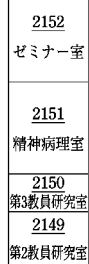


院生棟

分子生命科学



分子生命科学



総合診療部

精神医学

精神医学

放射線医学



臨床研究棟

精神医学

放射線医学



生体構造機能学

病因病態科学



基礎研究棟

生体構造機能学

病因病態科学

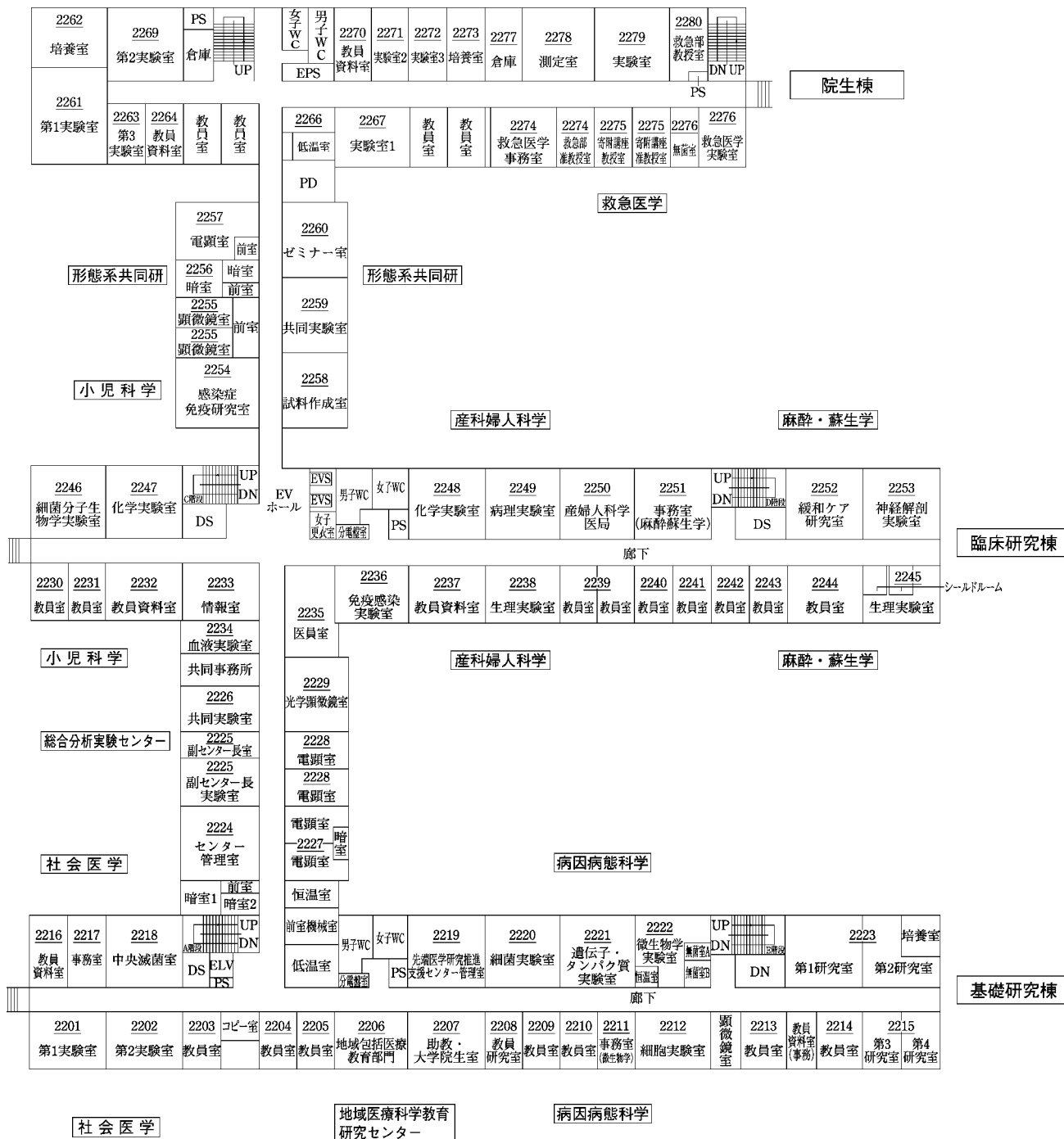
1 階



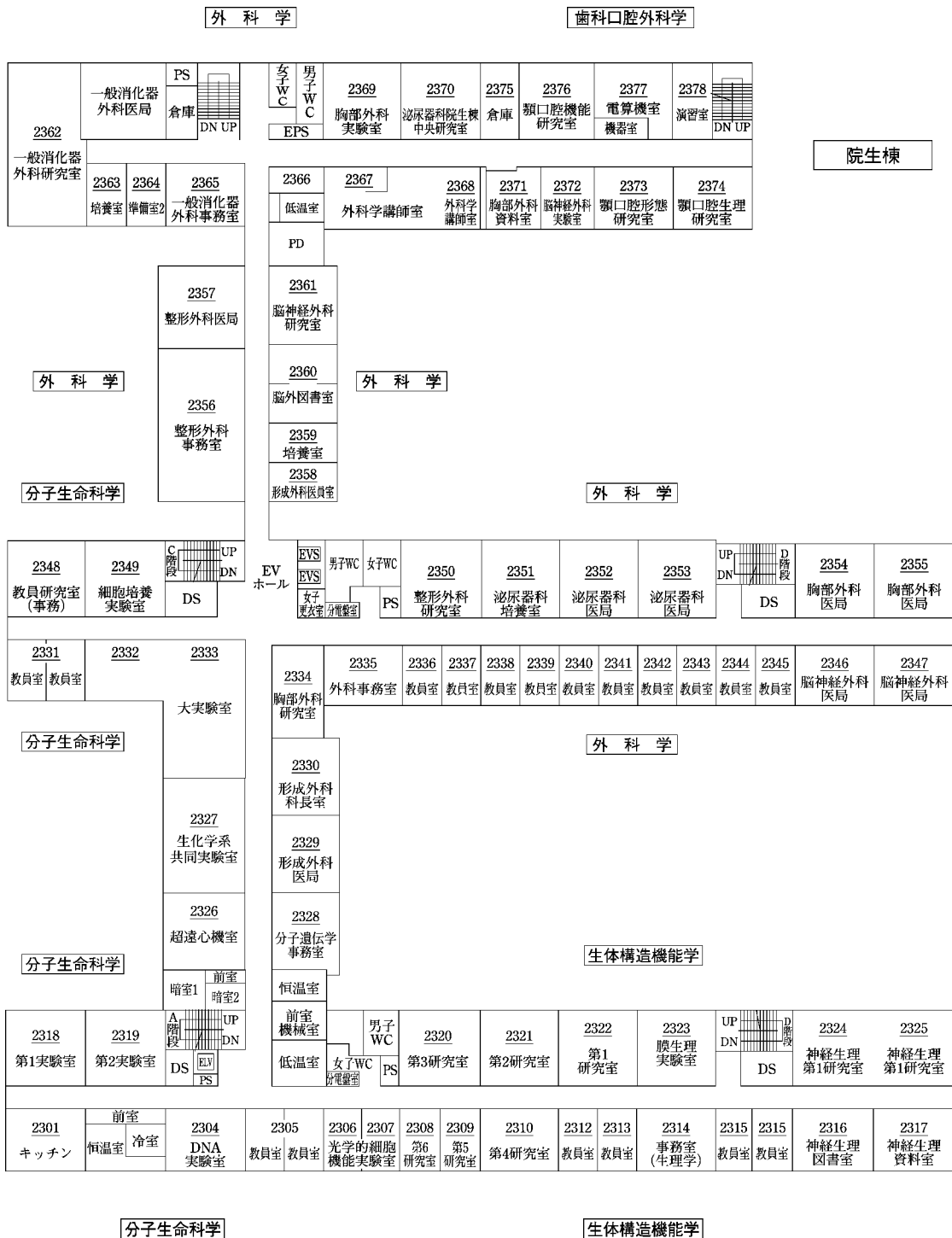
生物学

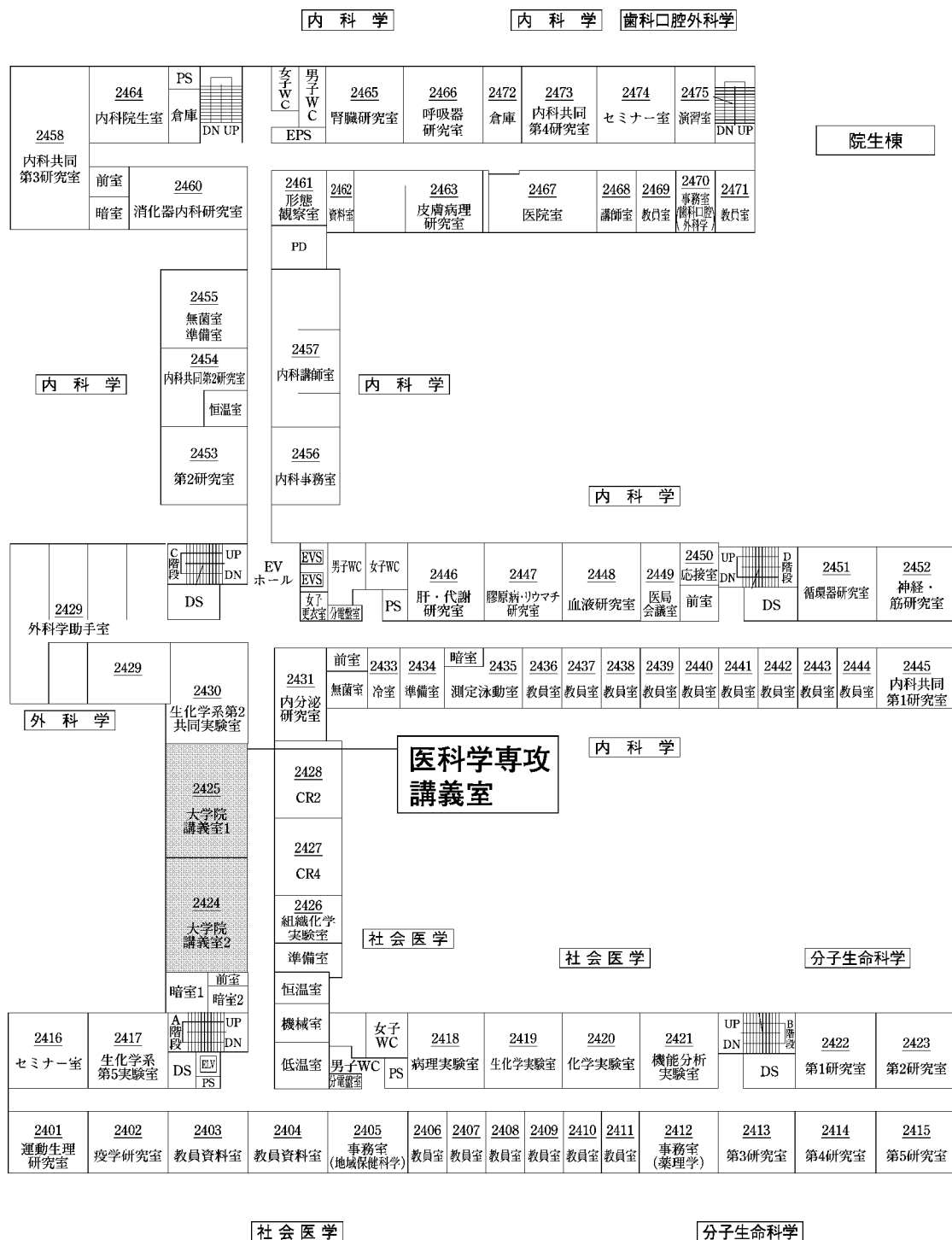
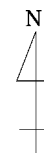
化学

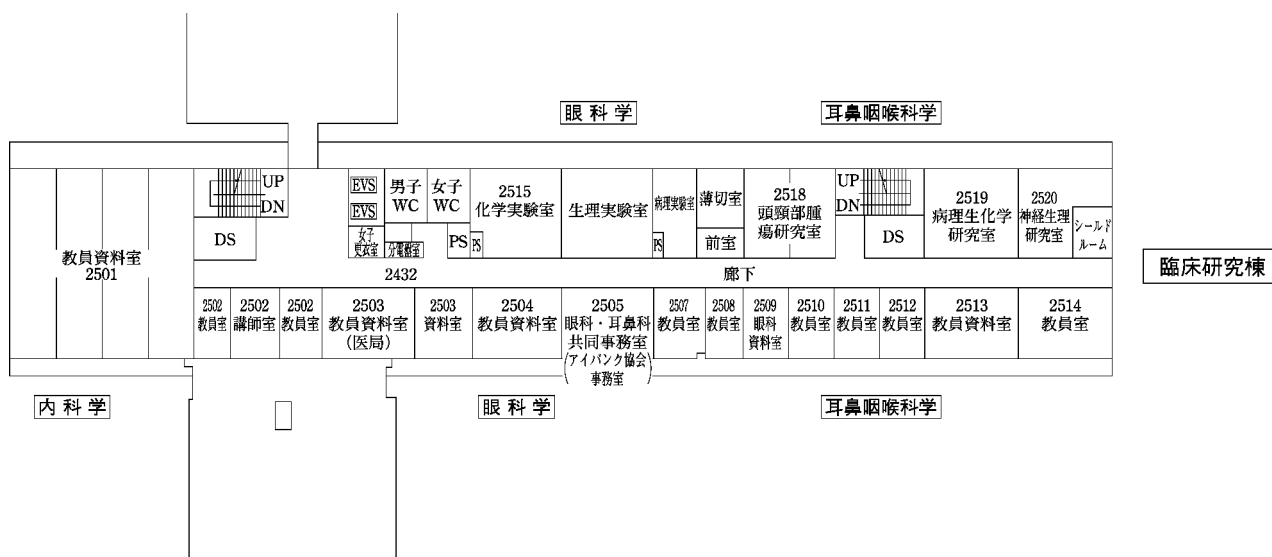
救急医学



2階

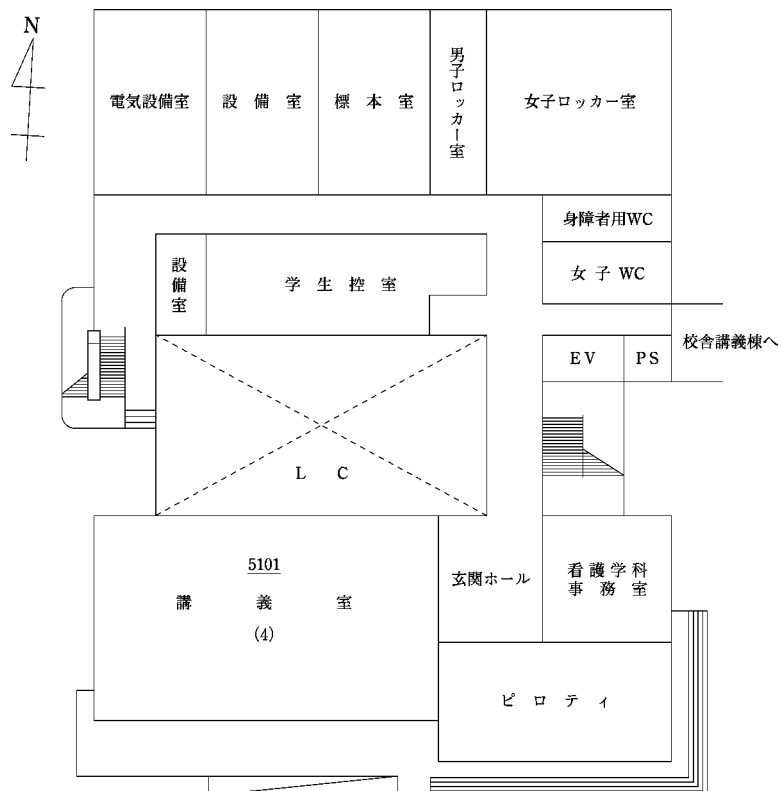




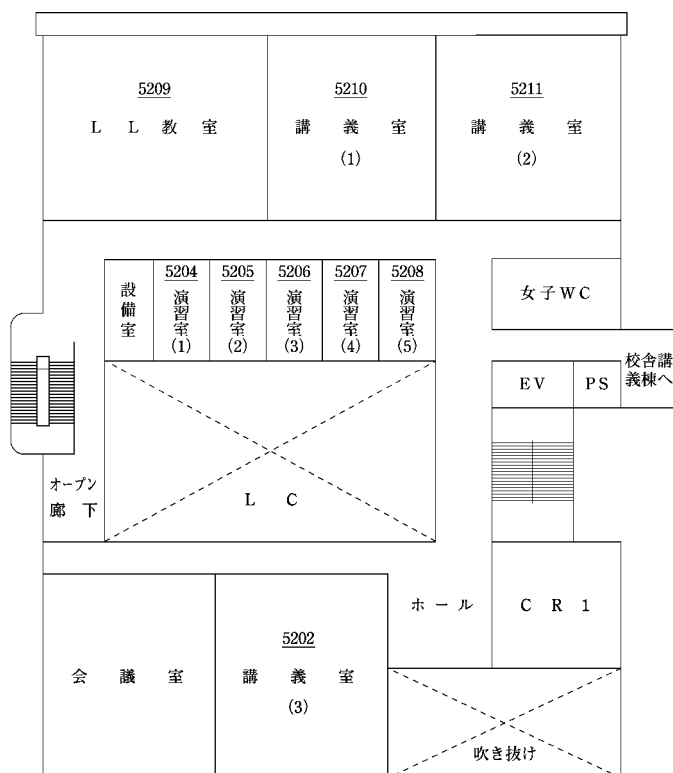


5階

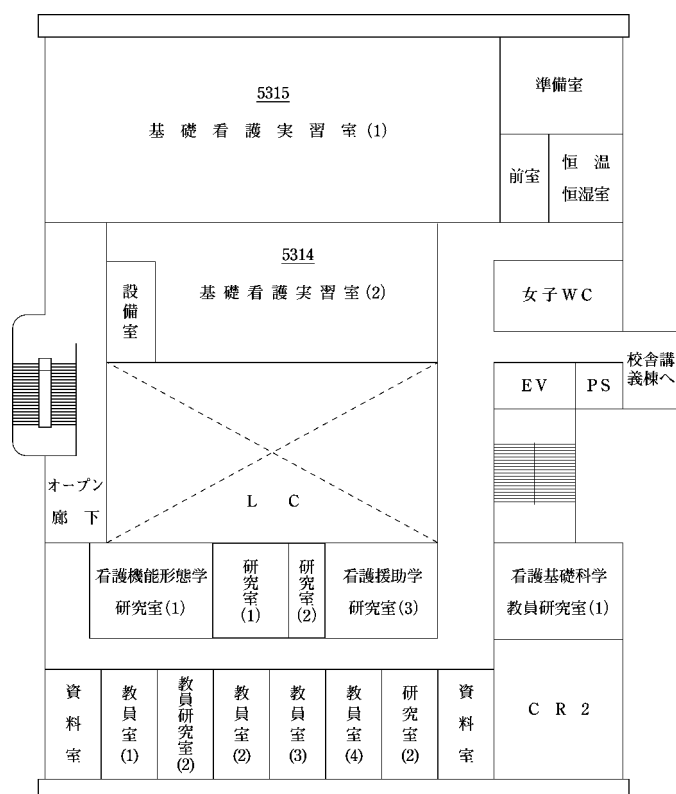
看護学科棟平面図



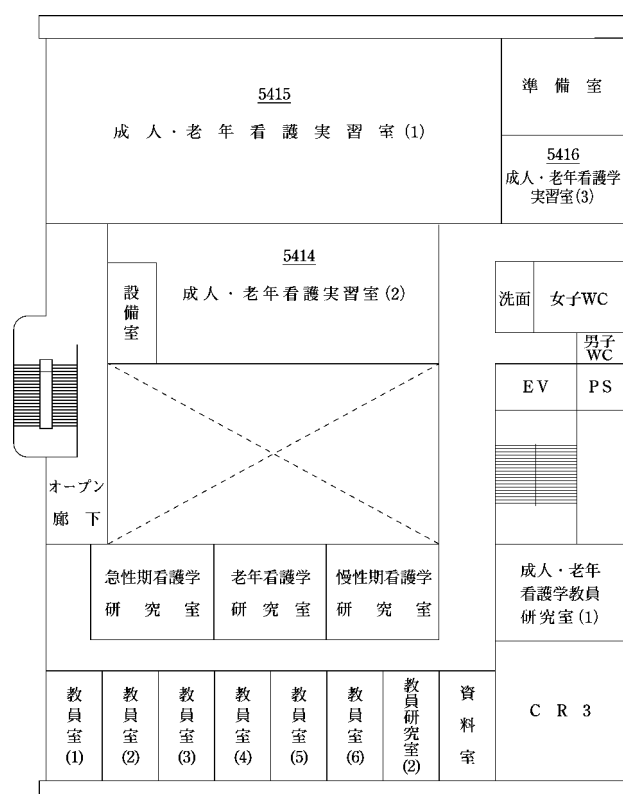
1 階



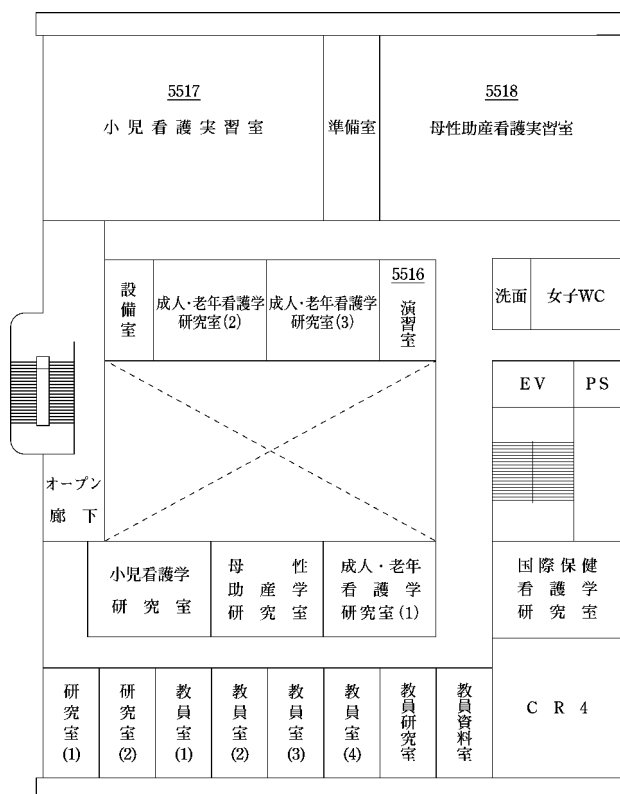
2 階



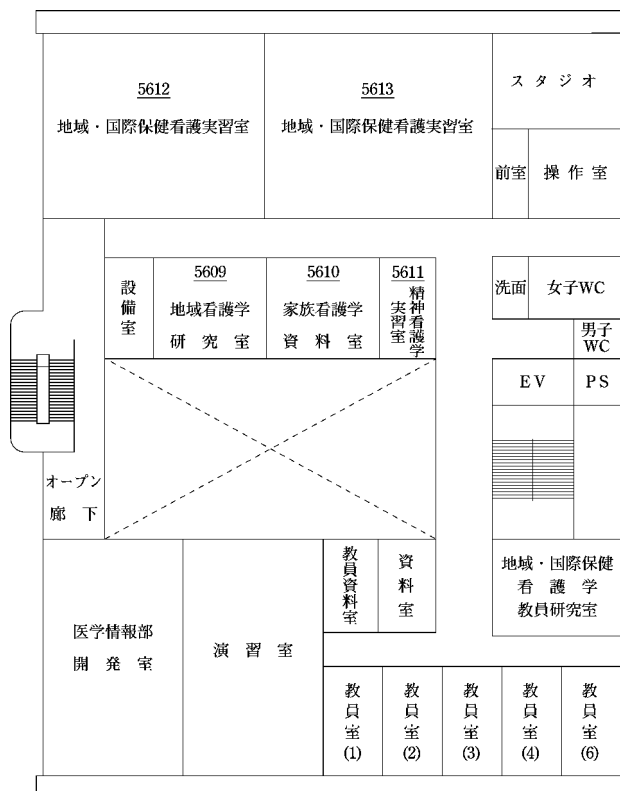
3階



4階

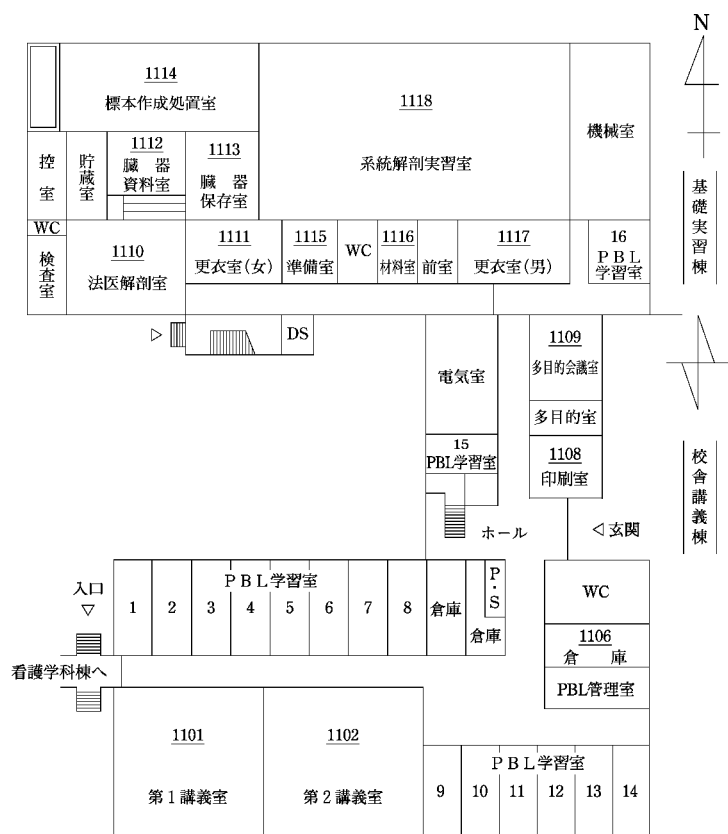


5階

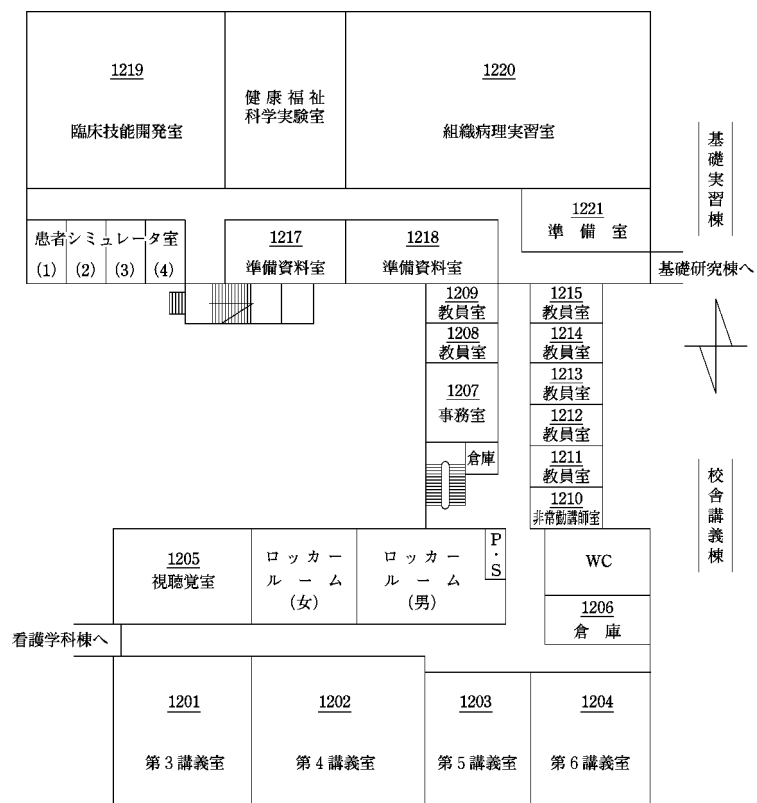


6階

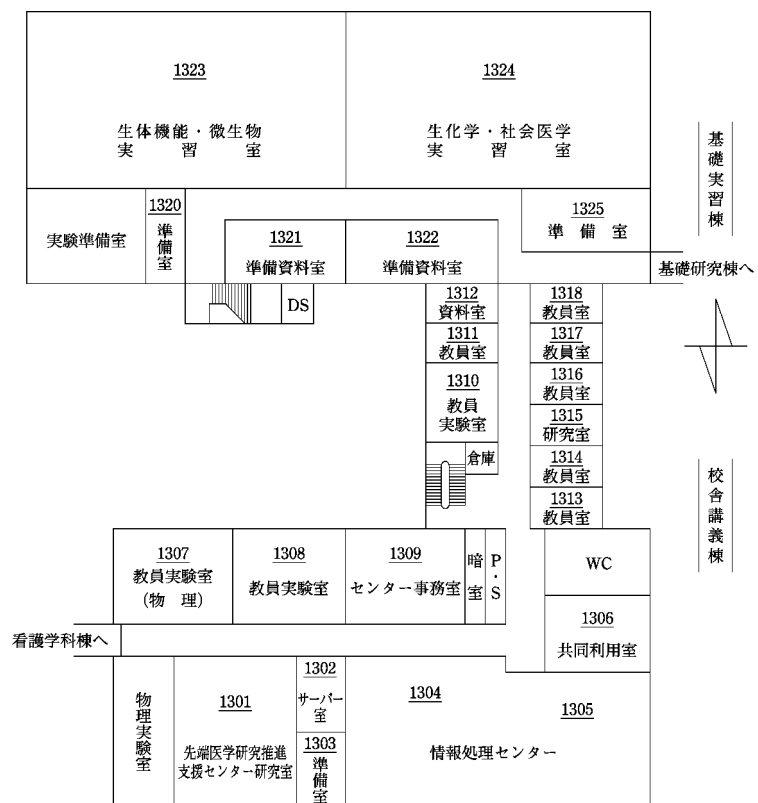
校舎講義棟平面図



1階

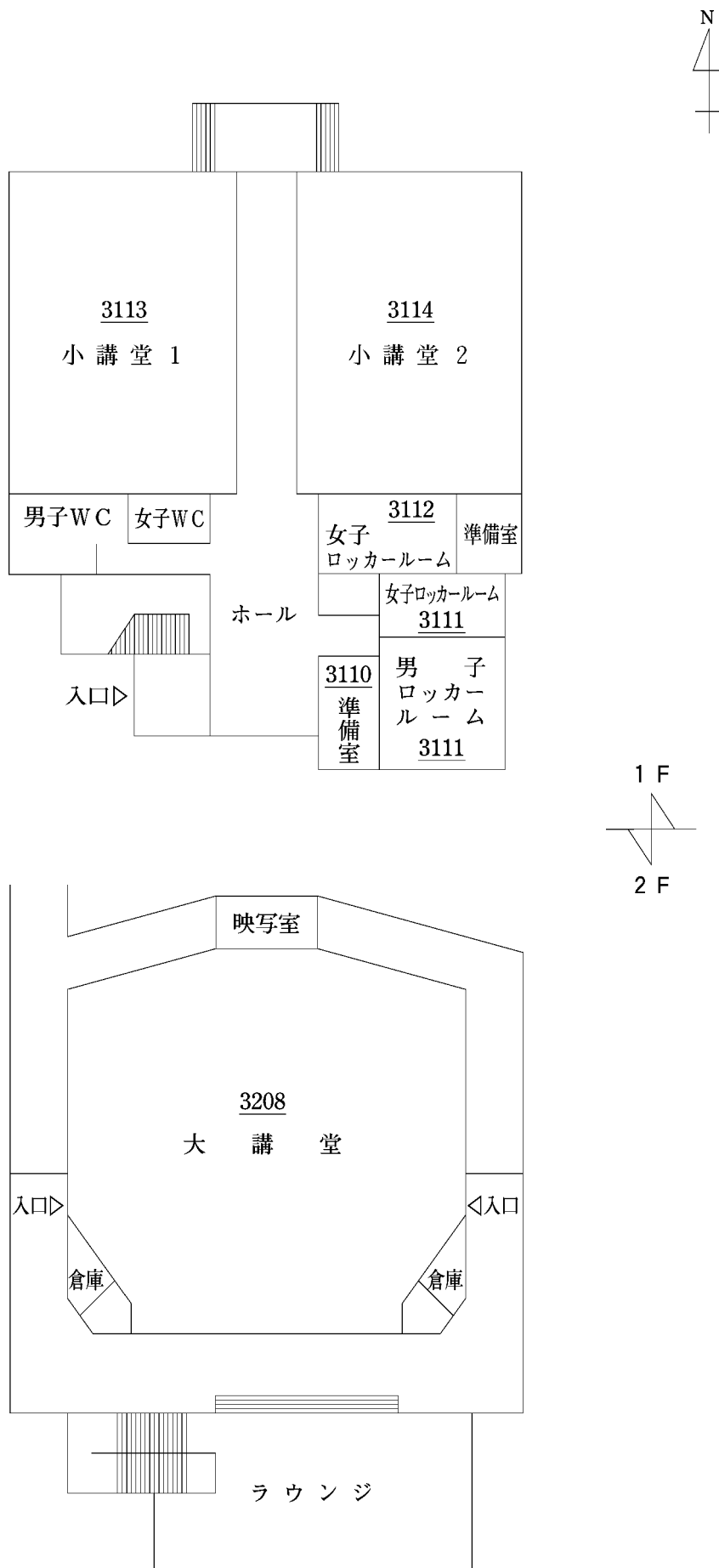


2階

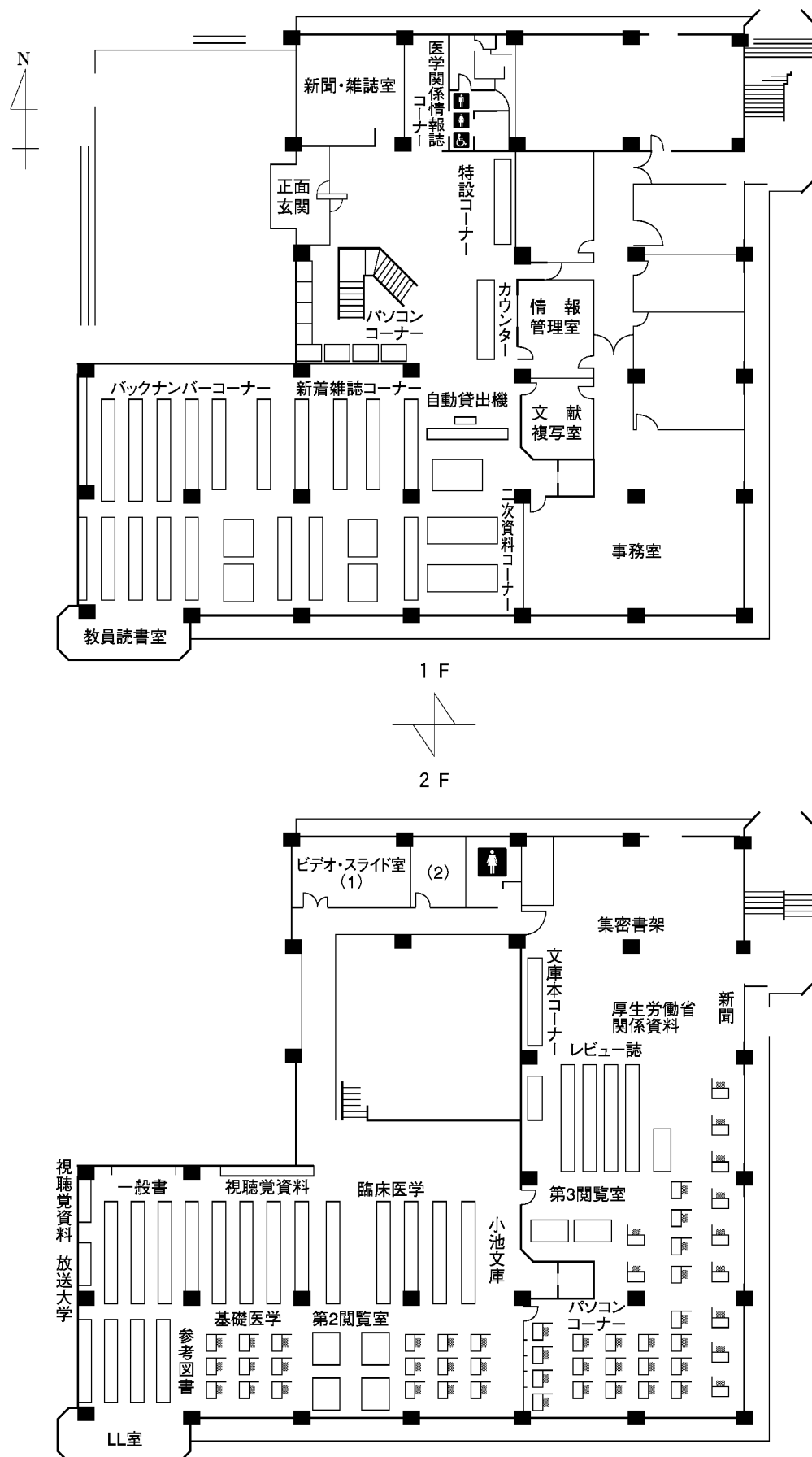


3階

臨床講堂平面図



附属図書館平面図



附属病院各診療科等配置図

